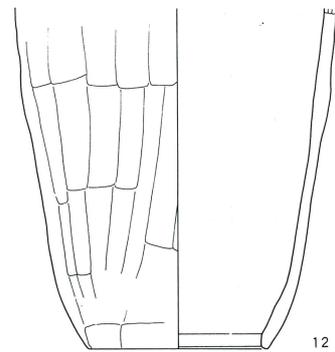
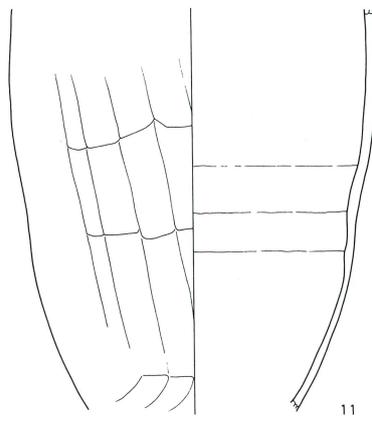
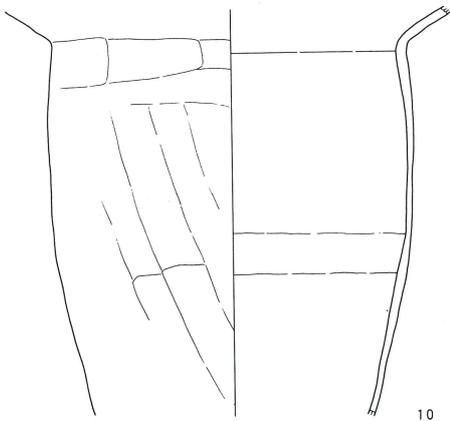
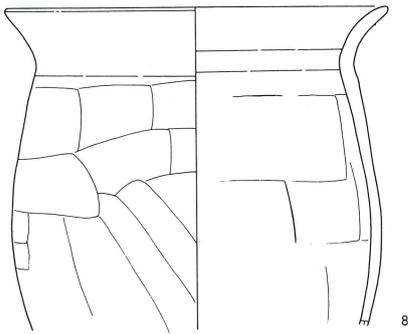
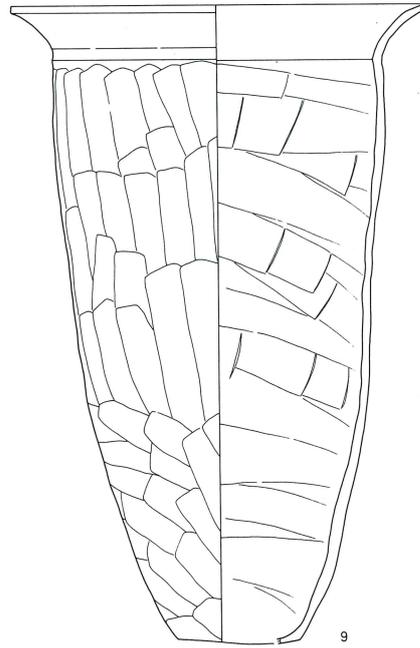
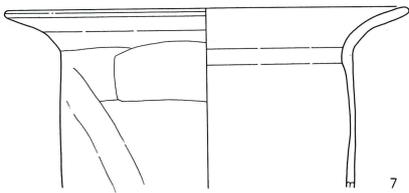
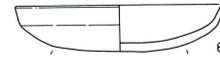
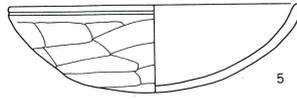
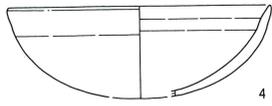
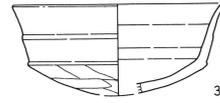
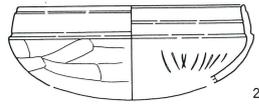
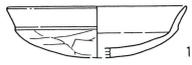


第142図 第91号住居跡出土遺物

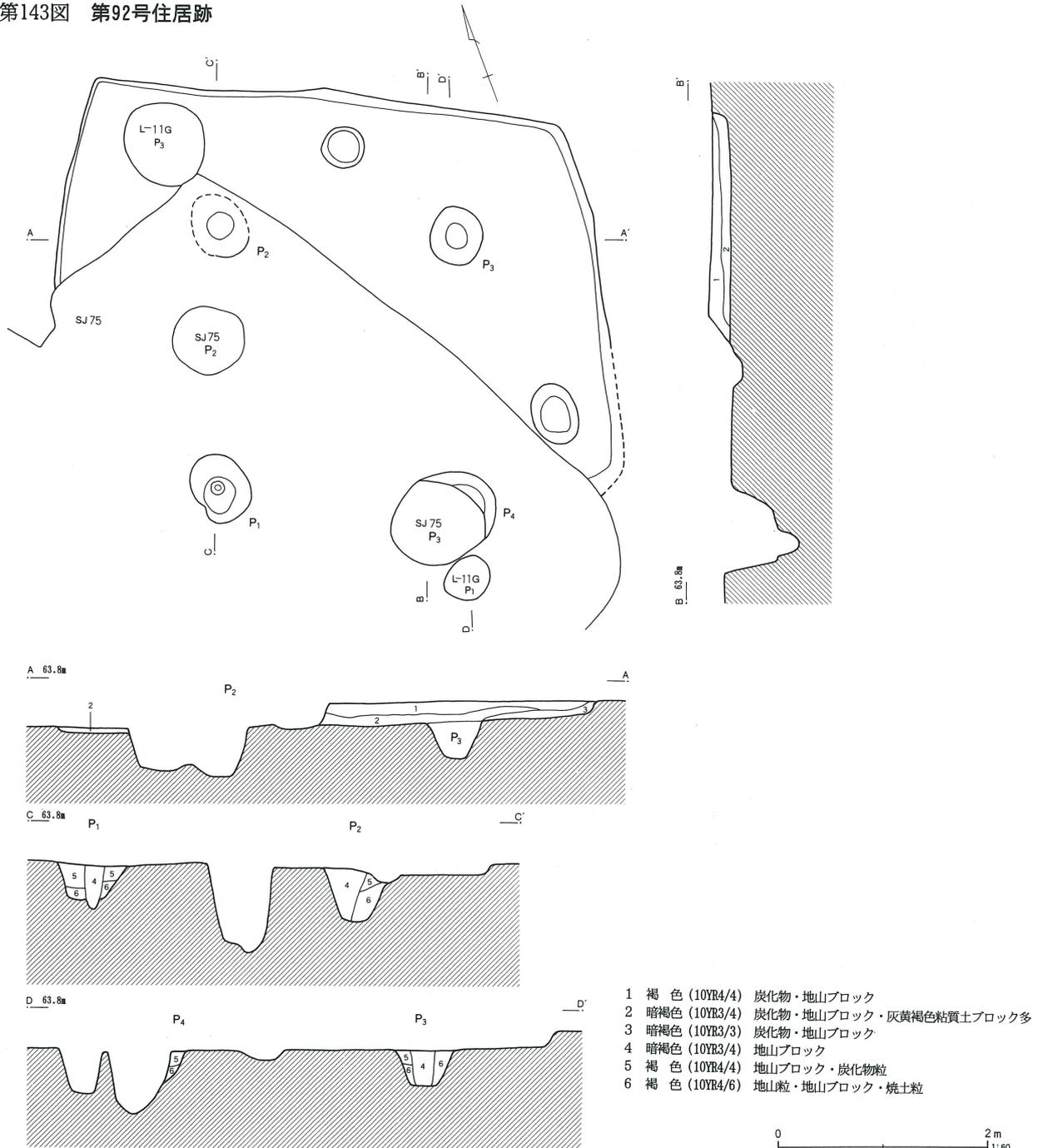


0 10cm
1:4

第91号住居跡出土遺物観察表 (第142図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(9.4)	2.8		D J	不良	橙	70	C区	器壁磨耗
2	坏	(12.0)			J	良	浅黄橙	10	B区	底部内面磨き
3	坏	(11.2)			B D E J	良	黒褐	30	P 4	
4	坏	(13.8)			D E	普通	橙	15	C区	体部外面整形不明
5	坏	15.2	4.7		D E J	普通	橙	50	No1	床+6cm
6	坏	(10.8)	2.4		B D	不良	橙	45	貯蔵穴	貯蔵穴 器壁磨耗し整形不詳
7	甕	(21.0)			D E G	不良	にぶい橙	15	No5	カマド
8	甕	20.1			B D J	普通	橙	45	No6	カマド 外面上位←方向 下位↑方向 ヘラ削り
9	甕	(22.0)	33.7	6.4	A B E J L	不良	にぶい褐	80	No5・6・A区	カマド
10	甕				D E J	普通	橙	40	No2・B区	カマド
11	甕				D E	普通	橙	85	No2	カマド
12	甑			9.5	E G J	普通	橙	50	No1	カマド

第143図 第92号住居跡



第92号住居跡 (第143図)

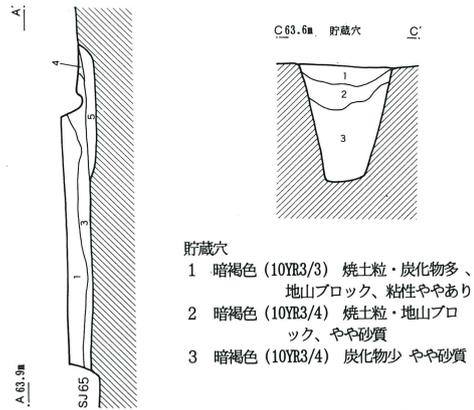
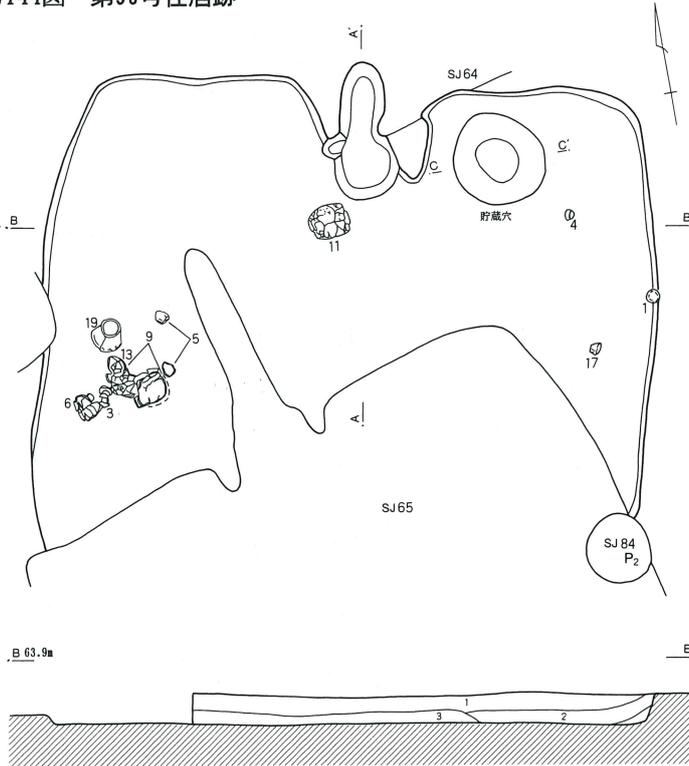
L-11グリッドに位置する。南西半を第75号・第76号住居跡に切られ、第114号住居跡を切っている。平面は、軸長3.50m以上×5.20m、深さ20cm程を測る。主軸方位は長軸を基準として、N-68°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

柱穴は4本の支柱穴が検出された。径50~64cmの円形で、深さ34~48cmを測る。ピット1・3は柱痕が確認できた。

遺物は、土錘、土師器片が出土した。

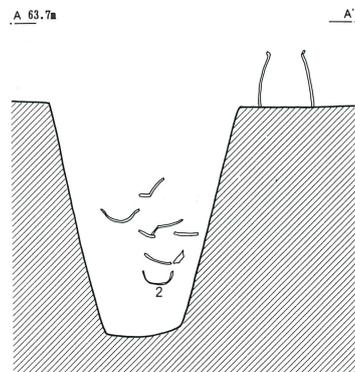
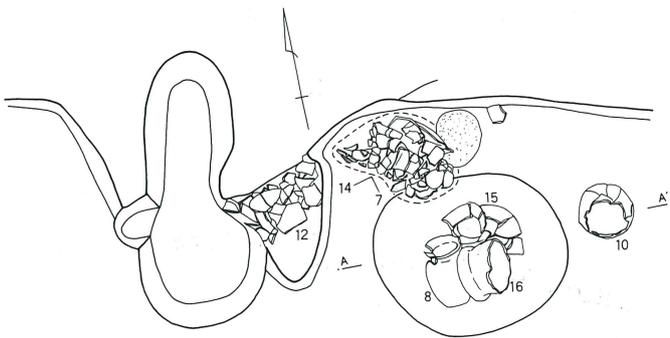
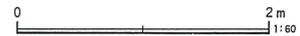
第144図 第93号住居跡



貯蔵穴

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒・炭化物多、地山ブロック、粘性ややあり
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土粒・地山ブロック、やや砂質
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物少 やや砂質

- 1 黄褐色 (10YR5/6) 粘性ややあり
- 2 褐灰色 (10YR5/1) 地山ブロック・褐灰色粘土ブロック・炭化物多 粘性ややあり
- 3 褐灰色 (10YR5/1) 地山ブロック・褐灰色粘土ブロック多 炭化物、粘性ややあり
- 4 明赤褐色 (2.5YR5/8) 焼土層 炭化物多
- 5 黒褐色 (10YR3/2) 焼土粒・焼土ブロック・炭化物多



第92号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.28)	1.29	0.60	(2.81)	B a	にぶい黄橙	20	D区

第93号住居跡 (第144・145・146図)

M-10・11グリッドに位置する。第64号住居跡の下にあり、南半を第65号・第85号住居跡に切られている。平面は、軸長4.87m×3.40m以上、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N-8°-Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は110cm×51cmの瓢箪形を呈し、僅かに窪んでいる。

貯蔵穴は北東部に備わる。径70cm×76cmの円形を呈し、深さ93cmを測る。

遺物は、土師器坏・椀・高杯・小型甕・甕・甗が出土した。

第94号住居跡 (第147図)

L-11グリッドに位置する。第75号・第92号住居跡に南壁と東壁、第39号・第41号土坑に北壁を切られている。平面は、軸長2.20m以上×3.55m以上、深さ16cm程を測る。主軸方位は、N-62.5°-Eを指す。

カマドは、西壁に設けられている。燃焼部は85cm×40cmの長楕円形を呈し、床面から傾斜しながら上がっている。

遺物は、土師器片が出土した。

第95号住居跡 (第148・149図)

O-9グリッドを中心に位置する。第44号土坑に切られ、第133号住居跡を切っている。平面は、軸長3.79m×2.60mの長方形を呈し、深さ17cm程を測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は125cm×70cmの楕円形を呈し、僅かに窪んでいる。

遺物は、土師器坏・高杯・鉢・甕・壺、白玉、土錘が出土した。白玉は、径6.1~6.2mm、厚さ3.8~4.1mm、孔径1.6~1.8mm、重さ0.26gで覆土上位から出土した。

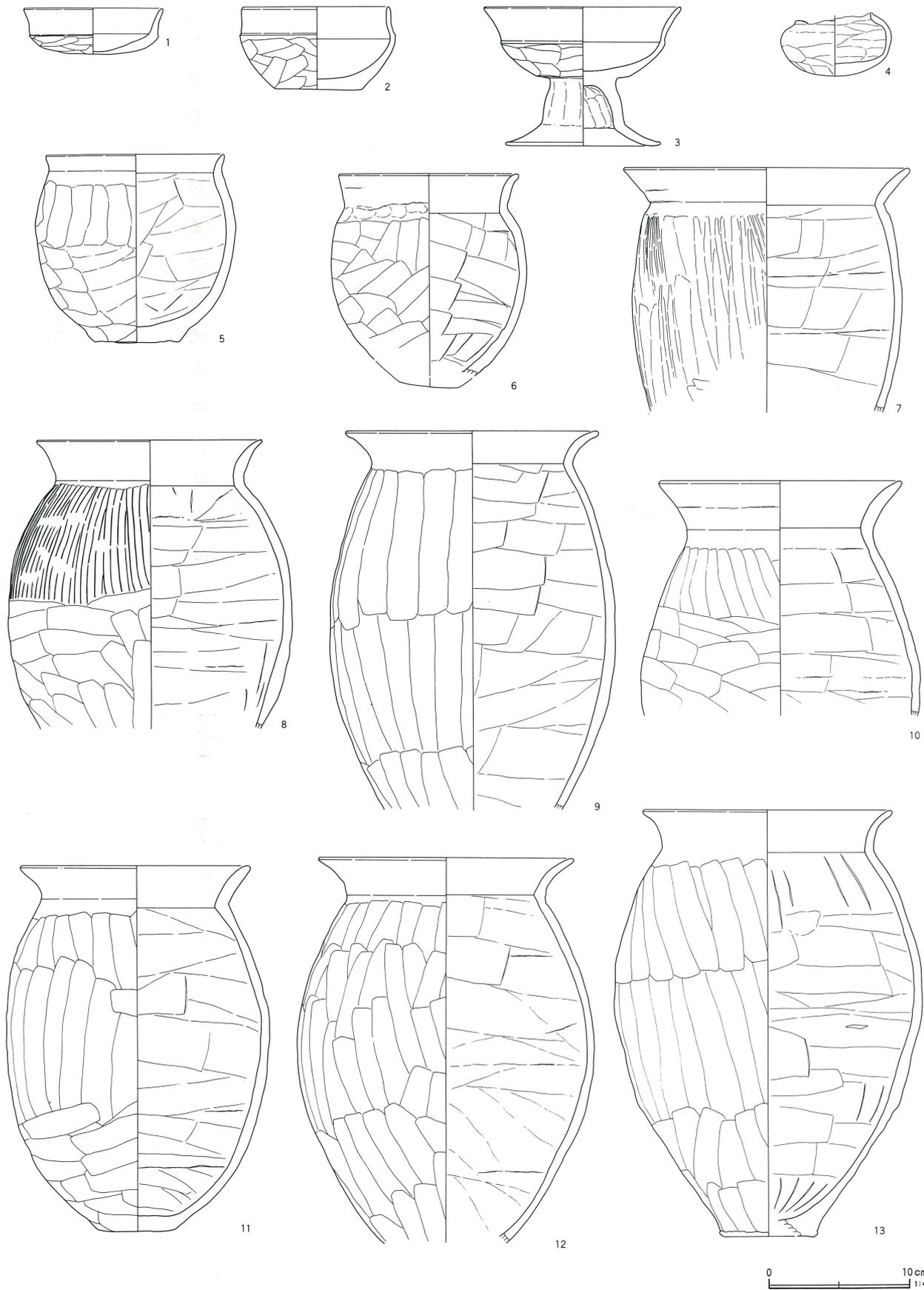
第95号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	7.57	1.92	0.52	(20.23)	B a II	灰黄褐	95	C区

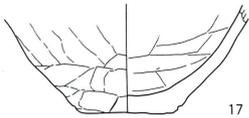
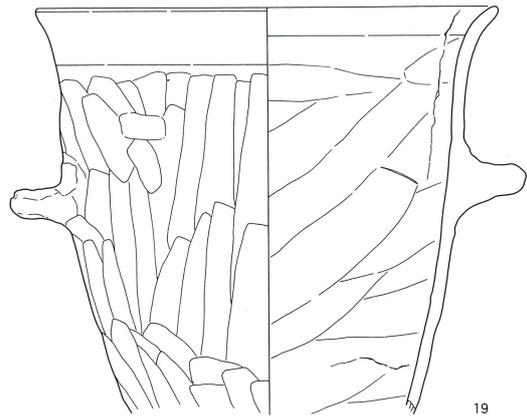
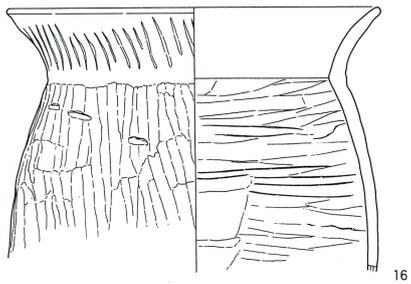
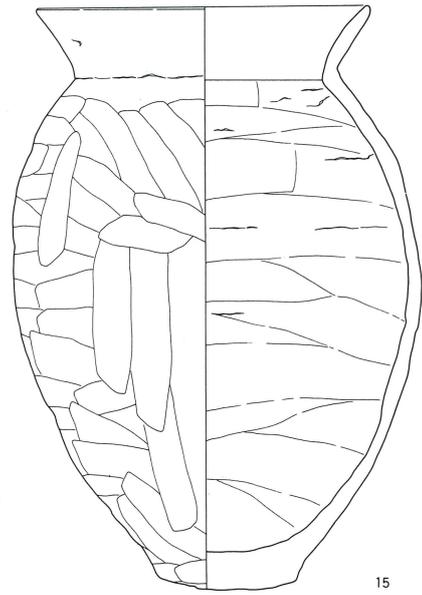
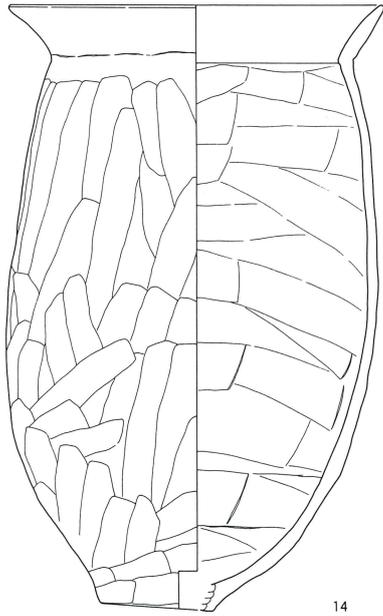
第93号住居跡出土遺物観察表 (第145・146図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	9.9	3.3		B D J	不良	橙	100	Na6	
2	椀	10.4	6.0	6.2	B E J	不良	橙	75	Na12	貯蔵穴
3	高坏	(14.0)	10.0	(11.0)	B E J L	不良	橙	40	Na18	
4	小型壺				B E J	不良	にぶい橙	100	Na5	
5	甕	(12.6)	13.5	6.0	J L	普通	にぶい橙	60	Na14・Na15 ・C区・D区	床 外面↑・←方向ヘラ削り
6	甕	12.8			B J L	不良	にぶい褐	80	Na19	
7	甕	(20.4)			B D F L	普通	にぶい褐	40	Na9	床 外面↓方向ヘラナデ削り
8	甕	16.1			B E F J L	普通	にぶい黄橙	60	貯蔵穴・貯蔵穴Na2	貯蔵穴 外面上位ヘラナデ 下位→・↓方向ヘラ削り
9	甕	18.0			B E J L	不良	にぶい黄橙	60	Na16・Na17	
10	甕	(17.2)			E F J	不良	にぶい黄橙	85	Na4	床 外面上位↓、中位←方向ヘラ削り
11	甕	(16.4)	26.2	5.4	J K L	普通	にぶい褐	80	Na11	床+4cm 外面↓・→方向ヘラ削り
12	甕	18.2			E F J L	普通	にぶい褐	60	Na10	右袖直上
13	甕	(17.6)	30.5	(7.0)	J L	普通	にぶい橙	60	Na17	外面上位↑、下位→、下端↓方向ヘラ削り
14	甕	19.8	32.1	(6.0)	J K L	普通	褐	80	Na9・D区	床
15	甕	17.6	30.9	7.2	A B E J	不良	にぶい黄褐	80	Na3	貯蔵穴 外面↑・→方向ヘラ削り
16	甕	19.7			A B J L	良	にぶい褐	100	Na1	貯蔵穴 外面↓方向ヘラナデ・磨き
17	甕			5.0	E F J L	普通	にぶい黄橙	80	Na7	床+2cm
18	甕			6.0	B E	不良	にぶい黄橙	60	D区	
19	甗	24.5			E J L	普通	にぶい黄橙	90	Na13	床+3cm

第145图 第93号住居跡出土遺物 (1)

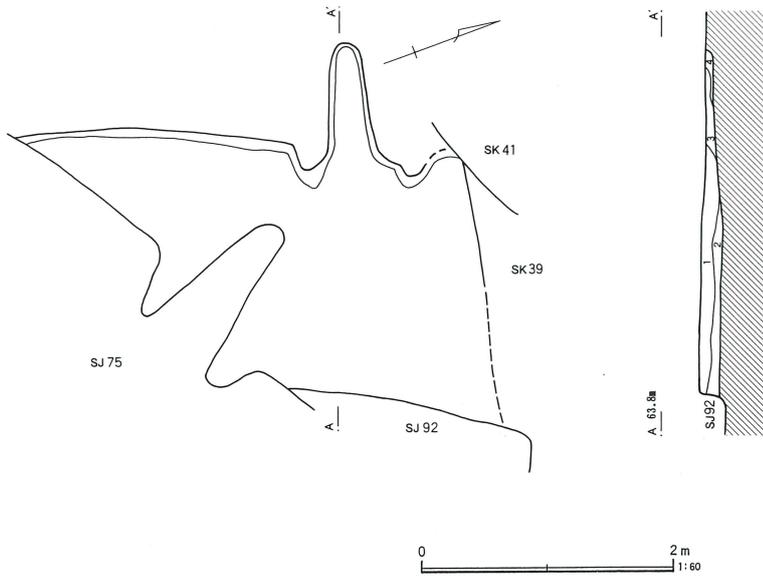


第146図 第93号住居跡出土遺物 (2)



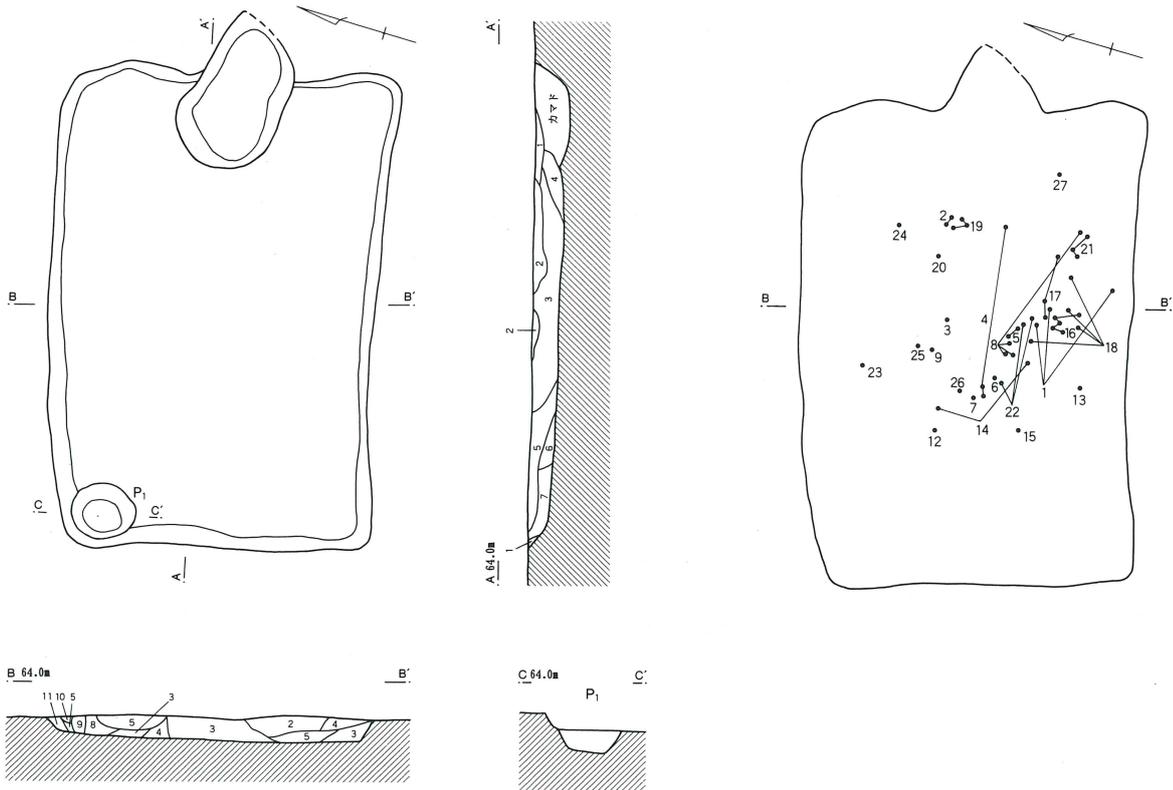
0 10 cm 1:4

第147図 第94号住居跡



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物多、地山ブロック
- 2 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、炭化物少
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック・炭化物多
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック

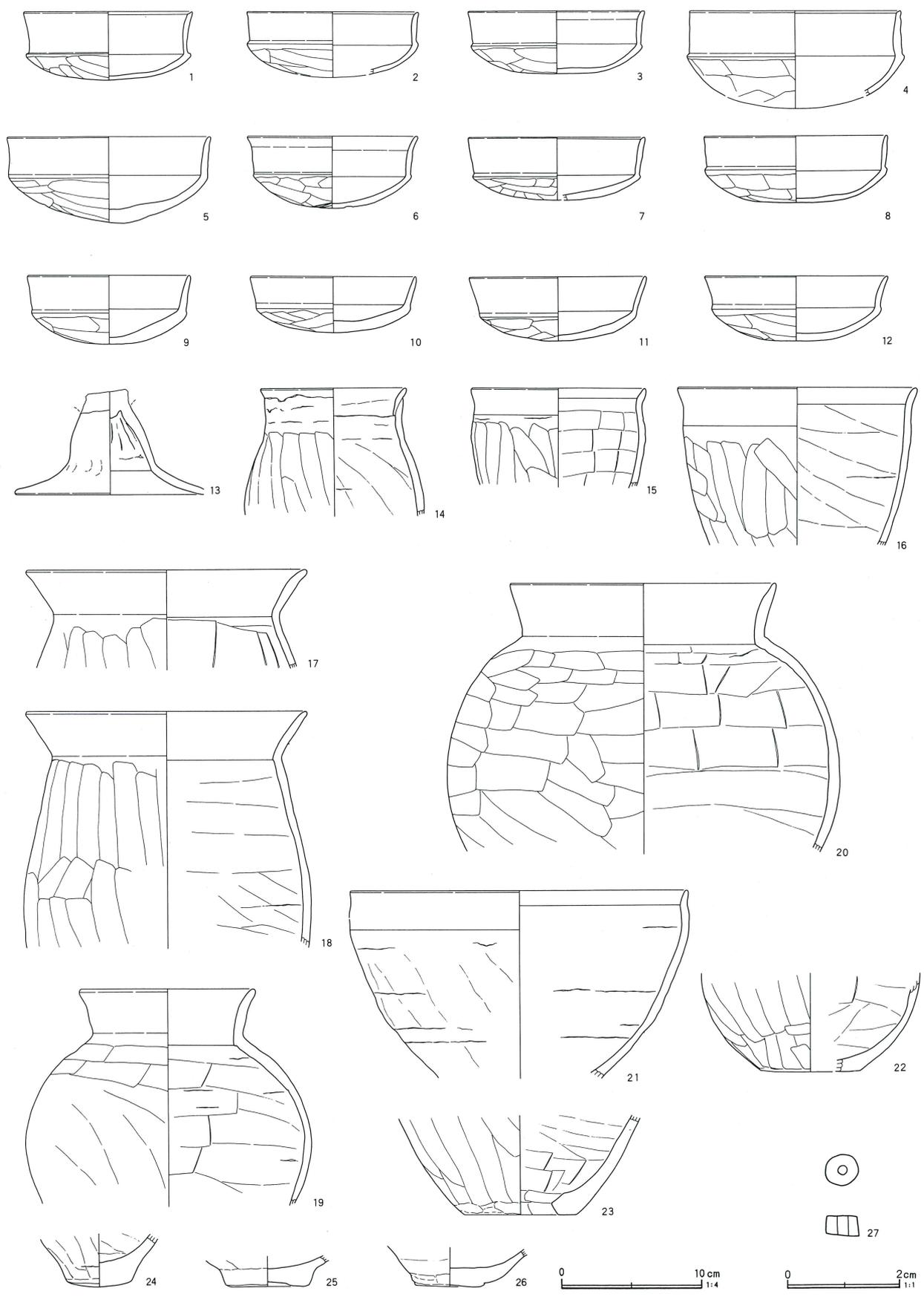
第148図 第95号住居跡



- 1 暗褐色 (10YR3/4)
- 2 黄褐色 (10YR5/6)
- 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物多
- 4 にふい黄褐色(10YR5/4) 明黄褐色土若干
- 5 褐色 (10YR4/6) 炭化物僅か
- 6 褐色 (10YR4/6) にふい黄褐色シルト多
- 7 にふい黄褐色(10YR5/4) 褐色土若干
- 8 黄褐色 (10YR5/6)
- 9 暗褐色 (10YR3/3)
- 10 褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物僅か
- 11 褐色 (10YR4/4)

P1 暗褐色 (10YR3/4) シルト質、締まり極強い

第149图 第95号住居跡出土遺物



第95号住居跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)	4.9	13.6	BEJ	普通	橙	60	Na66・80・91	床+5cm
2	坏	12.2	4.5		FJ	不良	にぶい橙	10	Na135・Na137	床+7cm
3	坏	(12.6)			BE	普通	にぶい橙	50	Na8	床+4cm
4	坏	(15.0)			BDJ	良	にぶい橙	30	Na17・Na18 ・Na118・B区	床
5	坏	14.5			6.2	BGJ	普通	にぶい赤褐	80	Na63・Na68 ・B区・C区
6	坏	(12.2)	5.1		BEG	普通	橙	40	Na19・B区	床+5cm
7	坏	(12.6)	4.5		B	良	橙	20	Na16	床+8cm
8	坏	(13.0)	4.8		BEJ	不良	にぶい橙	40	Na60・Na62 ・Na101・Na102	床+3cm
9	坏	(11.6)	4.9		BEJ	普通	橙	70	Na7	床+7cm
10	坏	(11.8)	4.0		BE	不良	にぶい黄橙	30	D区	
11	坏	(12.6)	4.6		EJ	普通	橙	60	D区	
12	坏	(13.0)	4.7		BDEJ	普通	橙	30	Na24・C区	床+4cm
13	高坏				BE	不良	橙	90	Na50	床+5cm
14	甕	(10.4)			BEJ	普通	にぶい赤褐	20	Na12・61・D区	床+6cm
15	鉢	(12.4)			BJL	普通	にぶい褐	25	Na34	床+3cm 外面上位↑方向ヘラ削り
16	鉢	(17.0)			BJL	普通	にぶい黄橙	60	Na74・75・76 ・78・82・B区	床+4cm 外面↑方向ヘラ削り
17	甕	(20.0)		BFJ	普通	灰黄褐	15	Na86・Na79 ・Na97・B区	床+7cm	
18	甕	(20.0)		BE	普通	にぶい黄橙	15	Na64・81・83 ・95・B区	床+3cm	
19	壺	(12.6)		BJ	不良	にぶい橙	60	Na120・134・ 136～138・140 142・186・SK44	床+3cm	
20	壺	(19.0)		BDEJ	普通	橙	40	Na110	床+8cm	
21	鉢	(24.0)		JKL	普通	にぶい黄橙	40	Na99・Na100 ・Na132・B区	床 体部↓方向ヘラ削り	
22	甕		(7.0)	B	良	にぶい赤褐	30	Na22・Na67 ・Na70・C区	床+3cm 外面↑方向ヘラ、底部ヘラ削り	
23	甕			8.0	BEJL	不良	にぶい橙	15	Na4	床+6cm 外面↓方向ヘラ削り
24	甕		4.6	BDFJL	普通	橙	80	Na145	床+5cm	
25	甕		5.8	BEJ	普通	橙	90	Na5		
26	甕		5.0	BDE	普通	橙	100	Na14	床+7cm	

第96号住居跡 (第150図)

K-11・12グリッドを中心に位置する。第91号住居跡に切られ、第132号住居跡を切っている。平面は、軸長4.86m×4.73mの方形を呈し、深さ10cm程を測る。壁溝は南壁の一部に確認でき、幅13~15cm、深さ4~7cmである。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられているが一部が第91号住

居跡に切られ、残存燃焼部は52cm×59cm、深さ10cmの窪み状となっている。

柱穴は4本の主柱穴が検出された。径60~85cmの円形で、深さ42~57cmを測り、1本で柱痕が確認された。

貯蔵穴は、南東隅に備わる。軸長100cm×78cmの楕円形で、深さ45cmを測る。

遺物は、土師器坏、土錘が出土した。

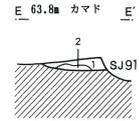
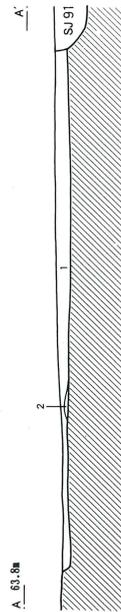
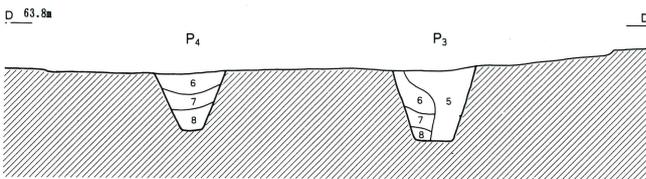
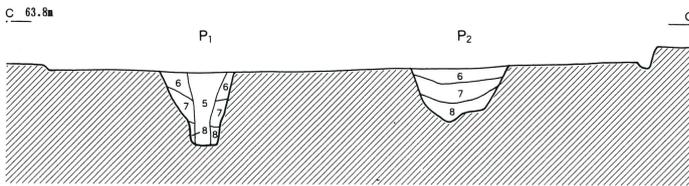
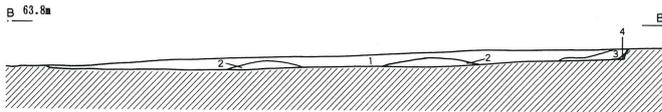
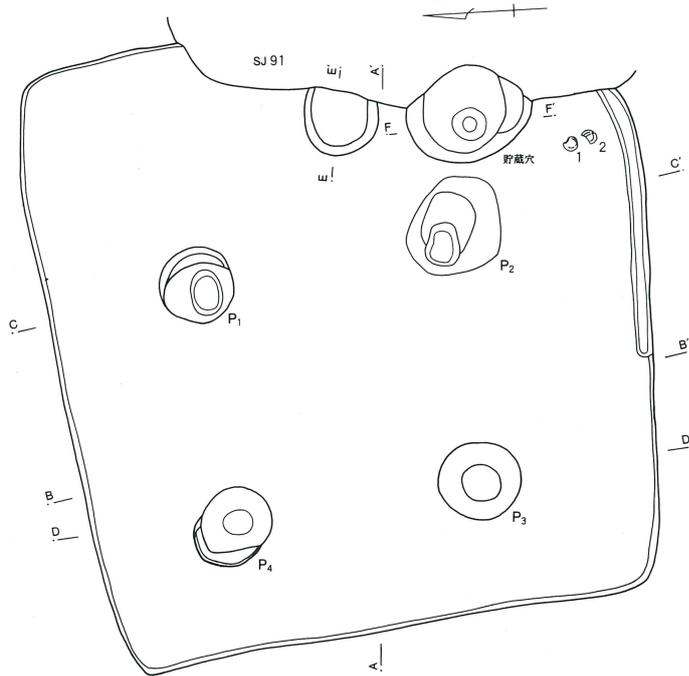
第96号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	10.5	4.1		BJ	普通	橙	95	Na1	床+8cm
2	坏	10.8	3.7		BDJ	普通	にぶい橙	85	Na2	床+8cm 内壁荒れる
3	坏	(11.8)	3.9		DE	良	橙	50	貯蔵穴	貯蔵穴
4	坏	12.3	3.9		BDE	普通	橙	50	貯蔵穴・B区	貯蔵穴

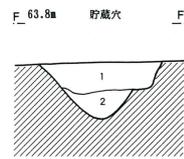
第96号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.70)	1.65	0.55	(5.98)	Ba	にぶい橙	20	C区
2	(3.15)	1.68	0.48	(6.72)	B	淡黄	20	
3	(4.44)	1.48	0.60	(8.37)	A	橙		
4	(5.34)	1.28	0.45	(7.06)	B	にぶい橙	80	D区
5	6.53	1.62	0.51	(13.78)	Ba	にぶい黄橙	95	

第150図 第96号住居跡・出土遺物

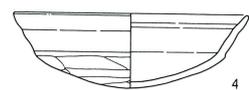
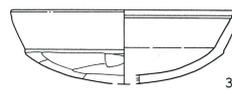
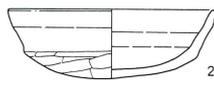
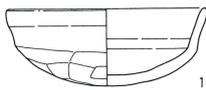


- 1 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒多
- 2 赤褐色 (2.5YR4/8) 焼土・炭化物



- 1 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒・地山ブロック
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック、やや砂質

- 1 褐色 (10YR4/4) 炭化物・焼土粒・地山ブロック
- 2 褐色 (10YR4/6) 灰黄褐色土ブロック多
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 焼土粒・炭化物
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物多
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・地山ブロック
- 6 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック、やや砂質
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック、やや砂質
- 8 褐灰色 (10YR5/1) 地山ブロック・炭化物 粘性ややあり



第97号住居跡 (第151図)

K-13グリッドに位置する。第98号住居跡を切っている。平面は、軸長2.46m×2.33mの方形を呈し、深さ13cm程を測る。主軸方位は、N-72°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は122cm×50cmの楕円形を呈し、僅かに窪んでいる。

遺物は、須恵器片、土師器片が出土した。

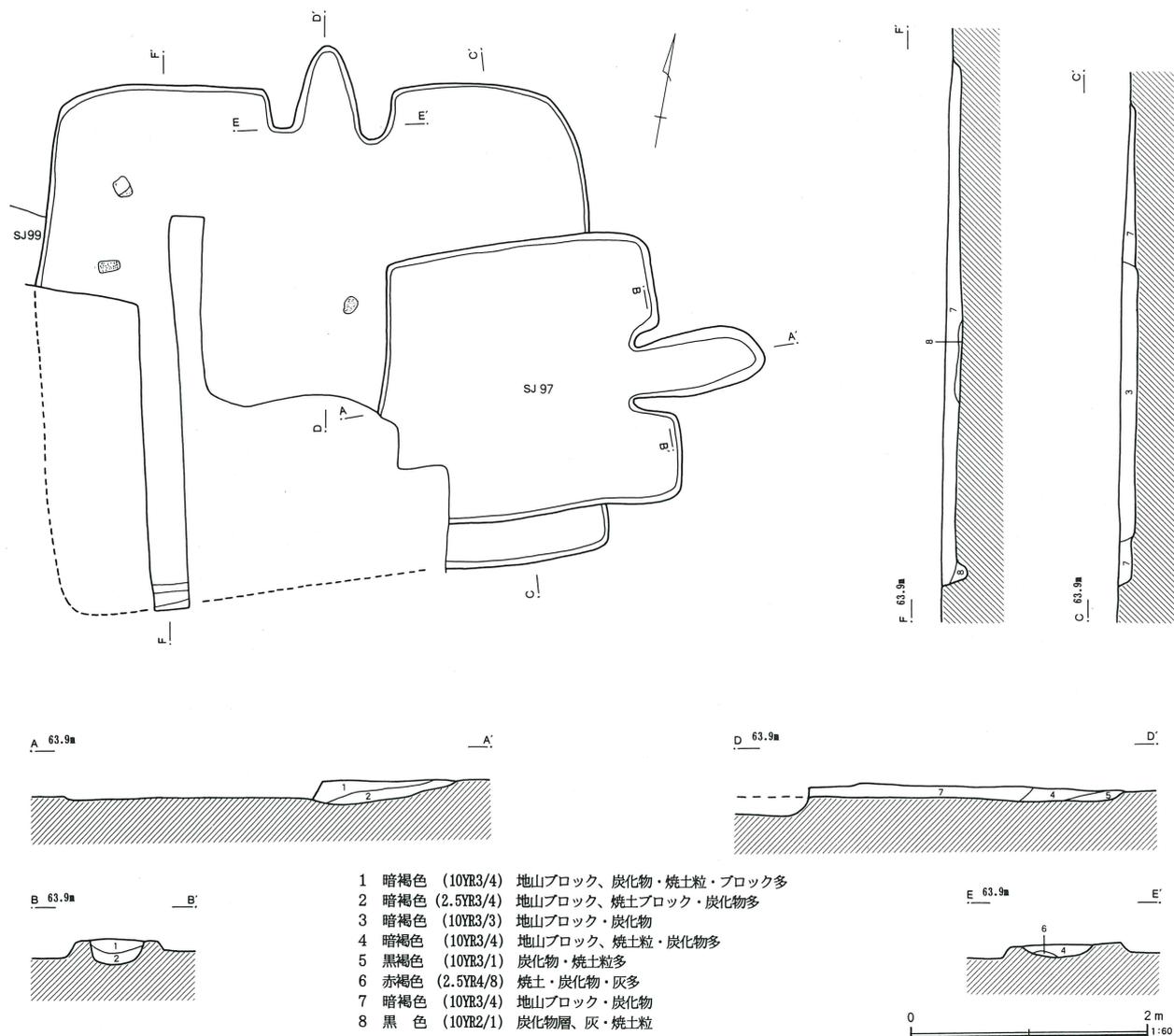
第98号住居跡 (第151図)

K-13グリッドに位置する。第97号住居跡に切られ、第99号住居跡の上に乗る。平面は、軸長4.48m×4.62mの方形を呈し、深さ12cm程を測る。壁溝は南壁の一部で確認できたが、幅22cm、深さ9cmである。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

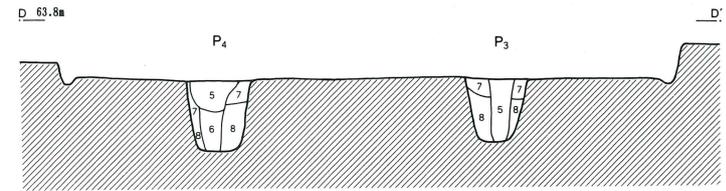
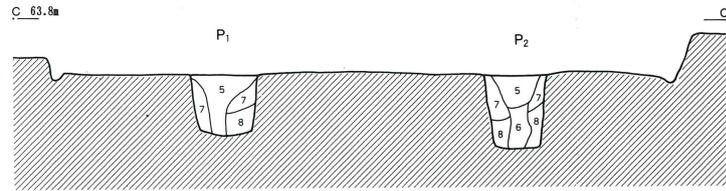
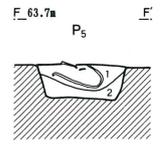
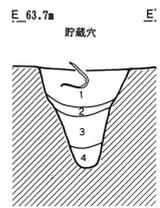
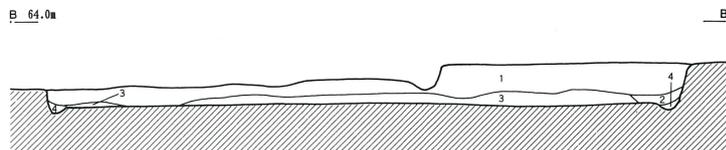
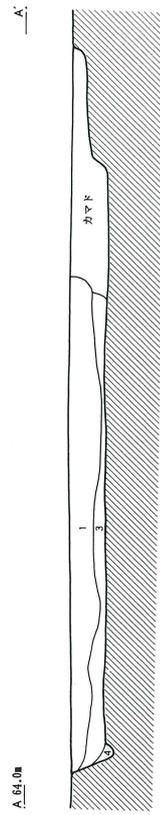
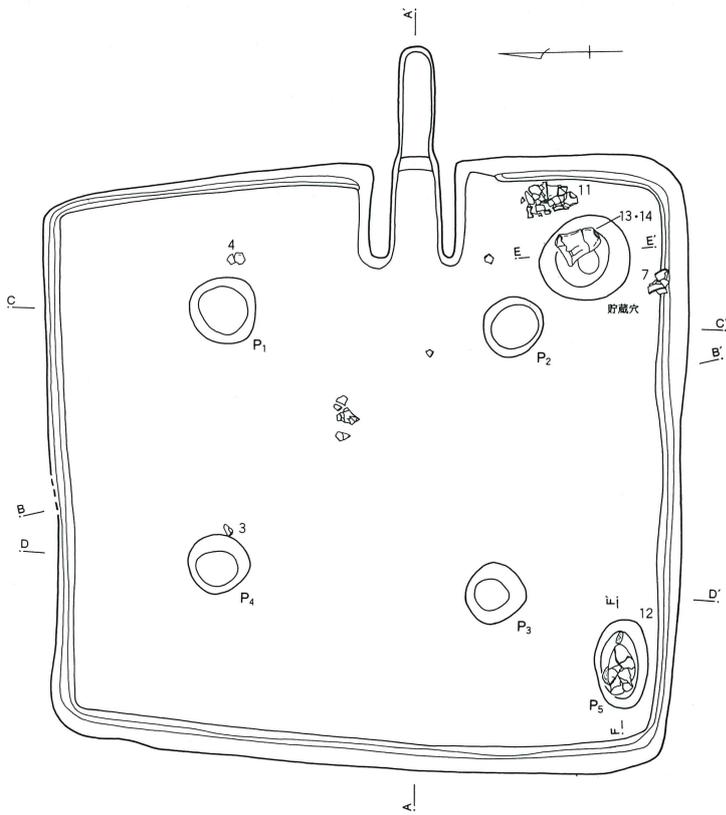
カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は88cm×60cmで床面と同じ高さである。

遺物は、須恵器片、土師器片が出土した。

第151図 第97・98号住居跡



第152図 第99号住居跡



- 貯蔵穴
- 1 褐色 (10YR4/4) 焼土粒・炭化物
 - 2 黒褐色 (10YR3/1) 焼土ブロック多
 - 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物、締まりなし
 - 4 褐色 (10YR4/6) 炭化物、締まりあり

- 1 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・灰黄褐色粘質土ブロック多
炭化物
- 2 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック
- 3 褐灰色 (10YR5/1) 地山ブロック・灰黄褐色土ブロック多
粘性あり
- 4 にふい黄褐色(10YR5/4) 周溝 地山ブロック 砂質
- 5 褐色 (10YR4/4) 炭化物・焼土粒 砂質
- 6 黄褐色 (10YR5/6) 炭化物・焼土粒 砂質
- 7 褐色 (10YR4/4) 炭化物 粘性あり
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物 砂質

- ビット5
- 1 褐色 (10YR4/4) 炭化物、粘性ややあり
 - 2 にふい黄褐色(10YR4/3) 炭化物・焼土粒



第99号住居跡 (第152・153・154図)

K-13グリッドを中心に位置する。第97号・第98号住居跡の下にある。平面は、軸長4.88m×5.05mの台形気味の方角を呈し、深さ29cm程を測る。壁溝は全周し、幅7~25cm、深さ2~5cmを測る。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は100cm×41cmの長方形を呈し、深さ31cmを測るが、火床面は床面と同じ高さである。煙道部は燃焼部と段差を有し、87cm確認できた。

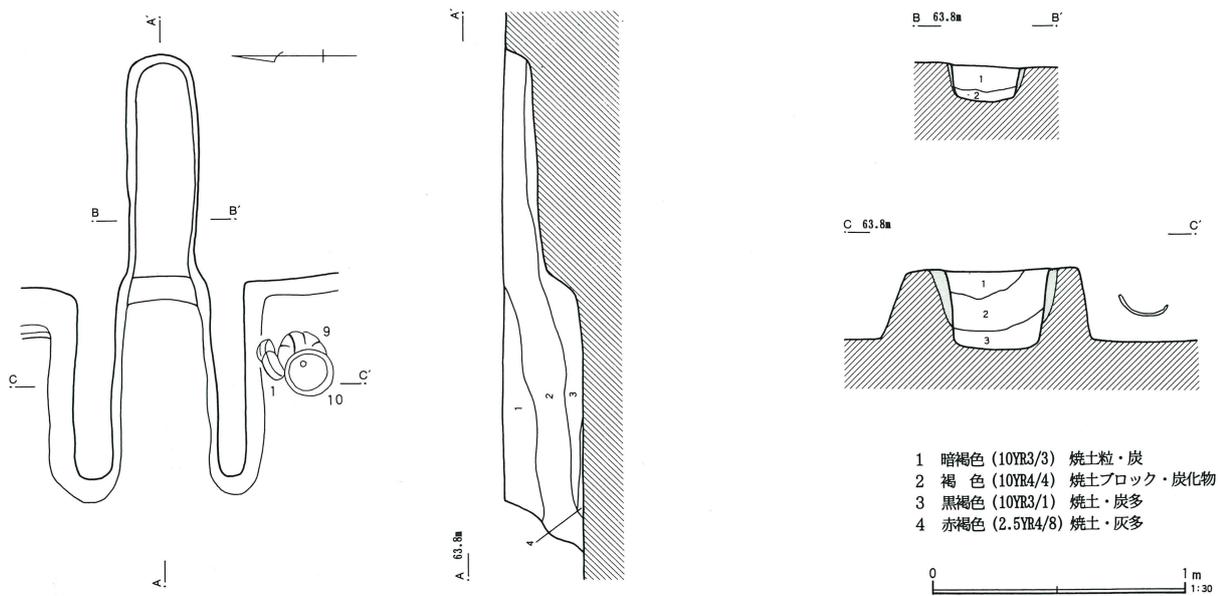
柱穴は4本の支柱穴が検出された。径50~55cmの円形で、深さ46~50cmを測り、いずれも柱痕が確認で

きた。

貯蔵穴は、南東隅と南西隅の2基備わる。第1号貯蔵穴は、径75cm×66cmの円形で、中程ですぼまり深さ78cmを測る。第2号貯蔵穴は、軸長71cm×42cmの楕円形で、深さ25~30cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕・甌、手捏ね土器が出土した。

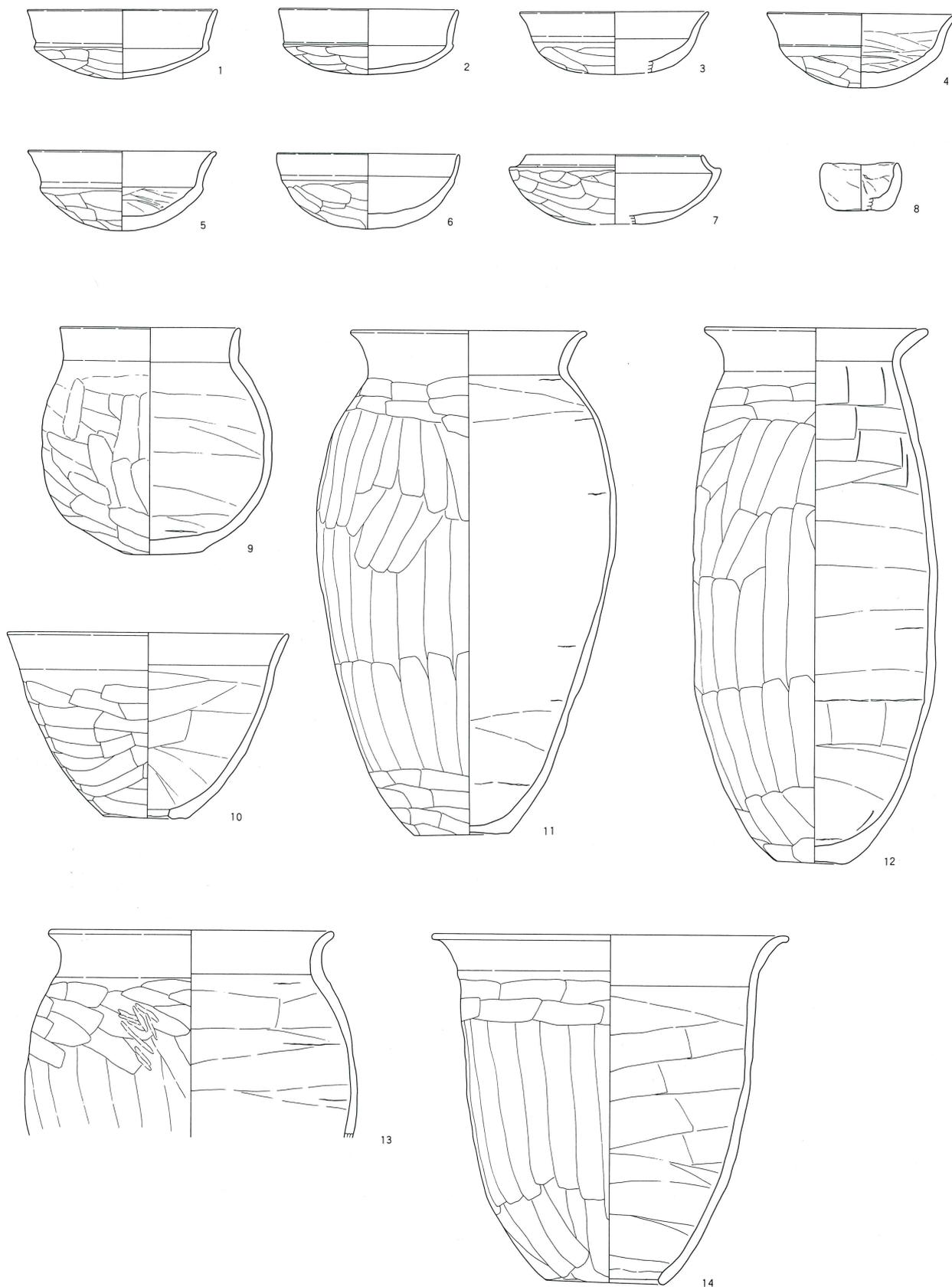
第153図 第99号住居跡カマド



第99号住居跡出土遺物観察表 (第154図)

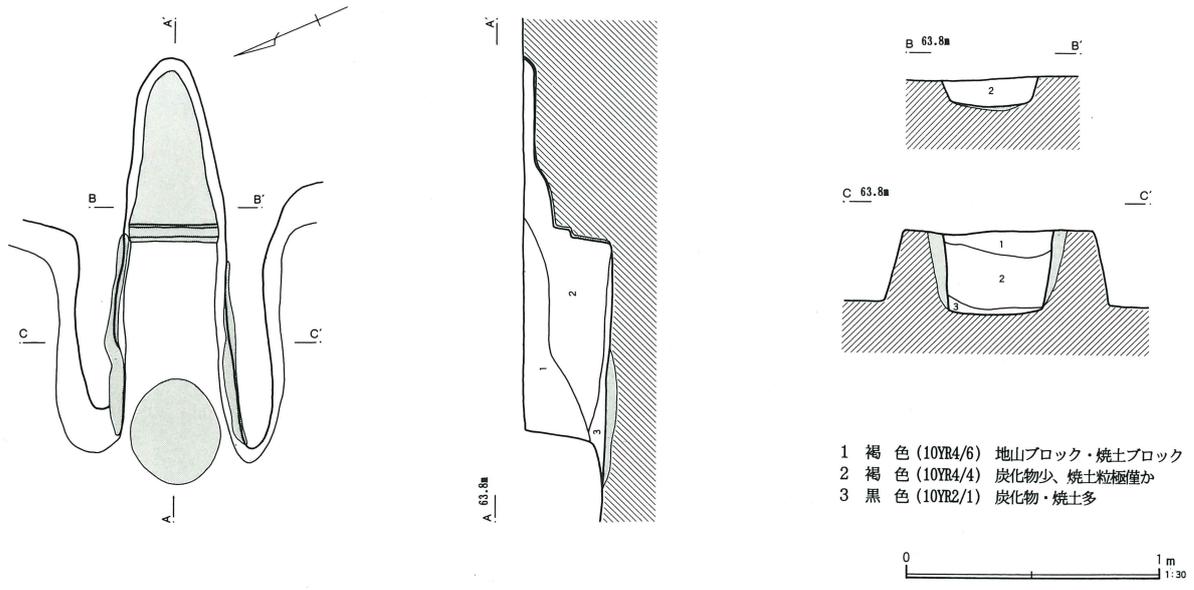
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.1	4.8		BEJL	不良	橙	90	Na12・B区	床
2	坏	(12.4)	4.6		BDEJL	不良	にぶい赤褐	45	B区・D区	
3	坏	(13.0)			BD	不良	明赤褐	15	Na9	
4	坏	(13.0)	5.2		BE	普通	にぶい褐	40	Na8、A・D区	
5	坏	(13.0)	5.5		BJ	普通	橙	60	B区	
6	坏	(12.6)	5.2		BE	不良	橙	40	C区・D区	
7	坏	(12.0)	4.8		B	普通	にぶい褐	30	Na1	床+3cm
8	手捏ね土器	(5.0)	3.3	(3.4)	BJ	不良	橙	40	D区	
9	甕	12.4	15.7	5.6	BL	不良	橙	70	Na11	床 外面↓・→方向ヘラ削り
10	甌	19.4	12.8	6.0	BEFJL	普通	にぶい橙	95	Na10	Na11の直上 孔径3.3cm
11	甕	16.2	35.0	6.6	BEJL	普通	にぶい赤褐	60	Na3、B・C区	床 外面中位↓方向ヘラ削り
12	甕	15.4	37.1	5.0	A EJ L	普通	にぶい褐	90	P5 Na1	第2号貯蔵穴
13	甕	(19.6)			BDFJ	不良	にぶい橙	20	Na1・D区	貯蔵穴
14	甌	24.6	24.1	8.1	A J L	不良	にぶい黄橙	90	Na1	貯蔵穴

第154図 第99号住居跡出土遺物

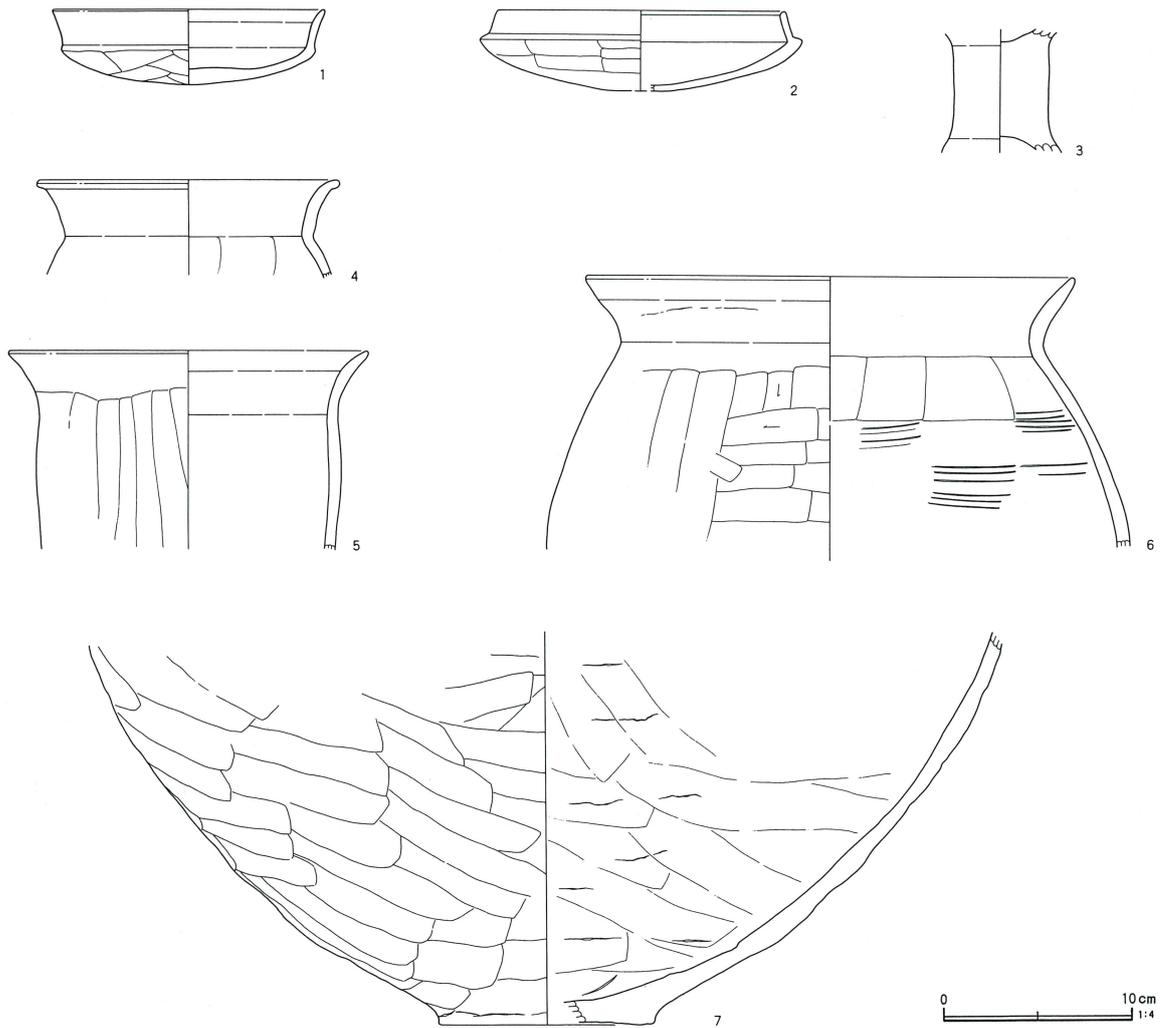


0 10cm
1:4

第156図 第100号住居跡カマド・出土遺物



- 1 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック・焼土ブロック
- 2 褐色 (10YR4/4) 炭化物少、焼土粒極僅か
- 3 黒色 (10YR2/1) 炭化物・焼土多



第100号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	14.4	4.0		B	普通	橙	40	D区	脚部のみ 床+7cm 内面櫛状工具横ナデ 底部外面木葉痕あり
2	坏	(15.1)	4.3		B E	良	にぶい黄橙	25	B区	
3	高坏				B J	普通	橙	90	B区	
4	甕	(15.1)			B J L	良	黒褐	40	C区	
5	甕	(18.8)			E G J L	普通	にぶい橙	25	D区	
6	甕	(25.6)			B D J	良	橙	25	Na1	
7	壺			11.3	E F G J L	普通	にぶい黄橙	60	C区	

同じ高さである。燃焼部と煙道部の間には、25cmの段差を有し、煙道部は68cm確認でき、煙道部まで被熱し、赤変していた。

柱穴は4本の主柱穴が検出された。径46~50cmの円形で、深さは47~55cmを測り、柱痕が確認できた。

貯蔵穴は、南東隅に備わる。軸長87cm×67cmの楕円形で、内周縁にテラスを有し、中央が深くなり、深さ23cmを測る。

遺物は、土師器坏・高坏脚部・甕・壺が出土した。

第101号住居跡 (第157図)

M-10・11グリッドに位置する。第69号住居跡に西半が切られている。平面は、軸長3.85m×4.10mの方形を呈し、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N-118°-Wを指す。

カマドは、南西壁のやや北西寄りに設けられている。燃焼部は95cm×58cmの隅丸方形を呈し、床面より僅かに窪んでいる。煙道部と燃焼部との間に段差を有し、52cm確認できた。

遺物は、須恵器坏、土師器甕、土鍾が出土した。

第102号住居跡 (第158図)

J-13グリッドに位置し、川寄りに単独で立地する。平面は、軸長3.23m×3.28mの台形を呈し、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-7°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや東寄りに設けられている。燃焼部は67cm×37cmの楕円形を呈し、床面より僅かに窪んでいる。

遺物は、土師器片が出土した。

第103号住居跡 (第159図)

O-10グリッドに位置する。カマドのみの検出で、第95号住居跡に切られている。主軸方位は、N-100°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられていると考えられる。燃焼部は100cm×63cmの隅丸方形を呈し、床面からの深さ16cmを測る。支脚の石が遺存していた。煙道部は燃焼部と段差を有し、42cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。

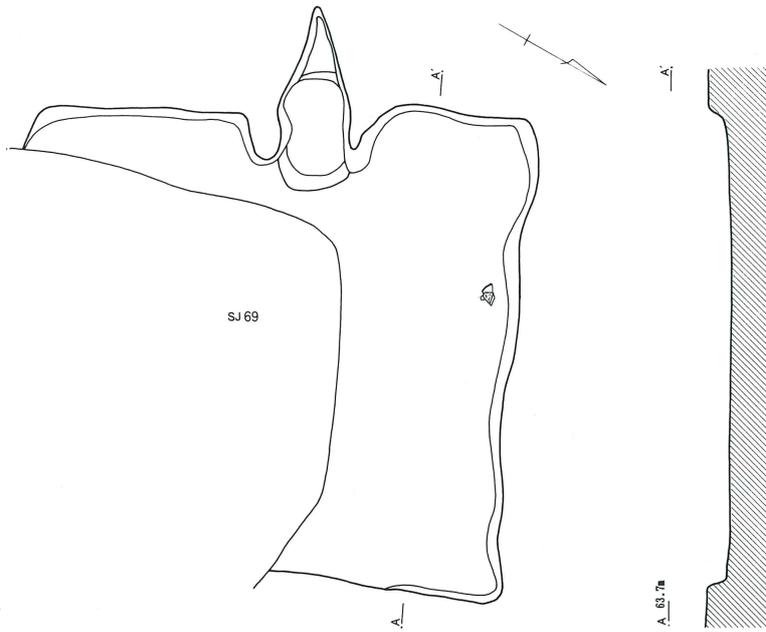
第101号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.76)	1.30	0.38	(5.00)	B a	灰白	50	C区
2	(5.14)	1.59	0.53	(12.07)	B a	にぶい黄橙	70	カマド
3	(6.02)	1.87	0.45	(21.20)	B a	橙	95	C区
4	(6.06)	1.73	0.46	(17.24)	B a	褐灰	90	C区

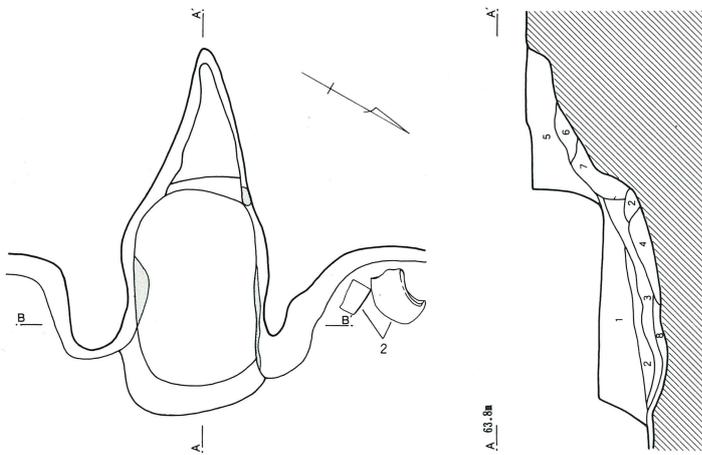
第101号住居跡出土遺物観察表 (第157図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏			(7.60)	J	普通	灰	40	カマド	カマド 体部下端・底部右回転ヘラ削 床+4cm
2	壺	(16.0)			A B E F J L	不良	橙	40	Na1・Na2	

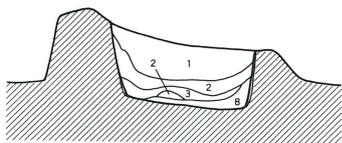
第157図 第101号住居跡



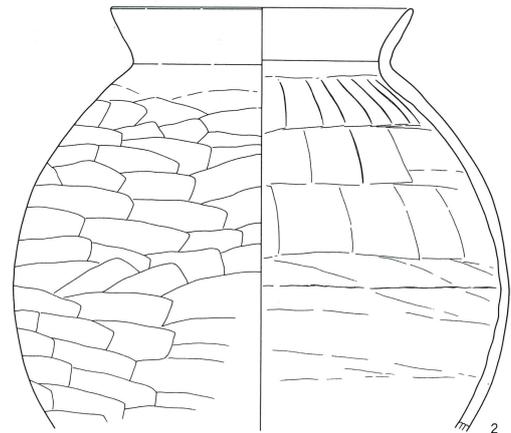
カマド



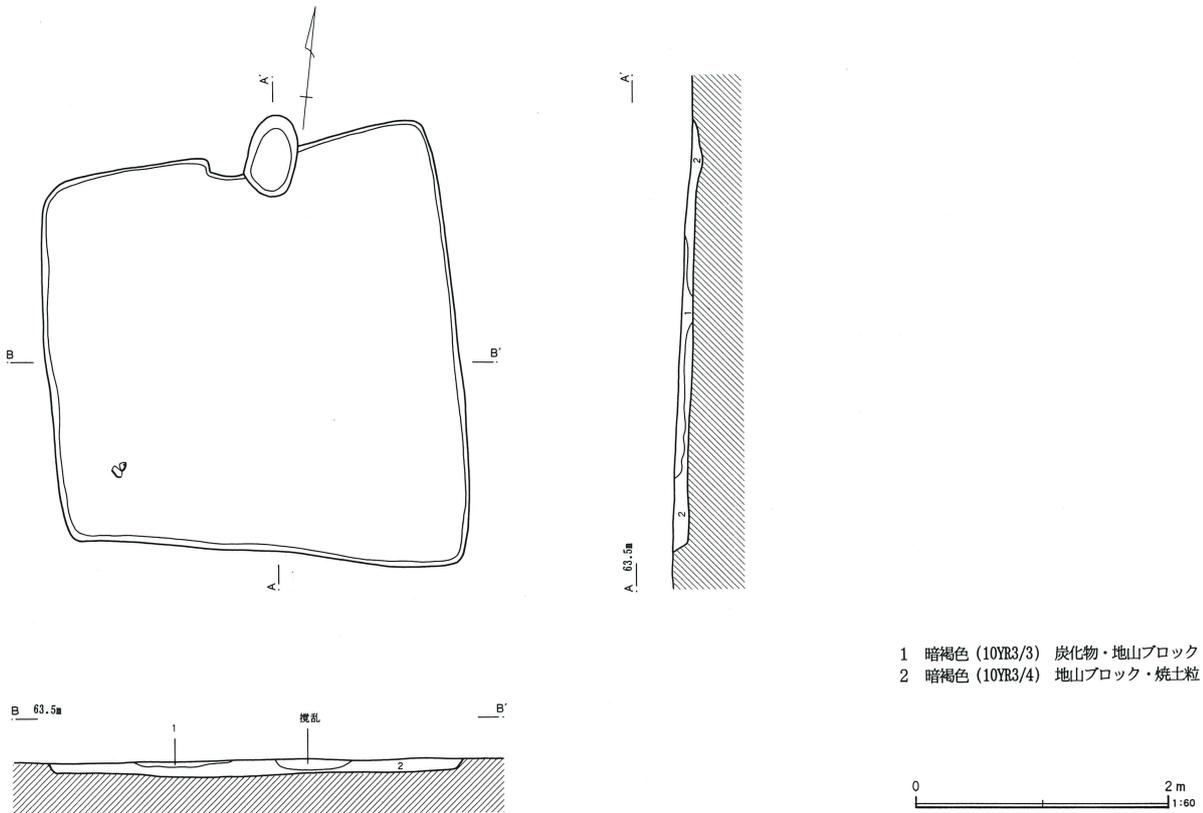
B 63.8m



- 1 黄褐色 (10YR5/6)
- 2 焼土層
- 3 黒褐色灰層(10YR2/2)
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 灰若干
- 5 暗褐色 (10YR3/4)
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 締まり強い
- 7 褐色 (10YR4/6) 焼土・黒色土若干
- 8 褐色 (10YR4/4) 砂質



第158図 第102号住居跡



第104号住居跡 (第160・161図)

N・O-10グリッドに位置する。平面は、軸長3.40m×3.47mのやや歪んだ方形を呈し、深さ36cm程を測る。主軸方位は、N-57°-Wを指す。

カマドは、北西壁に設けられている。燃焼部は90cm×55cmの楕円形の窪み状を呈し、床面からの深さ18cmを測る。煙道部は96cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・壺、土錘が出土した。

第111号住居跡 (第162図)

M-11グリッドを中心に位置する。平面は、軸長4.77m×4.00mのやや歪んだ方形を呈し、深さ38cm程を測る。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

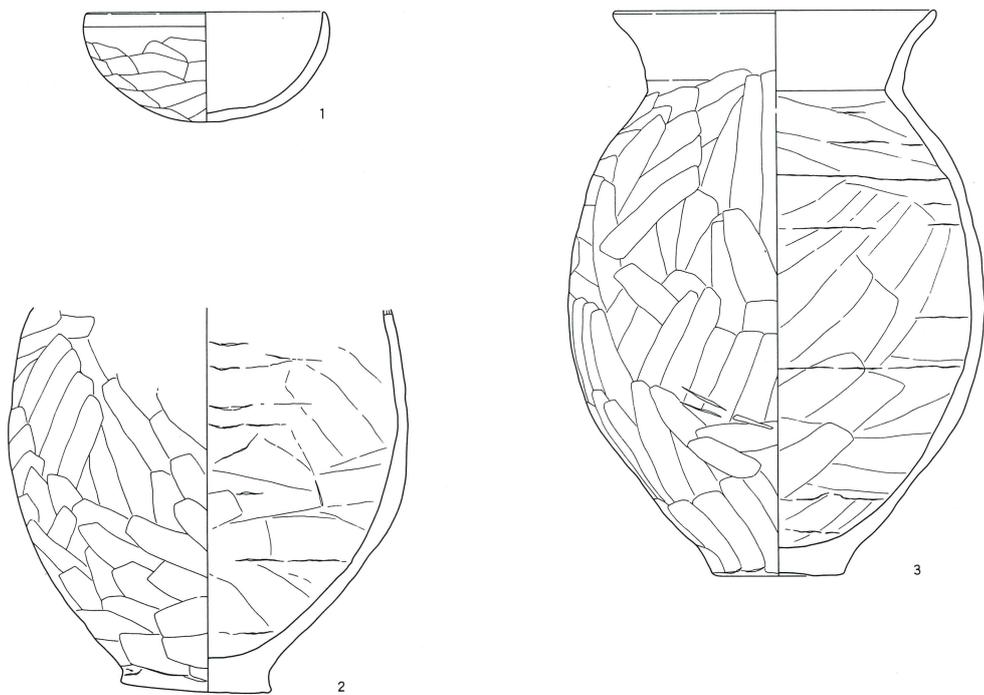
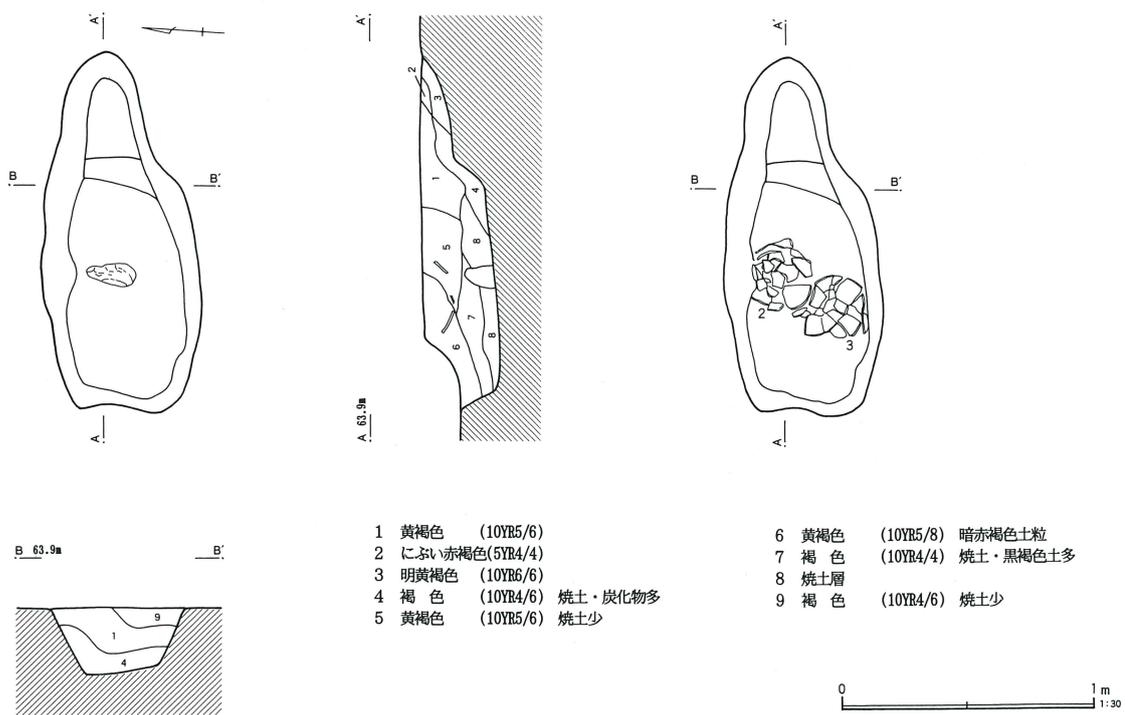
カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は90cm×43cmの楕円形を呈し、煙道部は燃焼部と段差を有し、135cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・椀・高杯・甕・甑、須恵器蓋、土錘が出土した。

第103号住居跡出土遺物観察表 (第159図)

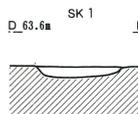
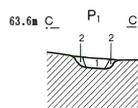
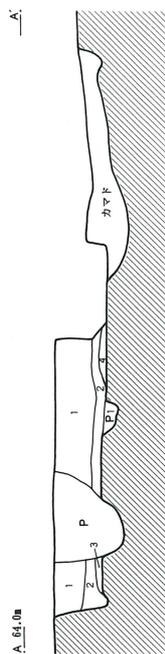
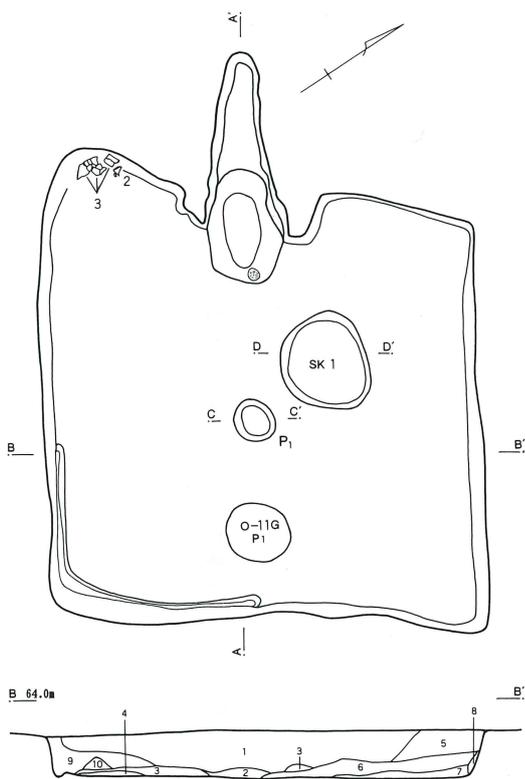
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.6	5.8		BEJ	普通	にぶい褐	80	カマド・SK44	カマド
2	甕			8.0	ABDJL	普通	褐	80	カマドNo1	カマド
3	甕	(17.0)	30.0	7.0	BEFJL	普通	にぶい橙	60	カマドNo2 SJ95No191 SJ95B区・SK44	カマド

第159図 第103号住居跡カマド・出土遺物



0 10 cm 1:4

第160図 第104号住居跡・カマド



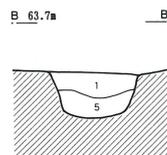
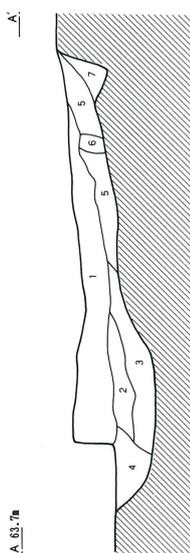
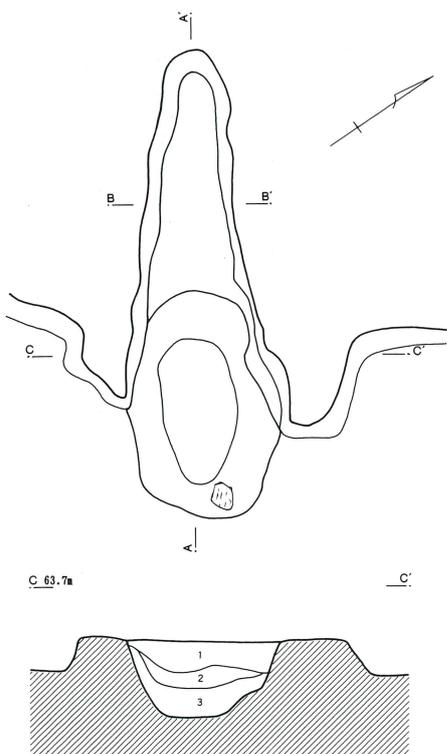
- P 1
 1 暗褐色 (10YR3/3) 灰少
 2 褐色 (10YR4/6) 締まり強し

SK 1 褐色 (10YR3/4) 粘質

- 1 黄褐色 (10YR5/6) 白色微粒子
 2 黒褐色 (10YR3/2)
 3 炭灰層
 4 黄褐色 (10YR5/6) 灰微
 5 褐色 (10YR4/6)
 6 暗褐色 (10YR3/4) 炭多
 7 黄褐色 (10YR5/6)
 8 暗褐色 (10YR3/4)
 9 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物粒・粘土少
 10 黄褐色 (10YR5/6)



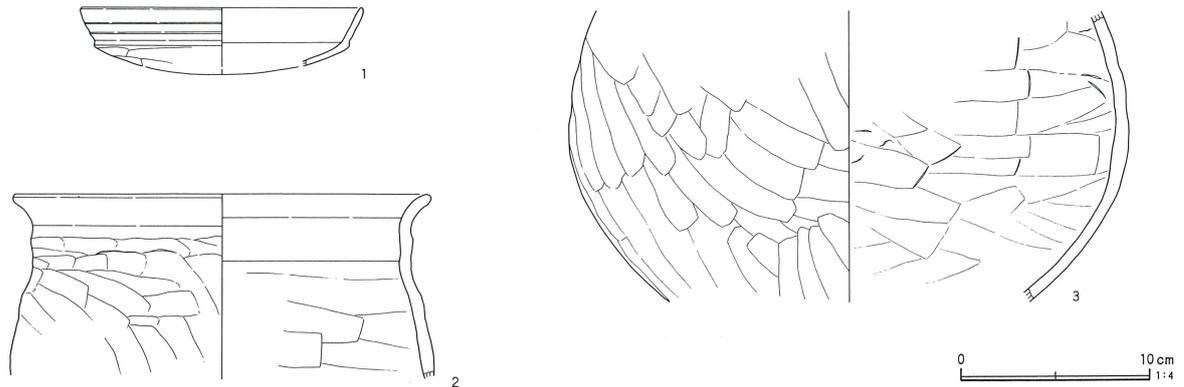
カマド



- 1 黄褐色 (10YR5/4) シルト質
 2 暗褐色 (7.5YR3/4) 焼土極多
 3 褐色 (10YR4/6) シルト質
 4 にぶい黄褐色(10YR5/4) 焼土・黄褐色土少
 5 褐色 (7.5YR4/4) シルト質
 6 黄褐色 (10YR5/8) シルト質
 7 黄褐色 (10YR5/6) 締まり極強い



第161図 第104号住居跡出土遺物



第104号住居跡出土遺物観察表 (第161図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(15.0)			B E	普通	にぶい褐	10	A区	
2	甕	(21.7)			B J	普通	にぶい赤褐	15	No2・B区	
3	壺				B J L	普通	褐灰	20	No1・No3・No4	

第104号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.90)	1.46	0.56	(4.70)	B a	橙	30	C区
2	(4.63)	1.92	0.65	(16.63)	A a	橙	60	D区
3	5.54	1.45	0.56	(9.20)	B a IV	にぶい黄橙	95	C区
4	6.35	1.52	0.42	12.16	B a IV	浅黄橙	100	A区
5	6.57	1.46	0.55	12.32	B a III	浅黄橙	100	D区
6	7.31	1.67	0.55	(15.68)	B a III	にぶい黄橙	90	D区

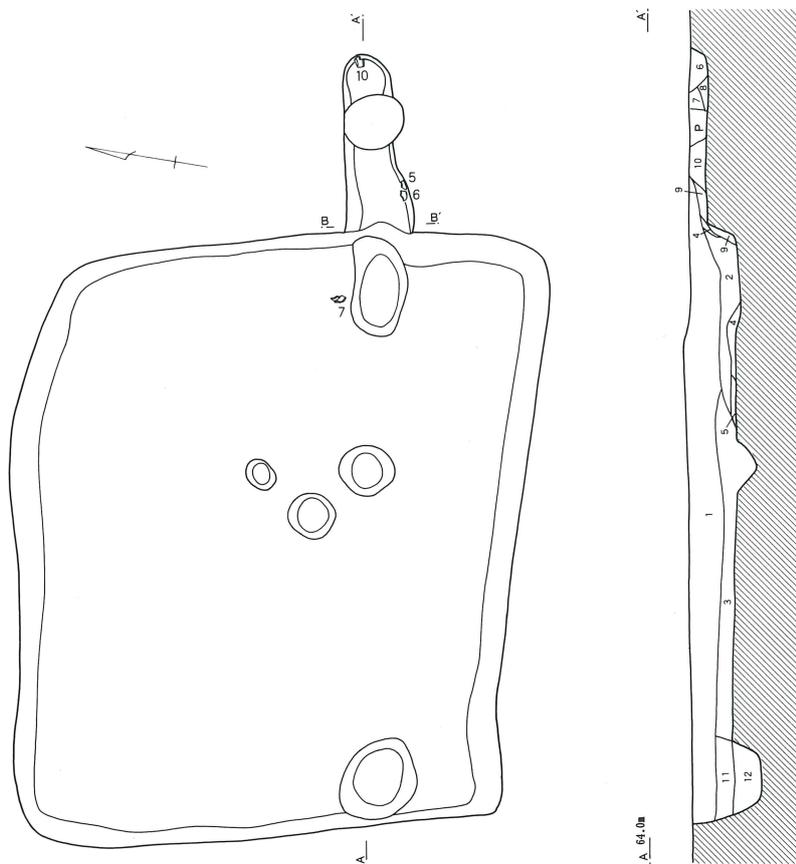
第111号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	2.28	2.38	0.47	(8.15)		にぶい橙	50	土玉
2	5.05	1.98	0.62	14.63	B' a V	浅黄橙	100	B区
3	(5.18)	1.35	0.39	(9.29)	B	灰黄褐	80	
4	5.51	1.43	0.62	9.14	B a IV	灰黄褐	100	
5	5.93	1.44	0.48	(10.16)	B a IV	灰黄褐	95	
6	5.59	1.89	0.58	15.09	B a IV	にぶい黄橙	100	
7	6.02	1.67	0.48	17.43	A a IV	にぶい黄橙	100	D区
8	(6.32)	1.94	0.50	(16.75)	B a	橙	95	A区
9	(6.41)	1.66	0.53	(15.47)	A a	にぶい橙	90	A区
10	(7.72)	1.84	0.60	(20.09)	B a	褐灰	95	

第111号住居跡出土遺物観察表 (第162図)

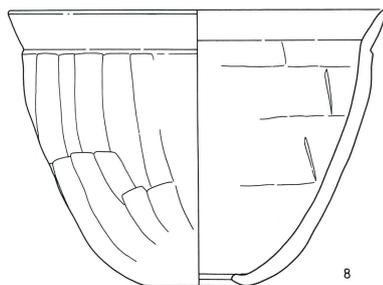
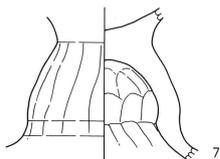
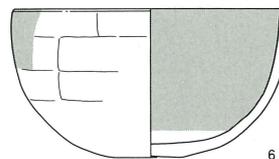
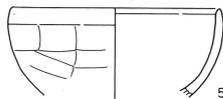
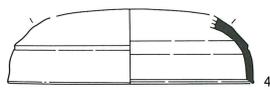
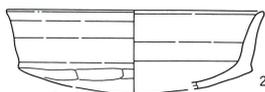
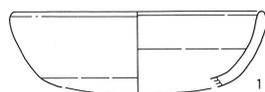
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.1)			B J	普通	浅黄橙	20	カマド	カマド 整形不明
2	坏	(13.4)			E	良	橙	10	A区	
3	坏	(12.8)			B	良	橙	10		
4	蓋	(13.0)			J	良	灰	10		天井部左回転ヘラ削り
5	碗	(10.9)			E J	普通	橙	15	No3	外面荒れる
6	碗	(14.3)	7.9	(3.5)	E F J L	普通	にぶい橙	30	No3・カマド	カマド 赤彩
7	高坏				B	良	橙	20	No4	床+3cm 外面ヘラ削り 内面指ナデ
8	甗	(19.7)	14.6	(5.2)	I J L	良	にぶい橙	20	A区	内面木口状工具横ナデ
9	甕			7.0	J L	普通	橙	100		底部同一方向のヘラナデ
10	甕			7.3	B J L	良	橙	100	No1	カマド

第162図 第111号住居跡・出土遺物



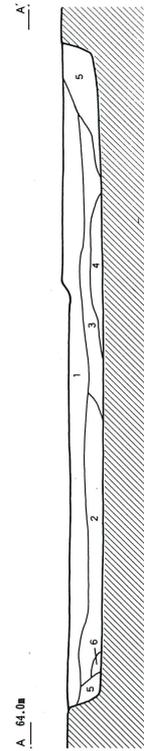
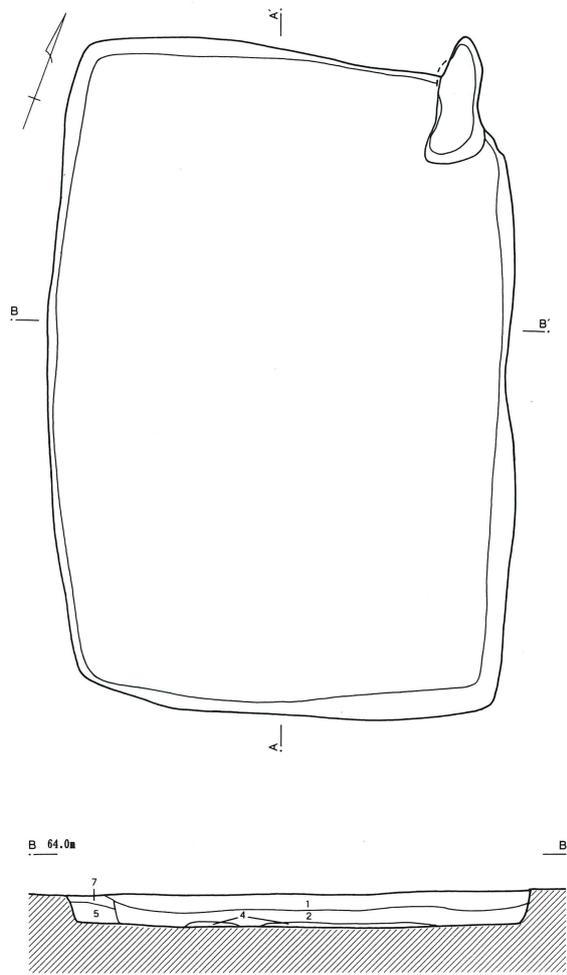
- 1 におい黄褐色(10YR4/3) 白色微粒
- 2 におい黄褐色(10YR4/3) 灰白色シルト多
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 灰白色シルト少、砂質
- 4 焼土層
- 5 褐色 (10YR4/6)
- 6 におい黄褐色(10YR4/3) 焼土少
- 7 におい黄褐色(10YR5/3) 灰
- 8 におい黄褐色(10YR5/3) 黄褐色土粒
- 9 におい黄褐色(10YR5/4)
- 10 褐色 (10YR4/4)
- 11 におい黄褐色(10YR4/3) 黄褐色土
- 12 におい黄褐色(10YR4/3) 灰白色シルト・焼土少
- 13 黒褐色 (10YR3/2) 明黄褐色シルト・焼土少

0 1 m 1:30



0 10 cm 1:4

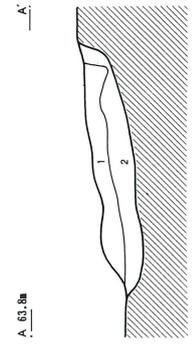
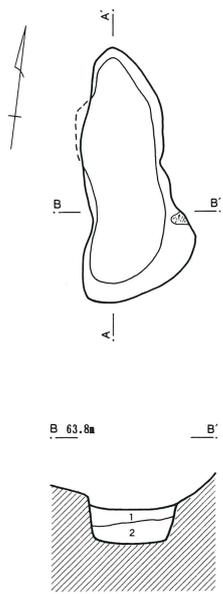
第163図 第112号住居跡・カマド



- 1 黄褐色 (10YR5/6) シルト質、白色微粒・炭化物粒少
- 2 褐色 (10YR4/6) 灰・炭化物粒
- 3 褐色 (10YR4/6)
- 4 明黄褐色 (10YR6/6)
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 明黄褐色土少
- 6 明黄褐色 (10YR6/6) 黒褐色土少
- 7 黄褐色 (10YR5/6) シルト質



カマド



- 1 褐色 (10YR4/6) 焼土少
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 焼土



第112号住居跡（第163・164図）

L・M-12グリッドに位置する。平面は、軸長5.32m×3.68mの長方形を呈し、深さ27cm程を測る。主軸方位は、N-21°-Wを指す。

カマドは、北壁の東端に設けられている。燃焼部は100cm×34cmで、僅かに窪んでいる。

遺物は、土師器坏・甕、土製紡錘車、刀子、土錘が出土した。6の土製紡錘車は、半分以上を欠損しているが、長径4.6cm、遺存短径4.1cm、高さ2.5cm、孔径1.4cm、重さ34.63gで、南西部の覆土中から出土した。7は刀子の刃部で先端が欠損している。重さは3.80gで、北東部の覆土中より出土した。

第113号住居跡（第165図）

L-12グリッドに位置する。平面は、軸長4.37m×3.77mの方形を呈し、深さ8cm程を測る。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

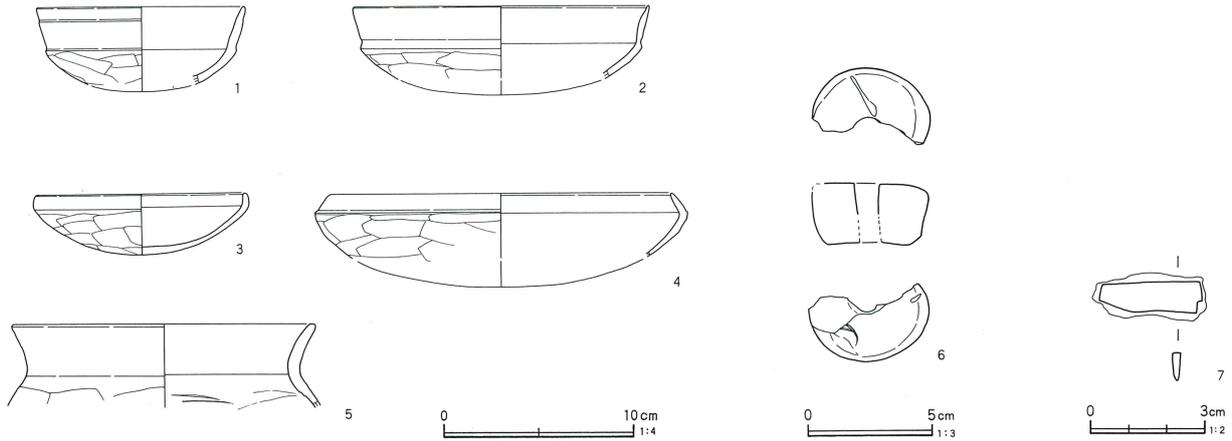
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は95cm×48cmで、僅かに窪んだ状態を呈している。

遺物は、土師器坏・埴・鉢・甕・壺が出土した。

第112号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.00)	1.11	0.50	(2.09)	B a	褐灰	20	D区
2	(2.11)	1.19	0.46	(2.85)	B a	にぶい褐	20	D区
3	(2.70)	1.61	0.52	(4.96)	B	浅黄橙	30	D区
4	(3.01)	1.46	0.52	(3.85)	B a	にぶい黄橙	30	一括
5	(2.48)	2.10	0.55	(4.46)	B	褐灰		D区
6	(3.19)	1.51	0.46	(3.84)	B a	褐灰	40	C区
7	(3.20)	1.51	0.60	(4.44)	B	灰白	30	B区
8	(3.25)	1.52	0.56	(4.67)	B	にぶい黄橙	30	D区
9	(3.35)	1.17	0.52	(3.12)	A	灰黄褐	40	D区
10	(3.47)	1.39	0.56	(4.40)	B a	浅黄橙	40	C区
11	(3.15)	2.13	0.43	(9.96)	E	にぶい橙		B区
12	(3.15)	1.51	0.53	(6.24)	B a	にぶい黄橙	30	C区
13	(4.87)	1.84	0.59	(6.61)	B a	にぶい黄橙	20	A区
14	(3.84)	2.06	0.48	(11.33)	B a	褐灰	40	C区
15	(3.80)	2.02	0.55	(10.68)	B a	浅黄橙	40	D区
16	(3.70)	1.67	0.39	(6.62)	B' a	褐灰	60	C区
17	5.02	2.01	0.49	16.74	B a V	にぶい橙	100	B区
18	4.38	1.83	0.55	12.15	B a VI	褐灰	100	C区
19	(4.05)	1.52	0.47	(9.35)	A	褐灰	40	A区
20	(4.25)	1.66	0.48	(10.61)	B	褐灰	60	B区
21	(4.10)	1.66	0.42	(8.29)	B a	にぶい橙	40	D区
22	4.33	1.86	0.63	13.14	A a VI	浅黄橙	100	一括
23	(5.42)	1.36	0.54	(9.36)	A a	にぶい黄橙	80	C区
24	5.47	1.73	0.47	14.40	B a V	褐灰	100	C区
25	5.18	1.78	0.53	13.26	B a V	褐灰	100	D区
26	(5.91)	1.45	0.41	(11.25)	B a	浅黄橙	90	D区
27	5.31	1.89	0.49	15.61	B a V	浅黄橙	100	C区
28	5.34	1.88	0.65	17.16	A a V	にぶい橙	100	C区
29	(5.58)	1.64	0.46	(12.56)	B a	にぶい黄橙	90	B区
30	5.67	1.88	0.56	17.02	B a IV	褐灰	100	D区
31	5.79	1.66	0.55	13.71	B a IV	灰黄褐	100	D区
32	(5.31)	1.97	0.58	(16.65)	B a	浅黄橙	90	
33	6.44	1.84	0.55	14.75	B a IV	褐灰	100	D区
34	6.39	1.49	0.39	13.32	B a IV	にぶい褐	100	D区
35	6.87	1.72	0.47	16.33	B a	にぶい黄橙	70	C区
36	6.86	1.81	0.51	(17.64)	B a III	淡黄	95	
37	7.50	1.73	0.50	20.28	B a II	橙	100	
38	(7.67)	2.05	0.77	(25.60)	A a	浅黄橙	95	C区

第164図 第112号住居跡出土遺物



第112号住居跡出土遺物観察表 (第164図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(11.0)	3.2		B E F J	不良	にぶい橙	20	C区	
2	坏	(15.6)		B E J	不良	にぶい褐	20	C区・D区		
3	坏	(11.0)		H J L	普通	にぶい橙	45	C区		
4	坏	(18.0)		B E	良	灰黄褐	15	B区		
5	甕	(16.0)		B D H	普通	暗褐	10			

第113号住居跡出土遺物観察表 (第165図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.4)	3.4		B E F	不良	橙	40	Na1	床+4cm
2	坏	(15.0)	5.8		D E J	不良	橙	60	Na10	床+3cm
3	坏	(14.0)			B E F	不良	にぶい赤褐	30	Na13	床
4	鉢	(14.0)		4.0	J L	不良	にぶい橙	60	Na2	床
5	小型鉢	(8.0)	5.4	3.4	B E	普通	にぶい黄橙	70	Na8	床 底部に沈線3本
6	埴				D E J	不良	にぶい橙	80	A区・SJ91 C区	
7	甕	14.8			B J L	不良	にぶい褐	70	Na7	床
8	甕			8.0	B J L	不良	灰褐	60	Na8・Na9	床 底部木葉痕
9	壺			5.0	B E F J	普通	橙	60	Na3・Na4	床

第114号住居跡 (第166図)

L-11グリッドを中心に位置する。第75号・第92号・第100号住居跡に切られている。平面は、軸長5.25m×4.30mの台形を呈し、深さ7cm程を測る。壁溝は北西壁の一部で検出したが、幅9cm、深さ2~4cmを測る。主軸方位は、N-59°-Eを指す。

カマドは、袖が一部確認されていることから、北東壁に設けられているが、第100号住居跡に切られてい

る。

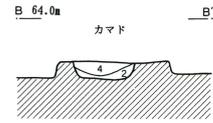
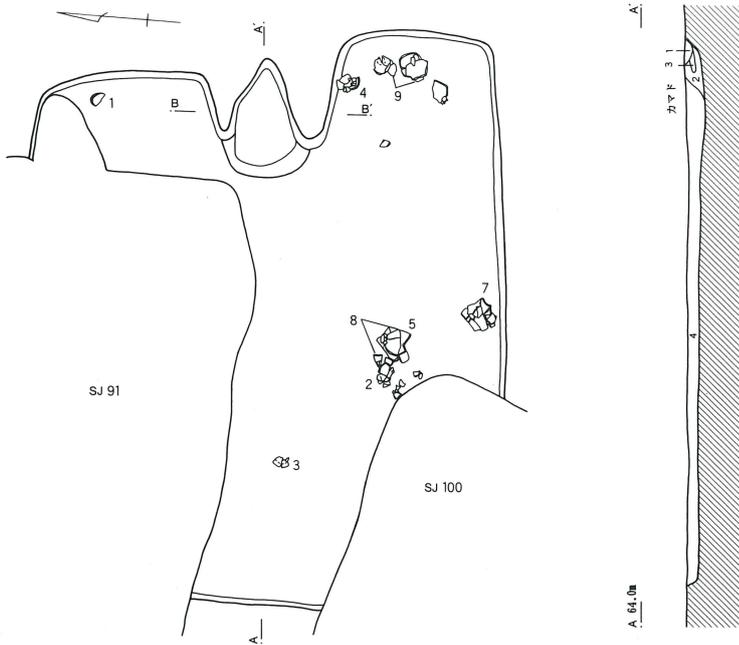
貯蔵穴は、東隅に備わる。径100cm×90cmの円形で、深さ100cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕・管玉が出土した。7の管玉は、遺存長1.46cm、径0.73~0.75cm、孔は穿孔されていない未製品である。重さは1.05gで、覆土中から出土した。

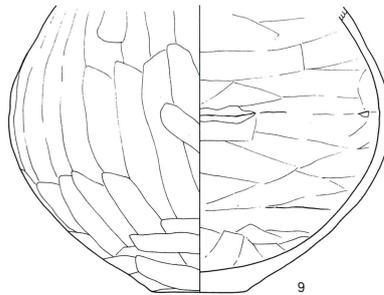
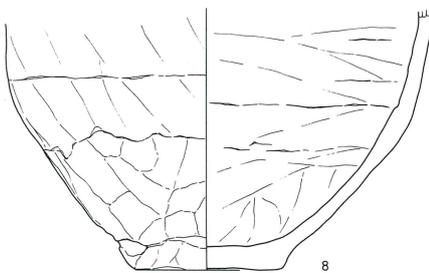
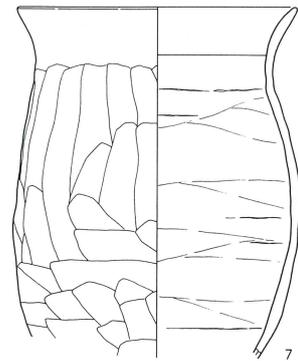
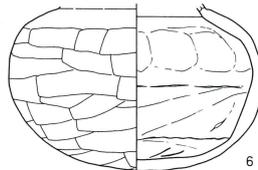
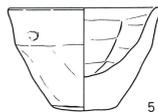
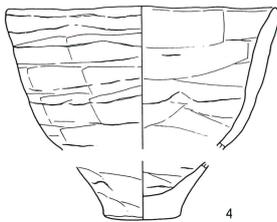
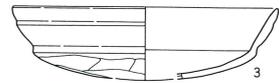
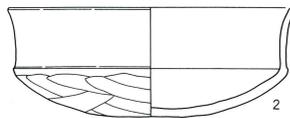
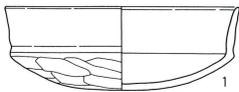
第114号住居跡出土遺物観察表 (第166図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	11.9	5.0		E J	不良	にぶい橙	90	Na6・Na7・貯蔵穴	貯蔵穴
2	甕	(11.4)		B E J	普通	橙	10	Na3	貯蔵穴	
3	甕	13.6		B L	不良	にぶい赤褐	70	Na4・Na5・Na11	貯蔵穴	
4	甕			7.0	B E	普通	にぶい赤褐	60	貯蔵穴・B区	貯蔵穴 底部同方向ヘラ削り 外面↓方向ヘラ削り
5	甕			6.4	B E F	不良	にぶい橙	40	Na8~Na10	床 外面上位←方向・下位↑方向ヘラ削り 底部→方向ヘラ削り
6	甕	17.8	29.8	6.3	J	普通	にぶい橙	75	Na1・Na2・Na3	貯蔵穴 内外面とも櫛状工具ナデ

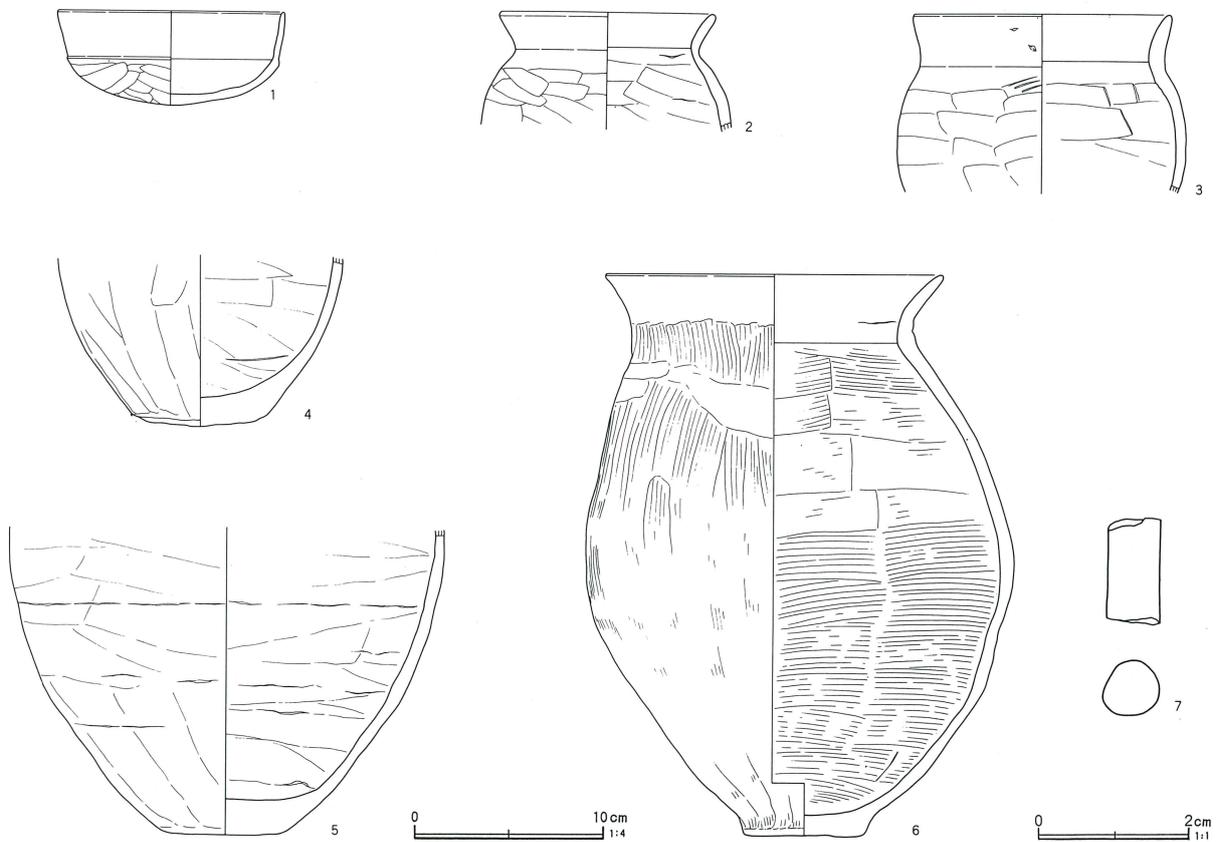
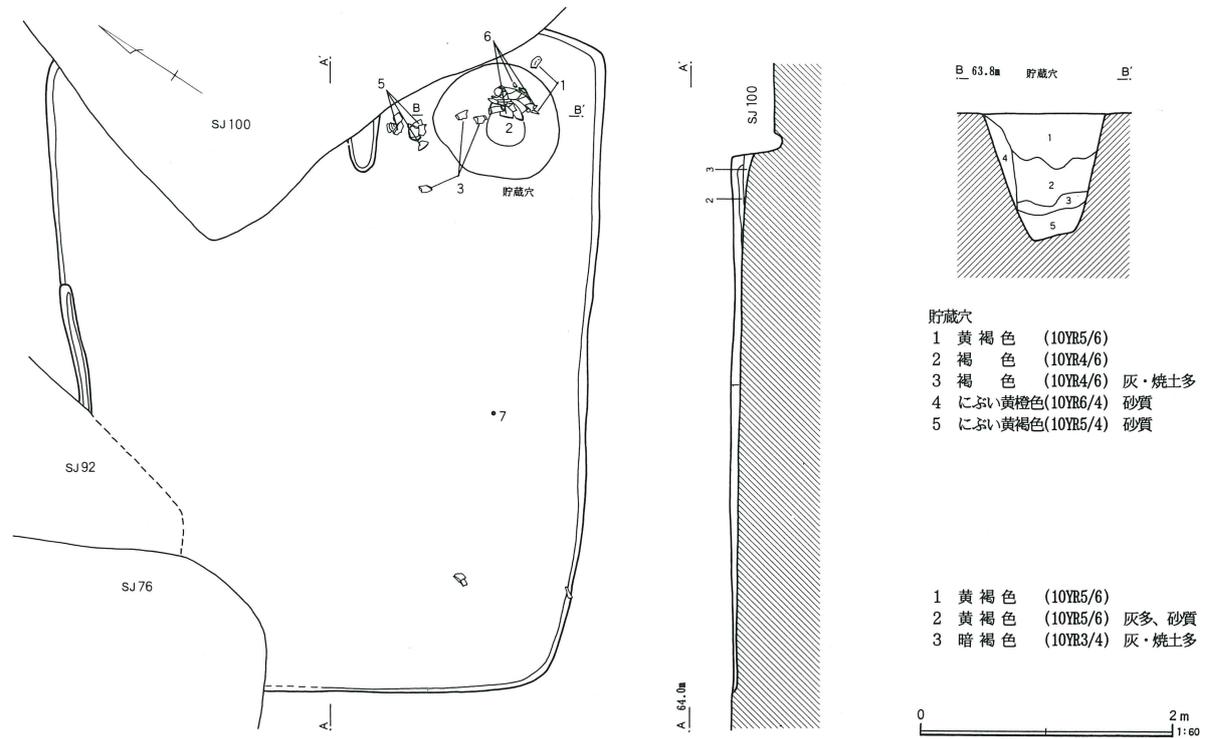
第165図 第113号住居跡・出土遺物



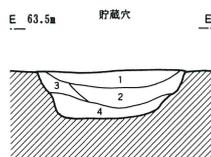
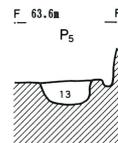
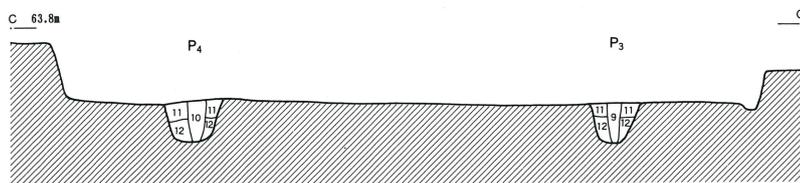
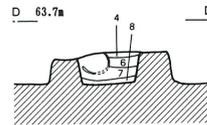
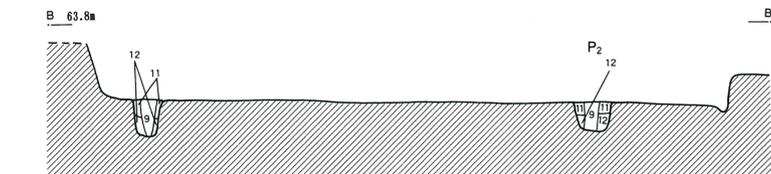
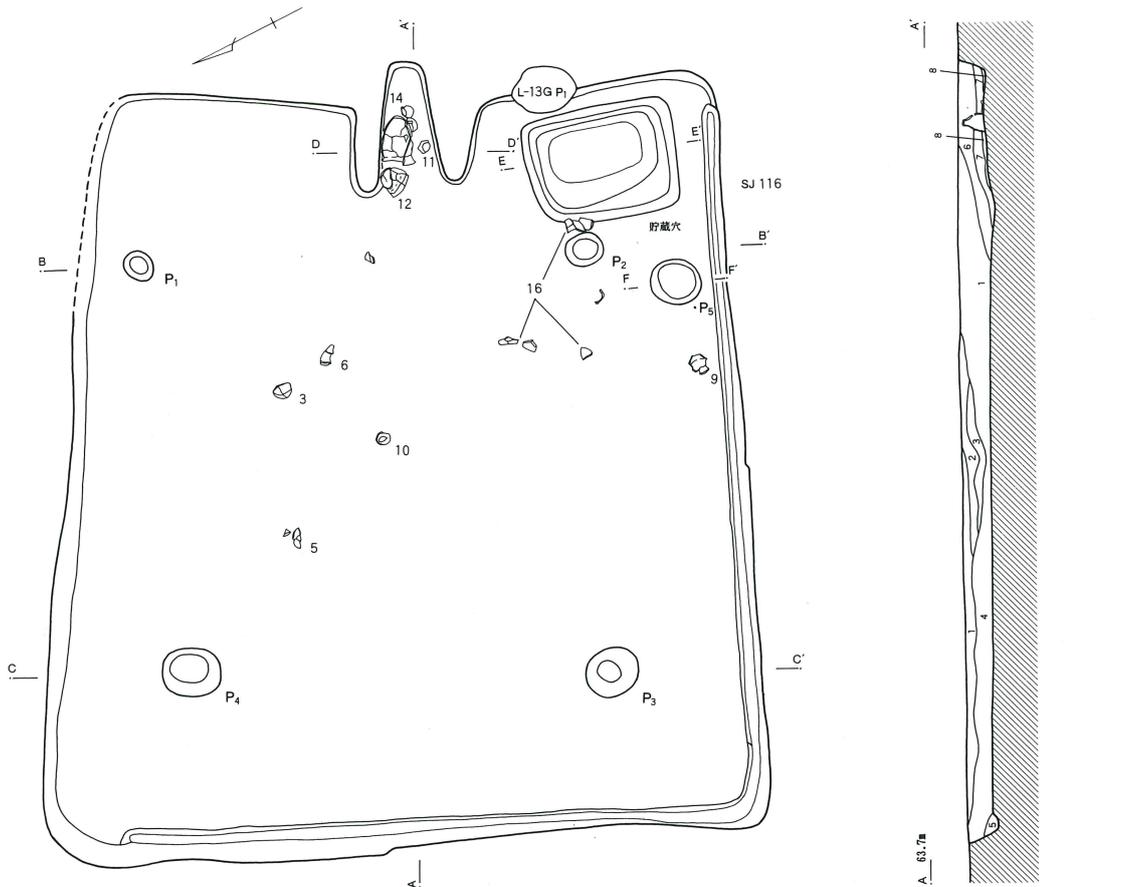
- 1 暗赤色 (10R3/4)
- 2 褐色 (10YR4/6)
- 3 黄褐色 (10YR5/6)
- 4 におい黄褐色(10YR5/4) 白色微粒



第166図 第114号住居跡・出土遺物



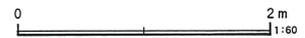
第167図 第115号住居跡



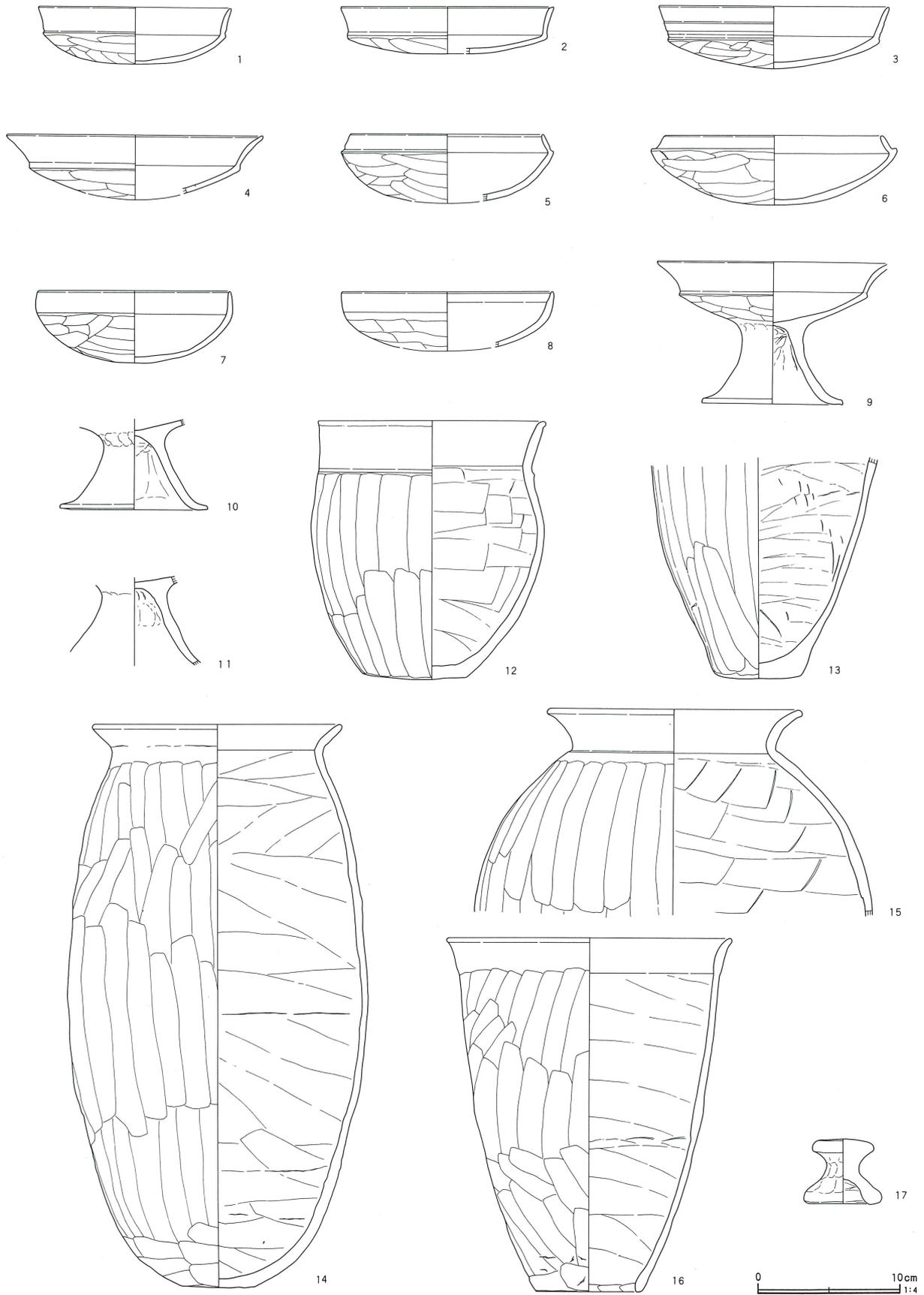
- 1 におい黄褐色(10YR4/3) 地山粒・焼土粒・炭化物粒少
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック少・焼土・炭化物ブロック多
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山ブロック多、炭化物粒・焼土粒少
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山粒・炭化物粒少
- 5 灰黄褐色 (10YR5/2) 地山粒多、砂質
- 6 におい黄褐色(10YR4/3) 地山粒・焼土・炭化物粒少
- 7 灰褐色 (7.5YR4/2) 焼土ブロック多、天井焼土
- 8 灰褐色 (7.5YR5/2) 灰層、焼土粒・炭化物粒少
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 柱痕、地山粒・炭化物粒少、締めりなし
- 10 におい黄褐色(10YR5/4) 柱痕、地山粒・炭化物粒少、締めりなし
- 11 暗褐色 (10YR3/4) 充填土、地山ブロック・炭化物粒・焼土粒少
- 12 におい黄褐色(10YR5/4) 充填土、地山ブロック少、砂質、締めりなし
- 13 灰褐色 (7.5YR4/2) 地山ブロック多、炭化物少

貯蔵穴

- 1 におい黄褐色(10YR4/3) 地山・焼土・炭化物粒少
- 2 におい黄褐色(10YR4/3) 地山粒・炭化物粒少
- 3 におい黄褐色(10YR5/3) 地山粒・炭化物粒多、やや砂質
- 4 灰黄褐色(10YR4/2) 地山ブロック少、砂質



第168図 第115号住居跡出土遺物



第115号住居跡 (第167・168図)

L-13グリッドを中心に位置する。第116号住居跡を切っている。平面は、軸長5.78m×5.35mの台形を呈し、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N-116°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は100cm×53cmの隅丸方形を呈し、深さ25cmを測るが、火床面は床面と同じ高さである。

柱穴は4本の主柱穴が検出された。径23~45cmの円形で、深さ23~33cmを測る。

貯蔵穴は、南隅に備わる。軸長120cm×92cmの長方形で、内周に一段テラスを有し、深さ37cmを測る。

遺物は、土師器坏・高杯・小型甕・甕・壺・甗と用途不明の土製品が出土した。

第116号住居跡 (第169図)

L-13・14グリッドに位置する。第115号住居跡・第2号掘立柱建物跡に切られている。平面は、軸長5.57m×4.22mの台形を呈し、深さ9cm程を測る。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は104cm×50cmの楕円形を呈し、床面からの深さ12cmを測る。遺物は、土師器甕・甗が出土した。

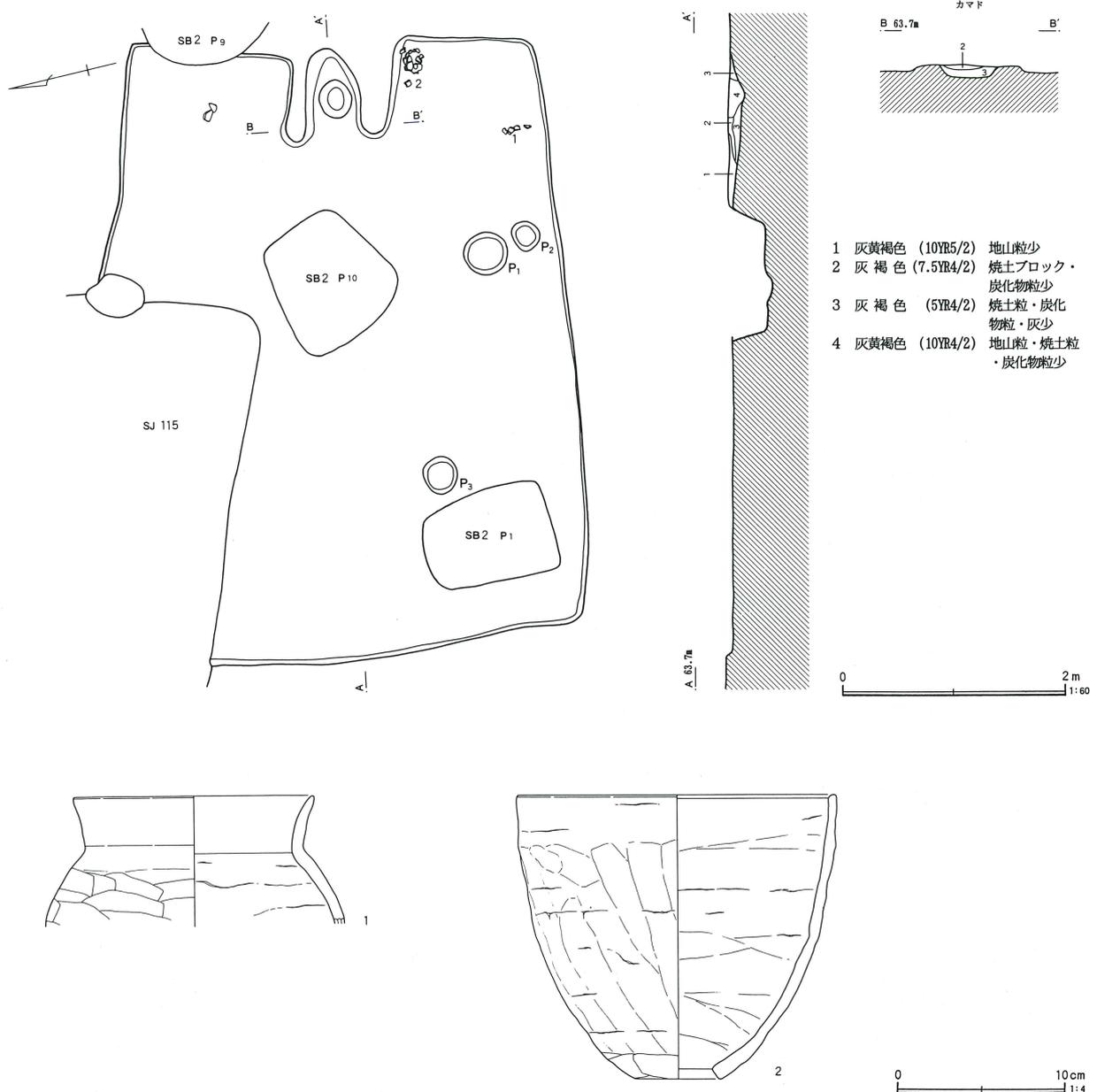
第115号住居跡出土遺物観察表 (第168図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.6)	4.0		BEJ	普通	灰褐	50	B区・BC区	
2	坏	(15.0)	3.3		DEFL	普通	灰褐	10	P3	
3	坏	(16.2)	4.5		ABEGJ	普通	にぶい赤褐	45	Na8	
4	坏	(18.0)			A E J L	不良	にぶい橙	15	B区・BC区	
5	坏	(13.6)			A B G J	良	にぶい赤褐	40	Na10	
6	坏	15.2	4.9		BE	普通	にぶい赤褐	50	Na7・AD区	
7	坏	13.7	5.1		F	不良	橙	85	B区・BC区	
8	坏	(15.0)			BF	普通	橙	15	P1	
9	高坏	(16.4)	10.0	9.9	BJL	不良	橙	60	Na14	床+3cm 坏体部外面へラ削り 脚部不明
10	高坏			10.4	BEJ	不良	橙	80	Na9	
11	高坏				BEJ	不良	橙	60	Na4	カマド
12	甕	16.0	18.2	7.2	BEJL	普通	にぶい黄橙	65	Na2	カマド
13	甕			6.0	BJL	不良	明赤褐	100	Na16	カマド支脚
14	甕	17.6	41.8	5.0	AJL	普通	にぶい褐	60	Na1	カマド 外面上位↓方向、中位以下↑方向 下端→方向へラ削り
15	壺	(18.0)			JL	普通	橙	30	B区・BC区	外面↑方向へラ削り
16	甗	20.0	25.0	7.4	BL	不良	橙	60	Na11・13・15・カマド・B・BC区	貯蔵穴
17	土製品	4.3	4.6	5.45	BJ	不良	にぶい黄橙	90	BC区	

第116号住居跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(14.4)			JL	不良	にぶい橙	20	Na2~Na4	
2	甗	(19.0)	17.0	5.2	BJL	不良	にぶい褐	60	Na6・Na7	

第169図 第116号住居跡・出土遺物



第117号住居跡 (第170・171図)

M-13・14グリッドに位置する。第2号掘立柱建物跡に切られ、第135号・第136号住居跡を切り、第118号住居跡の下にある。平面は、軸長6.43m×5.22mの方形を呈し、深さ28cm程を測る。壁溝は全周し、幅12~22cm、深さ5~8cmを測る。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

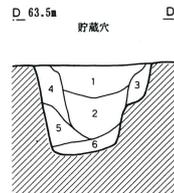
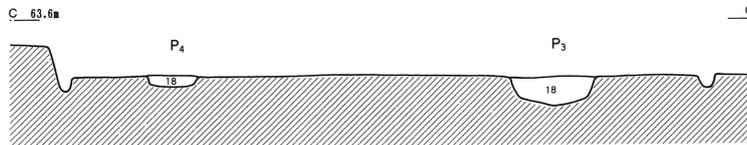
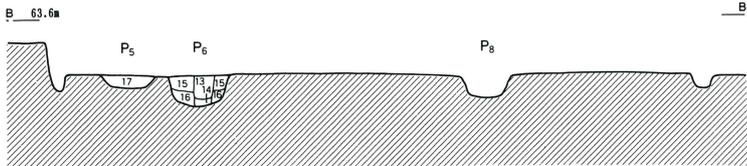
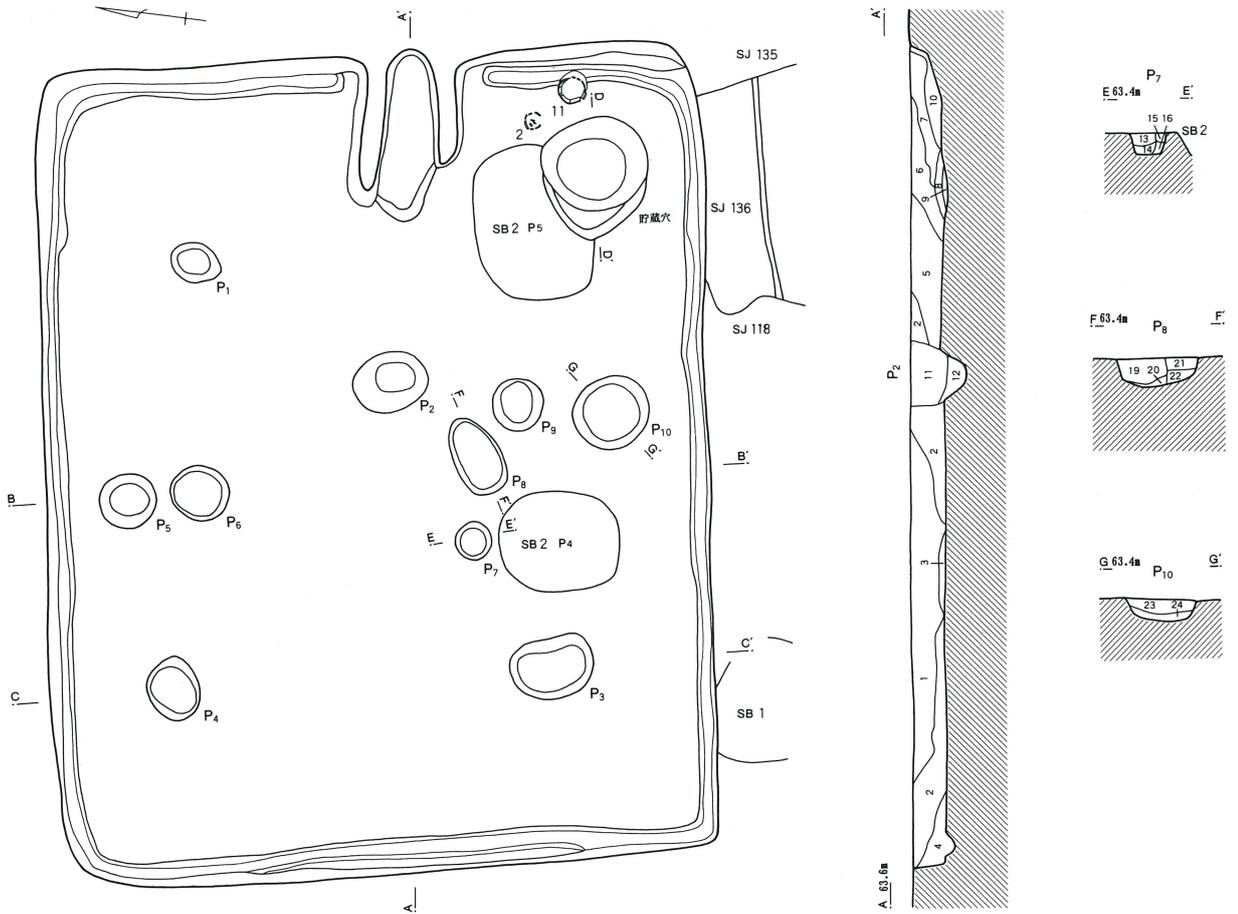
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は137cm

×47cmの楕円形を呈し、床面より僅かに窪んだ状態を呈している。

柱穴は3本の主柱穴が検出され、1本は第2号掘立柱建物跡に切られ不明である。径22~30cm、径40cm×48cmの円形、軸長68cm×44cmの楕円形を呈したもので、深さ10~23cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に備わり、北西部が第2号掘立柱建物跡に切られている。径85cm×100cmで西側内周が

第170図 第117・136号住居跡



貯蔵穴

- 1 黄褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化物粒
- 2 黄褐色 (10YR5/4) 焼土粒・炭化物粒極多
- 3 黄褐色 (10YR5/3) 灰黄褐色土ブロック、砂質
- 4 黄褐色 (10YR5/3) 焼土粒・炭化物粒多
- 5 黄褐色 (10YR5/3) 焼土粒・炭化物粒少
- 6 黄褐色 (10YR5/3) 炭化物粒極多 焼土ブロック

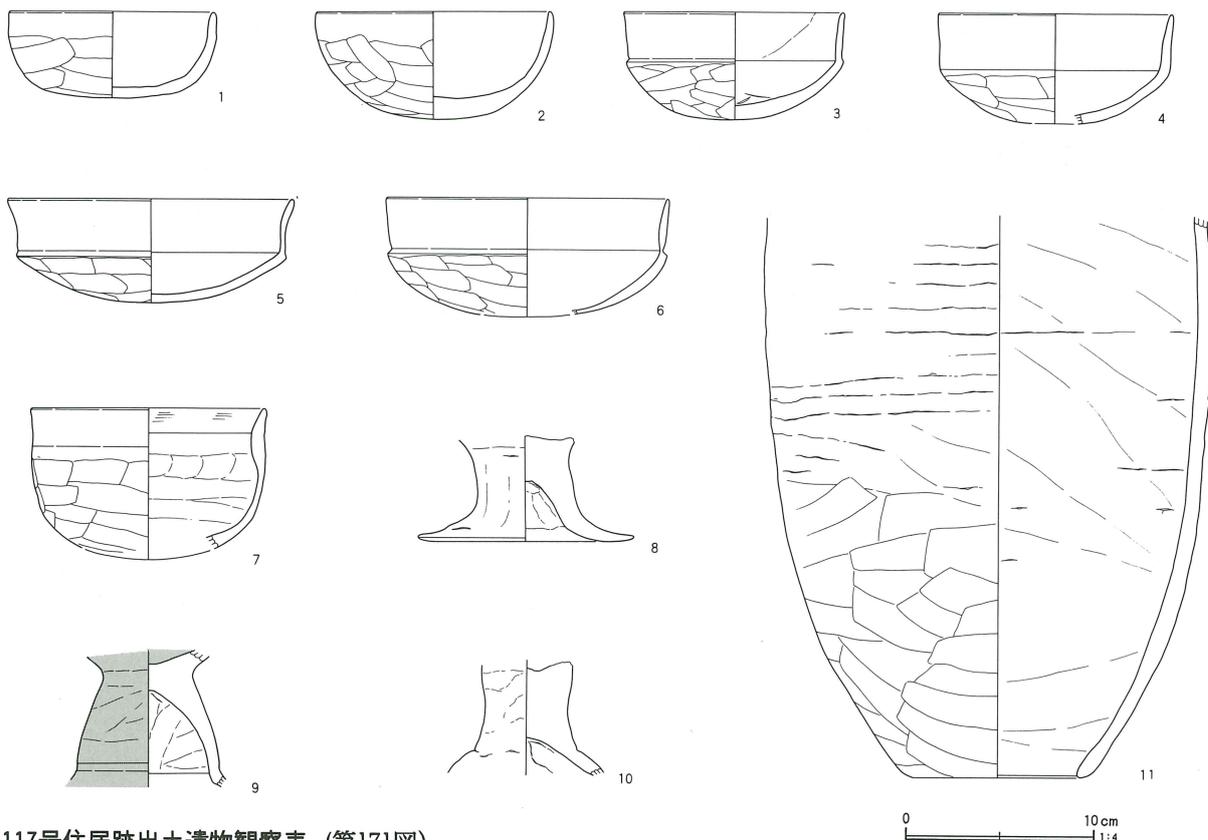
- P1 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒・焼土粒・炭化物粒多
- P9 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒・焼土粒少

- 1 黄褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化物粒少、粘土層斑状、灰黄褐色シルト少
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物・焼土粒多
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物・焼土粒極多、灰黄褐色シルト少
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 灰黄褐色シルト多
- 5 黄褐色 (10YR5/3) 焼土・炭化物粒少、シルト質
- 6 黄褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化物粒少、シルト質、カマド構築土
- 7 黄褐色 (10YR5/4) 焼土ブロック極多
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒多
- 9 黄褐色 (10YR5/4) 焼土粒極多
- 10 黒褐色 (10YR3/2) 焼土ブロック
- 11 黒褐色 (10YR3/2) 灰黄褐色土ブロック多、焼土粒・炭化物粒
- 12 黒褐色 (10YR3/2) 灰黄褐色土ブロック少

- 13 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒・焼土粒少、柱痕
- 14 褐灰色 (10YR6/1) 地山粒少、粘性あり 柱痕
- 15 暗褐色 (10YR3/4) 地山粒少、充填土
- 16 にぶい黄褐色(10YR5/4) 地山粒・地山ブロック多、充填土
- 17 にぶい黄褐色(10YR4/3) 地山粒・焼土粒・炭化物粒多
- 18 にぶい黄褐色(10YR4/3) 地山粒多、焼土粒・炭化物粒少
- 19 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒・炭化物粒少
- 20 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒・炭化物粒多
- 21 灰黄褐色 (10YR4/2) 地山粒少
- 22 にぶい黄褐色(10YR5/3) 地山ブロック多
- 23 にぶい黄褐色(10YR4/3) 地山粒・炭化物粒少
- 24 にぶい黄褐色(10YR4/3) 炭化物粒少



第171図 第117号住居跡出土遺物



第117号住居跡出土遺物観察表 (第171図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(11.0)	4.6		B D J	不良	にぶい橙	30		
2	坏	12.4	5.7		B D L	不良	橙	85	No1	
3	坏	11.7	5.7		B E	普通	明赤褐	80	No2	
4	坏	(12.4)	5.8		A B E J	普通	橙	50		
5	坏	(15.0)	5.5		B E J	普通	にぶい橙	15		
6	坏	(15.0)			B E	不良	橙	30		
7	碗	(12.4)			B E L	普通	橙	25		
8	高坏			(10.4)	B D E J	不良	にぶい黄橙	80		
9	高坏				B D E J	普通	にぶい赤橙	60	貯蔵穴	坏部内面・脚部外面赤彩
10	高坏				A B D J	普通	にぶい橙	90		
11	甗			9.0	B J L	普通	にぶい褐	60	No2・カマド	

第117号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	6.80	2.18	0.45	29.16	B a III	灰黄褐	100	
2	6.99	2.18	0.46	29.87	B a III	褐灰	100	P3

テラス状で、主体となるのは径75cm×85cmの円形で、深さ70cmを測る。

遺物は、土師器坏・碗・高杯脚部・甗、土錘が出土した。

第136号住居跡 (第170図)

M-14グリッドに位置する。第117・118・135号住居跡切れ、南辺の一部1.78mの検出のみで、深さは

6cmを測る。カマド等の施設は確認できなかった。

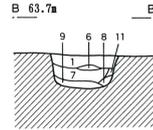
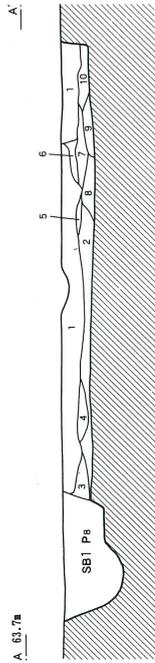
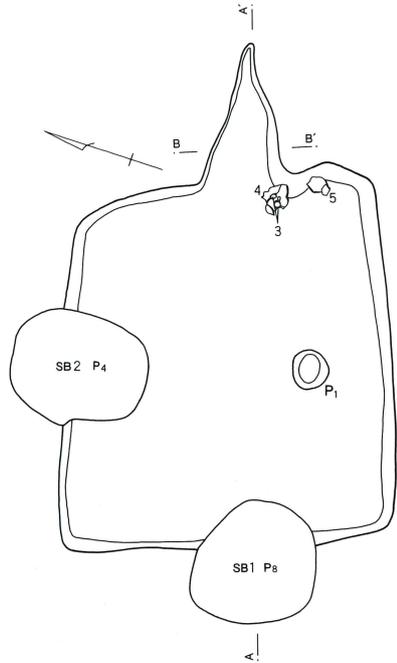
第118号住居跡 (第172図)

M-13グリッドを中心に位置する。第1号・第2号掘立柱建物跡に切られ、第117号・第136号住居跡を切っている。平面は、軸長2.97m×2.60mのやや歪んだ方形を呈し、深さ25cm程を測る。主軸方位は、N-72°-Eを指す。

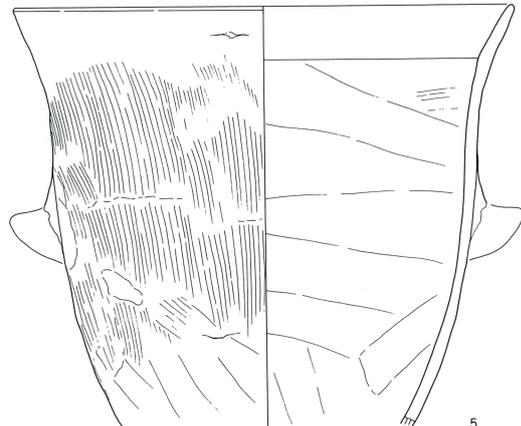
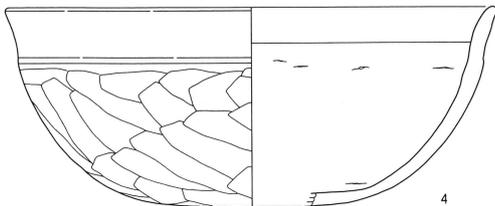
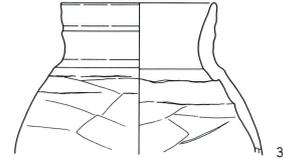
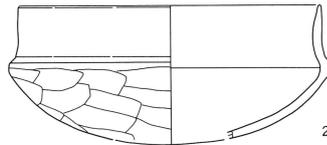
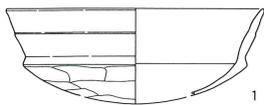
カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は120cm×70cmの三角形を呈し、火床面と床面は同じ高さである。

遺物は、土師器坏・甑、土錘が出土した他、カマド右袖にあたる場所から、土師器壺・鉢が出土した。

第172図 第118号住居跡・出土遺物



- 1 にぶい黄褐色(10YR4/3) 白色微粒多
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト質
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 灰白色シルト
- 4 鉄滓層
- 5 灰層
- 6 焼土層
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 焼土多、炭化物少
- 8 褐色 (10YR3/4) 灰少
- 9 褐色 (10YR3/4)
- 10 灰層 褐色土
- 11 暗褐色 (10YR3/3) 焼土少



第118号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(1.78)	1.32	0.55	(2.47)		橙	25	
2	(2.18)	1.73	0.43	(6.10)	B a	明赤褐	30	
3	(4.18)	2.14	0.47	(12.60)	B a	明赤褐	45	

第118号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.6)			B D J	普通	にぶい褐	20	Na1	
2	坏	(16.0)			D E J	普通	にぶい赤褐	25	Na1	
3	壺	8.0			E J	不良	にぶい橙	80	Na2	床
4	鉢	(26.0)	10.5		A B J L	普通	にぶい褐	40	Na1	床
5	甑	(26.0)			A B E J	普通	にぶい赤褐	30	Na3	床

第125号住居跡 (第173図)

N-13グリッドに位置する。南側が調査区域外になっている。平面は、軸長3.62m×2.30m以上、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N-72°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は157cm×100cmで焚口部あたりがピット状を呈し、床面からの深さ8cmを測る。

遺物は、須恵器坏・皿、土師器台付甕・甕、土錘が出土した。

第127号住居跡 (第174図)

M-12・13グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡に切られ、第128号住居跡と重複するが切り合いは不明である。平面は、軸長3.62m×3.08mの方形を呈し、深さ6cm程を測る。主軸方位は、N-52°-Eを指す。

カマドは、北東壁の北西寄りに設けられている。燃焼部は70cm×36cmの楕円形を呈し、床面より僅かに窪んだ状態を呈する。

遺物は、土錘、土師器片が出土した。

第125号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.23)	1.57	0.52	(6.06)	B b	黒	30	
2	6.98	2.53	0.58	36.58	B a III	灰黄褐	100	

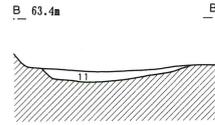
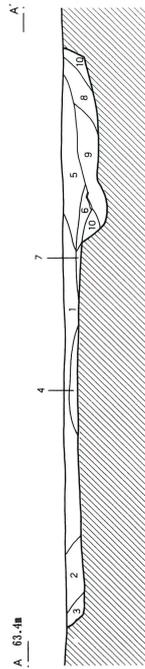
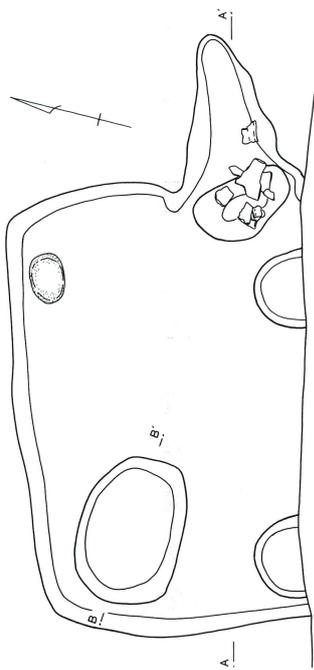
第125号住居跡出土遺物観察表 (第173図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.2	4.5	5.2	B J L	良	灰	70		
2	皿	(13.8)	2.2	(5.8)	B J L	良	灰	40	カマド	
3	台付甕	(12.0)			B G J	不良	にぶい黄橙	90	カマドNa5・6	カマド
4	甕	(18.0)			D E J	普通	にぶい褐	15	カマドNa8	カマド
5	甕	(19.4)			D E J L	普通	にぶい赤褐	40	カマドNa3・6	カマド
6	甕	(19.0)			H J	普通	にぶい褐	20	カマドNa7	カマド

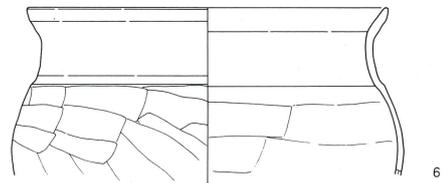
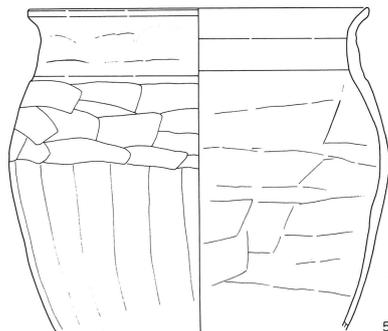
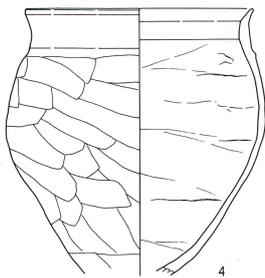
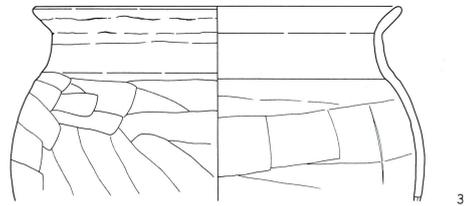
第127号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.27)	1.44	0.70	(6.62)	B a	橙	70	A・D区

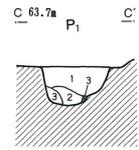
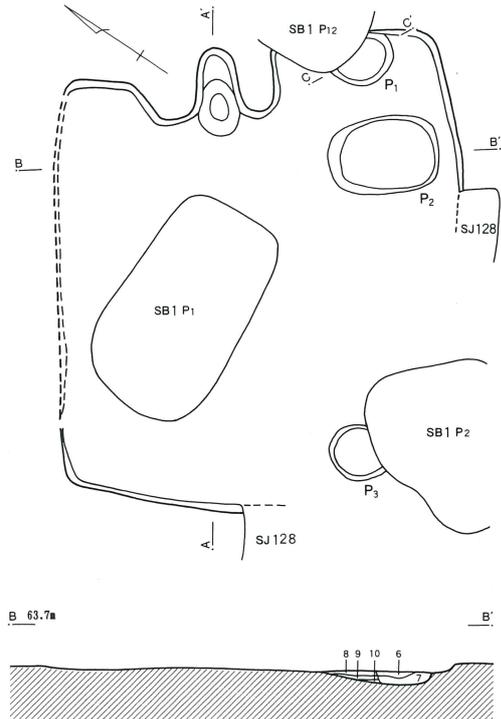
第173图 第125号住居跡・出土遺物



- 1 褐色 (10YR4/4) 炭化物粒少
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物粒・焼土少
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色土少
- 4 暗黄褐色 (10YR7/4)
- 5 褐色 (10YR4/4) 黄褐色土少
- 6 黑褐色 (10YR2/3) 灰若干
- 7 黑褐色 (10YR2/3) 黄褐色土若干
- 8 褐色 (10YR4/6) 烧土・炭化物若干
- 9 褐色 (10YR4/1) 烧土・炭化物多
- 10 褐色 (10YR4/6)
- 11 黄褐色 (10YR5/6)



第174図 第127号住居跡



- P 1
 1 暗褐色 (10YR3/3)
 2 灰黄褐色 (10YR4/2)
 3 にぶい黄褐色(10YR5/4)

- 1 にぶい黄褐色(10YR6/4) 焼土若干
 2 焼土層
 3 明黄褐色 (10YR6/4)
 4 褐色 (10YR4/6)
 5 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物粒
 6 黒褐色 (10YR2/3)
 7 暗褐色 (10YR3/3)
 8 にぶい黄褐色(10YR5/3)
 9 にぶい黄褐色(10YR6/4)
 10 灰黄褐色 (10YR4/2)



第128号住居跡 (第175・176図)

M-12・13グリッドに位置する。平面は、軸長4.57m×3.86mの方形を呈し、深さは西壁のみで30cmを測るが、他は6cm程である。主軸方位は、N-71°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は115cm×45cmの楕円形を呈し、床面より僅かに窪んでいる。

貯蔵穴は、南東隅に備わる。径90cm×94cmの円形で、深さ63cmを測る。

遺物は、土師器坏・高杯・鉢・甕・甑・壺、ミニチュア土器、土製勾玉、土錘が出土した。土製勾玉は長さ2.5cm、孔径2.0~2.5mm、重さ1.66gでカマドから出土した。

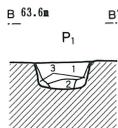
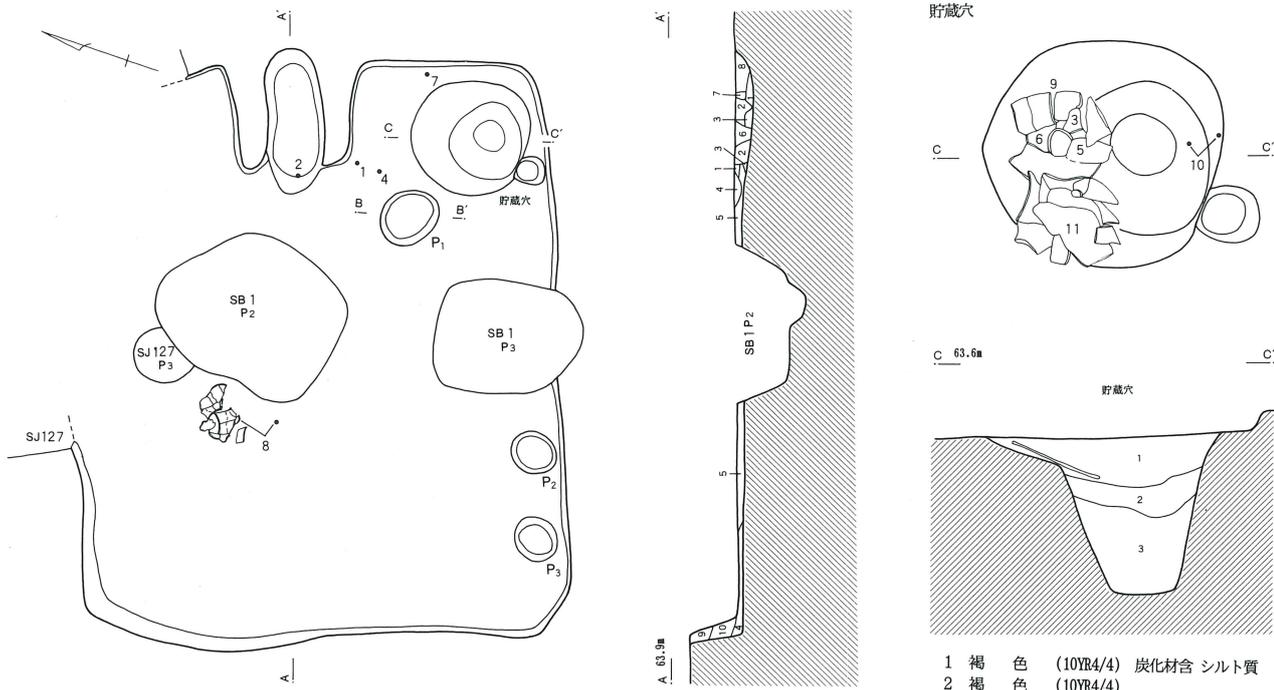
第128号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.69)	1.94	0.42	(10.39)	B a	褐灰	40	カマド
2	(4.76)	1.60	0.48	(9.43)	B a	淡黄	90	B C 区
3	7.45	2.23	0.42	28.32	B a V	浅黄橙	100	カマド
4	(3.15)	1.55		(6.08)	A	にぶい橙	30	
5	(5.20)	1.69		(11.82)	A a	にぶい橙	70	

第128号住居跡出土遺物観察表 (第175・176図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	10.5	4.9		B E F L	不良	にぶい橙	95	Na2	床+3cm
2	坏	11.6	4.9		D J	不良	橙	100	Na1	カマド
3	坏	12.3	4.6	6.7	B E J	不良	にぶい黄橙	100	Na7	カマド 外面に胎土付着
4	坏	13.8	7.6		B D J	不良	にぶい黄橙	50	Na3	床
5	高坏	13.0	10.1	7.2	B E J L	不良	にぶい黄橙	90	Na8	カマド
6	高坏	15.0	11.1	(11.0)	B E J	不良	にぶい橙	70	Na6・Na8・P1	カマド 調整痕不明
7	壺			5.4	A B E J L	普通	にぶい橙	40	Na5	床 内面黒色・刷毛目
8	甕	15.4			B J L	普通	にぶい橙	70	Na13・Na14	床
9	鉢	35.6	14.2	7.7	B J	不良	にぶい黄橙	90	Na17	カマド
10	甑			9.0	E F J L	普通	にぶい橙	70	Na10・11	カマド
11	甑	25.3	31.5	9.6	B E G	不良	にぶい橙	70	Na16・P1	カマド
12	ミニチュア	1.4	2.85	3.7	B D E J	不良	にぶい赤褐	95		

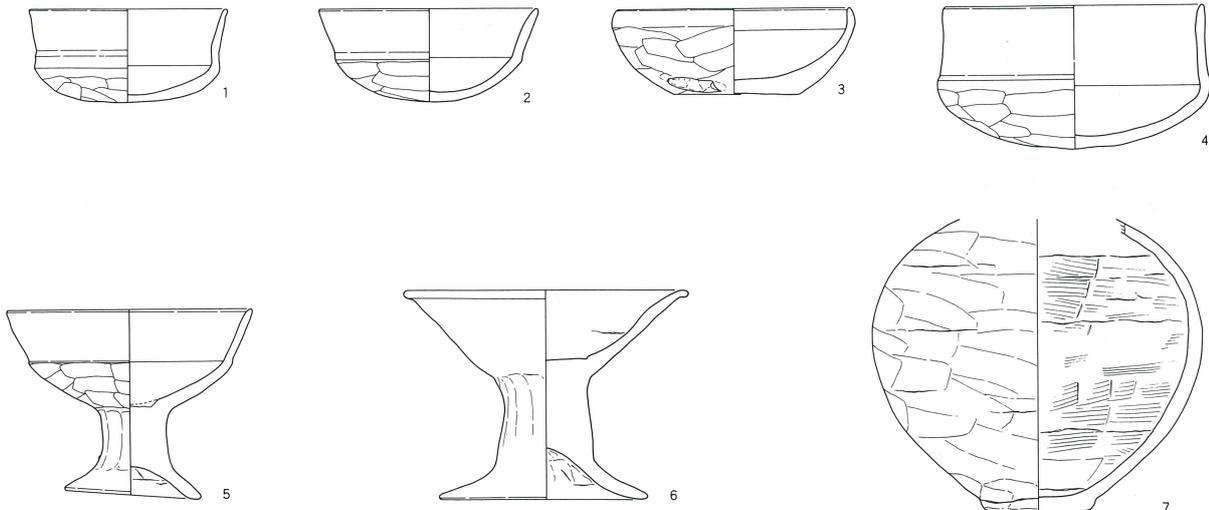
第175図 第128号住居跡・出土遺物 (1)



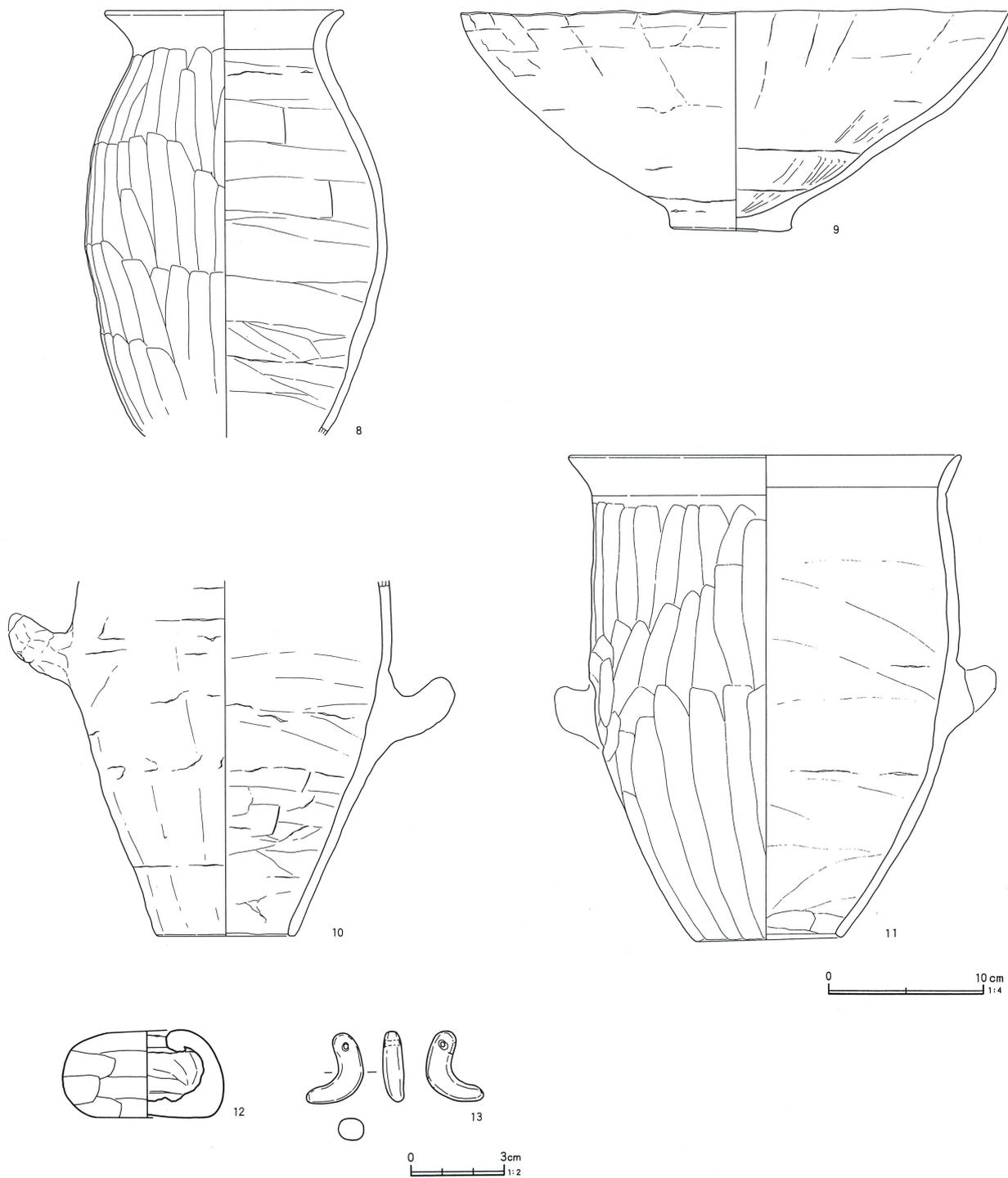
- P1
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 (10YR3/2) 黄褐色・灰白色シルト | 1 褐色 (10YR4/6) 焼土極多 |
| 2 褐色 (10YR4/4) | 2 褐色 (10YR4/6) シルト質 明黄褐色土少 |
| 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト質 | 3 焼土層 |
| | 4 黄褐色 (10YR5/8) 焼土少 |
| | 5 黄褐色 (10YR5/6) |

- 貯蔵穴
- | |
|--------------------------|
| 1 褐色 (10YR4/4) 炭化材含 シルト質 |
| 2 褐色 (10YR4/4) |
| 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質 |

- | |
|--------------------------|
| 6 褐色 (10YR4/4) 焼土・明黄褐色土多 |
| 7 にぶい黄褐色(10YR6/3) 粘質土 |
| 8 褐色 (10YR4/4) 炭化物・焼土少 |
| 9 褐色 (10YR4/6) 炭化物粒少 |
| 10 褐色 (10YR4/6) |



第176図 第128号住居跡出土遺物 (2)



第129号住居跡 (第177図)

M・N-12グリッドに位置する。第133号住居跡を切っている。平面は、軸長3.06m×3.57mの方形を呈し、深さ14cm程を測る。主軸方位は、N-35°-E

を指す。

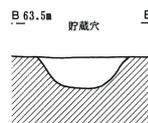
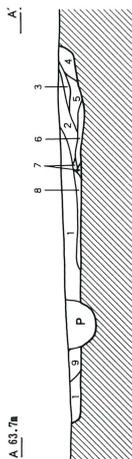
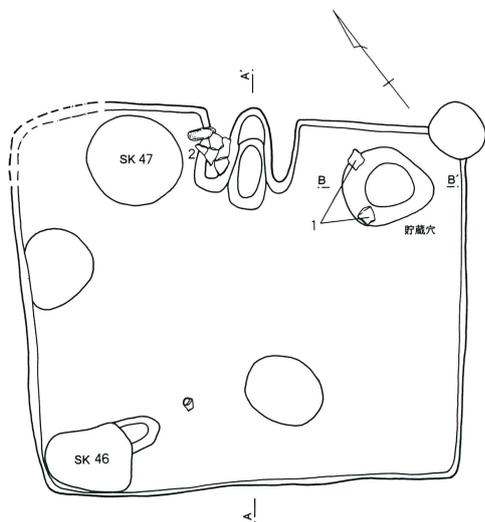
カマドは、北東壁に設けられている。燃烧部は82cm×35cmの楕円形を呈し、床面から僅かに窪んでいる。

貯蔵穴は、東隅に備わる。径73cm×61cmの歪んだ円形で、深さ23cmを測る。

遺物は、土師器坏、須恵器甕、石製模造品が出土し

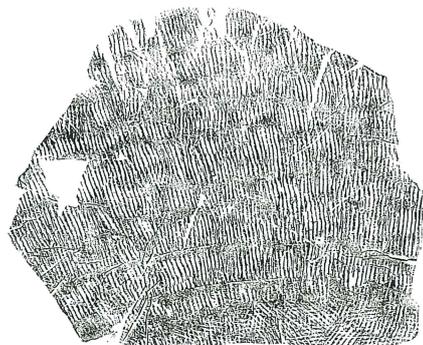
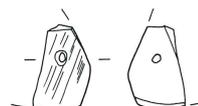
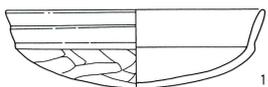
た。石製模造品は有孔円板の破片で遺存長2.20cm、同幅1.42cm、厚さ3.1~3.5mm、重さ1.68gで覆土中から出土した。

第177図 第129号住居跡・出土遺物



貯蔵穴 暗褐色 (10YR3/3) 炭化材・焼土少

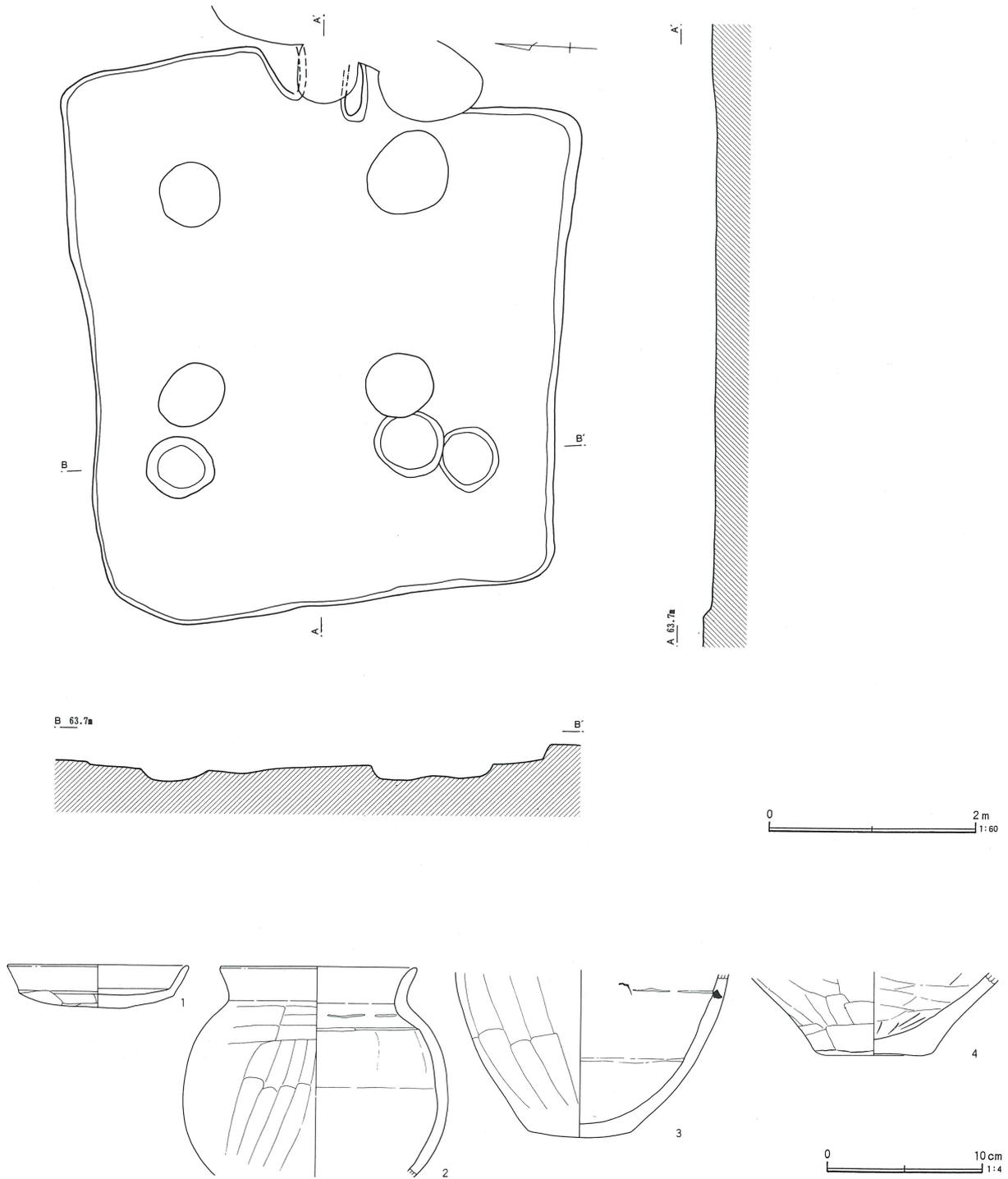
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 灰少
- 2 暗褐色 (10YR3/2) 炭化物粒少
- 3 にふい黄褐色(10YR4/3) にふい黄褐色土少
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 焼土極多
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 焼土多 明黄褐色土少
- 6 にふい黄褐色(10YR5/6) 灰少
- 7 にふい黄褐色(10YR5/3)
- 8 黒褐色 (10YR3/2) にふい黄褐色土多
- 9 にふい黄褐色(10YR4/3)



第129号住居跡出土遺物観察表 (第177図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.6	3.7		ABDEJ	普通	にぶい赤褐	95	Na2・Na5・貯蔵穴	外面平行叩き 内面青海波文
2	甕				BL	良	黒褐		Na3	

第178図 第132号住居跡・出土遺物



第132号住居跡 (第178図)

K・L-11グリッドに位置する。第91号・第96号住居跡に切られている。平面は、軸長5.48m×4.82mの方形を呈し、深さ13cm程を測る。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられているが、第96号住居跡のカマドによって切られており、規模・構造等は不明である。

遺物は、土師器坏・甕、土錘が出土した。

第132号住居跡出土遺物観察表 (第178図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	11.5	2.8		E J	普通	浅黄橙	95		
2	甕	(12.4)			B H J	普通	橙	40	B区	
3	甕			6.5	A D E L	普通	灰黄褐	100	B区	
4	甕			7.6	B E F J L	普通	灰黄褐	40	B区	

第132号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	7.43	1.81	0.58	18.27	B a III	淡黄	100	B区

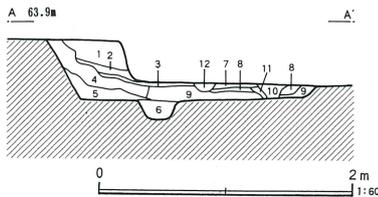
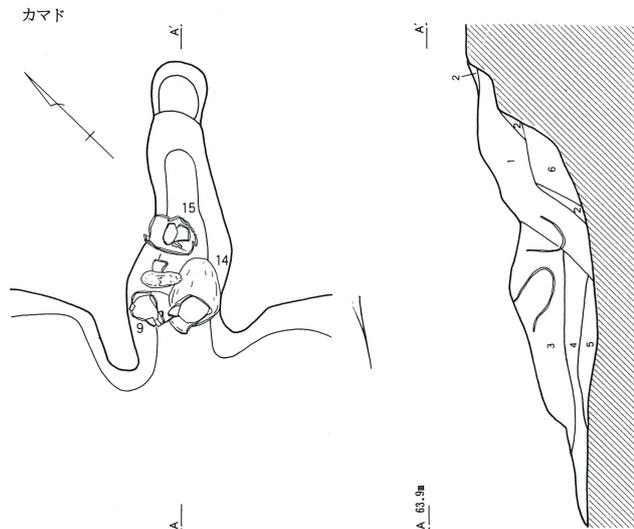
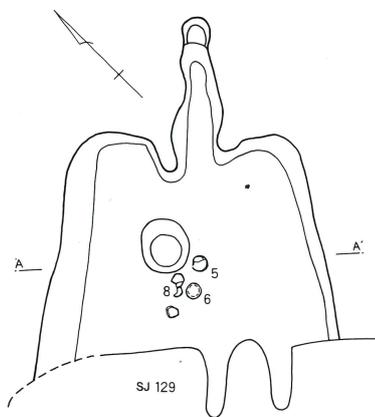
第133号住居跡 (第179・180図)

M-12グリッドに位置する。第129号住居跡に切られている。平面は、軸長1.70m以上×2.25mの台形を呈すると推定され、深さ東壁のみで45cm程、他は14cm程を測る。主軸方位は、N-47°-Eを指す。

カマドは、北東壁に設けられている。燃烧部は167cm×37cmで、床面から僅かに窪んでいる状態である。煙道部は燃烧部と段差を有し、19cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・椀・甕・壺・甌、須恵器蓋が出土した。

第179図 第133号住居跡・カマド

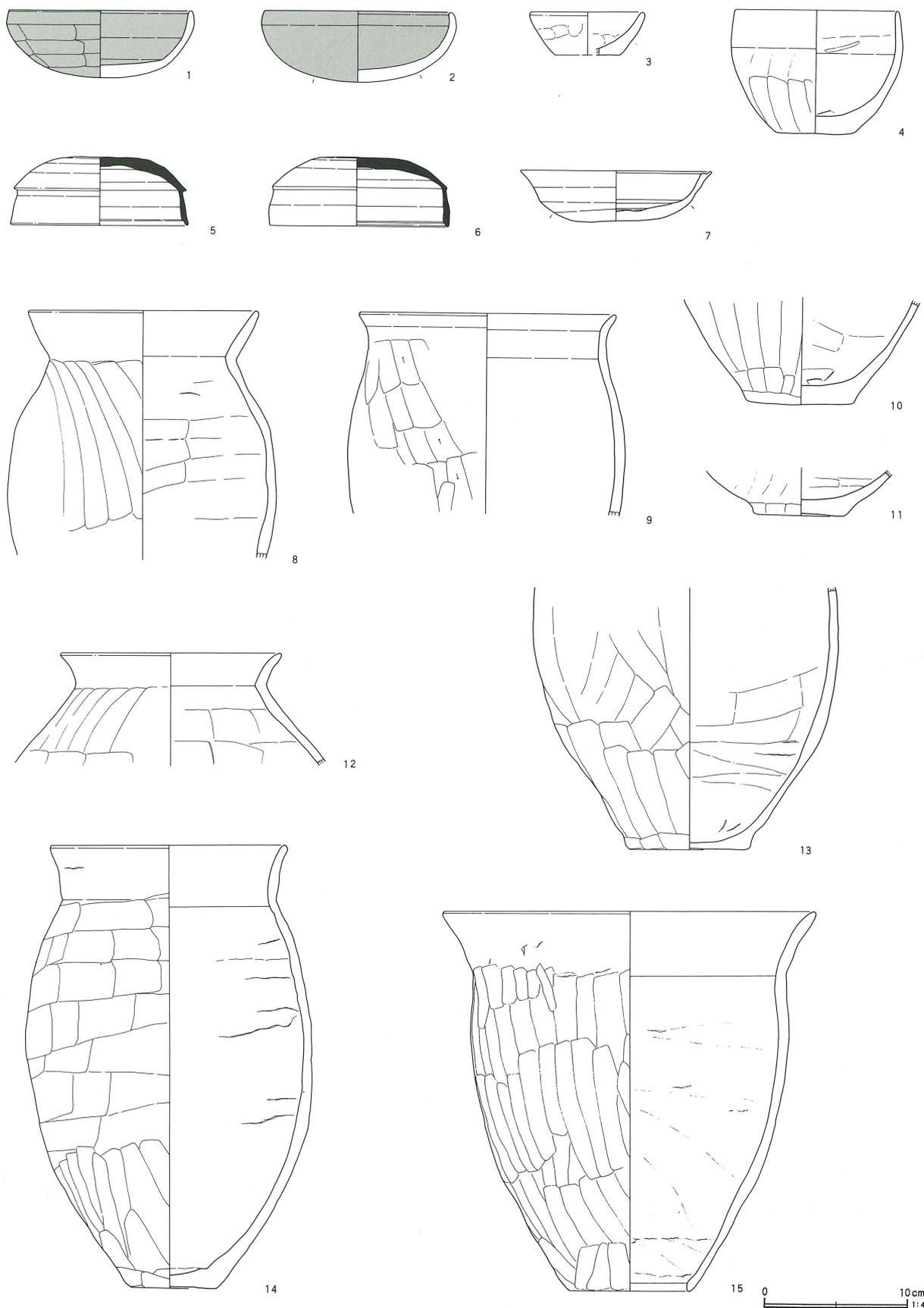


- 1 褐色 (10YR4/6)
- 2 焼土層
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 焼土少
- 4 褐色 (10YR4/4) 焼土極多
- 5 黒褐色 (10YR2/3) 焼土少、灰極多
- 6 褐色 (10YR4/4)

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3)
- 2 黒色 (10YR2/1) 灰多
- 3 にぶい黄褐色 (10YR6/3)
- 4 黒色 (10YR2/1) 灰・焼土若干
- 5 褐灰色 (10YR4/1)
- 6 黒褐色 (10YR3/1) にぶい黄褐色土粒子
- 7 黒褐色 (10YB3/1)
- 8 黒褐色 (10YB3/2) 黄褐色土粒子多
- 9 黒褐色 (10YB3/1) 炭化物粒子若干
- 10 暗褐色 (10YB3/2)
- 11 にぶい黄褐色 (10YR6/4)
- 12 にぶい黄褐色 (10YR5/4)



第180图 第133号住居跡出土遺物



第133号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.7	4.7		BEJ	普通	にぶい橙	60		内外面赤彩
2	坏	(12.0)	5.0		BEFJ	普通	橙	55		内外面赤彩 底部右方向へのヘラ削り
3	坏	(7.7)	3.0	(4.5)	BDE	普通	にぶい橙	30	SK45	
4	椀	(11.3)	8.6	5.4	ABCDE	不良	にぶい橙	40	SK45	外面↓方向ヘラ削り 底部内面ヘラナデ ・外面←方向ヘラ削り
5	蓋	(12.2)	4.8		BJ	普通	褐灰	80	Na5	床+5cm天井部外面右回転ヘラ削り
6	蓋	(12.4)	4.8		BJL	普通	灰褐	70	Na7	床+3cm天井部外面右回転ヘラ削り
7	坏	13.4	6.6		ABEJ	不良	橙	50		体部外面下端・底部右回転ヘラ削り
8	甕	(15.7)			BEHJL	普通	灰褐	40	Na6	床+10cm
9	甕	(17.6)			HJL	不良	にぶい褐	20	カマドNa3	カマド 10と同一個体
10	甕			7.5	HJL	不良	灰褐	30	カマドNa3	カマド 外面↓方向ヘラ削り 9と同一
11	甕			6.5	ABE	普通	橙	100		底部内外面ヘラナデ
12	壺	(15.2)			A EJ	不良	にぶい橙	60	SK45	
13	甕			8.4	ABJL	普通	にぶい橙	60		
14	甕	16.2	31.1	6.0	ABJL	普通	にぶい赤褐	90	カマドNa2	カマド
15	甗	(26.0)	26.6	(8.0)	BEJL	普通	にぶい黄橙	40	カマドNa1・SK45	カマド

2. 土坑

今回、報告対象となるのは、第1号土坑から第46号土坑である。第48号住居跡カマド前の遺構を土坑と捉えていなかったものは14A号土坑として報告する。なお、第29号・第45号土坑は欠番である。

第1号土坑 (第181・182図)

Q-2グリッドに位置する。平面は78cm×50cmの不整楕円形で、深さ51cmを測る。主軸方位は、N-42.5°-Eを指す。

遺物は、上層より土師器坏・甗が出土した。2・3の坏は重なった状態で出土した。

第2号土坑 (第181図)

M-3グリッドに位置する。平面は95cm×85cmの不整円形で、深さ19cmを測る。主軸方位は、N-88°-Wを指す。

第3号土坑 (第181・182図)

M-4グリッドに位置する。平面は74cm×72cmの円形で、深さ38cmを測る。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

遺物は、土師器坏・甕・甗が出土した。

第4号土坑 (第181・182図)

M-5グリッドに位置する。平面は61cm×57cmの円形で、深さ33cmを測る。主軸方位は、N-8°-Wを

指す。

遺物は、土師器甕が、覆土上層より出土した。

第5号土坑 (第181図)

N-5グリッドに位置する。平面は116cm×80cmの楕円形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-13°-Eを指す。

第6号土坑 (第181図)

N-5グリッドに位置する。平面は93cm×72cmの不整楕円形で、西側はテラス状を呈し東側は71cm×55cmの隅丸方形で深さ57cmを測る。主軸方位はN-84°-Wを指す。

第7号土坑 (第181・182図)

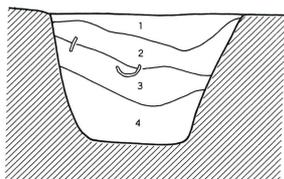
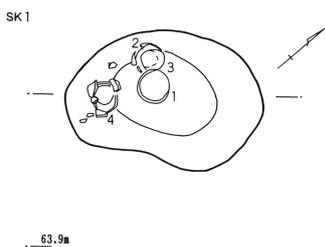
N-4グリッドに位置する。平面は56cm×43cmの不整楕円形で、深さ30cmを測る。主軸方位は、N-53°-Wを指す。

遺物は、鉄製品で小刀の茎と刃部の一部で、重さ44.40gである。覆土中位から出土した。

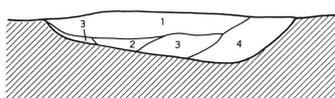
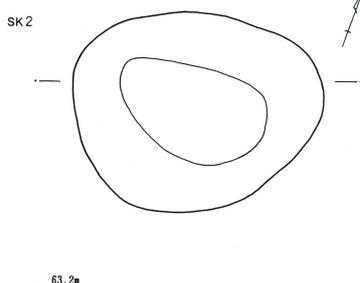
第8号土坑 (第183図)

O-5グリッドに位置する。平面は71cm×62cmのほぼ円形で、深さ23cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

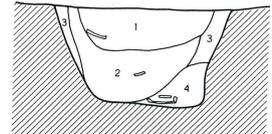
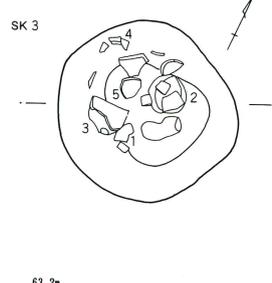
第181図 土坑 (1)



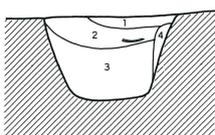
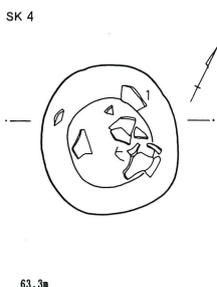
- SK 1
 1 褐色土 (10YR4/4) 灰色シルト
 2 暗褐色シルト (10YR3/4)
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 炭化物
 4 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3)



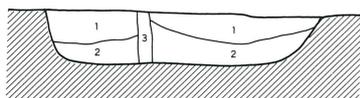
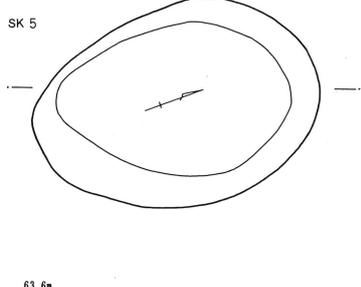
- SK 2
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土・炭灰極多 やや砂質
 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 焼土・炭化材若干
 3 明黄褐色シルト (10YR6/6)
 4 褐色土 (10YR4/6)



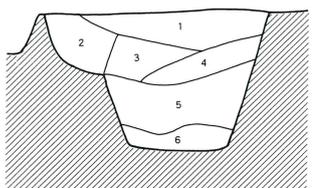
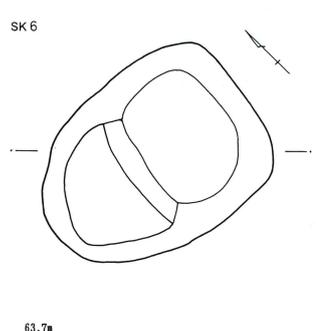
- SK 3
 1 黄褐色シルト (10YR5/6)
 2 暗褐色シルト (10YR2/1)
 3 黄褐色シルト (10YR7/8)
 4 黒褐色砂 (10YR2/3)



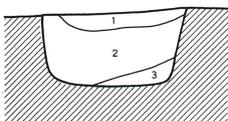
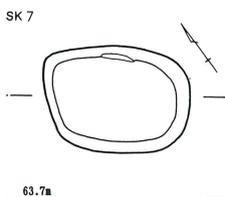
- SK 4
 1 褐色 (10YR4/4) 焼土微
 2 褐色 (10YR3/4) 焼土多、灰若干
 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
 4 黄褐色シルト (10YR5/6)



- SK 5
 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物極多
 2 黄褐色 (10YR5/6) 炭化物微、砂質
 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物極多



- SK 6
 1 褐色 (10YR4/6) 砂質、絞まり強い
 2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質、絞まり強い
 3 褐色 (10YR4/4) 砂質、絞まり強い
 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂質、灰色シルト多、絞まり強い
 5 黒褐色砂(10YR3/2) 灰色シルト・炭化物若干、絞まり強い
 6 にぶい黄褐色砂(10YR5/4) 絞まり強い

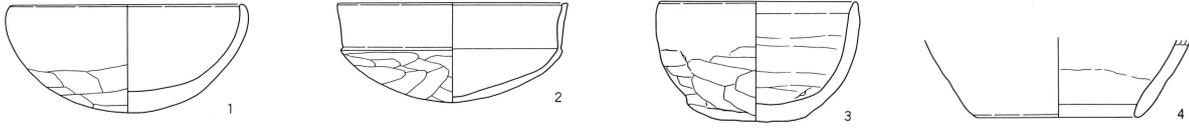


- SK 7
 1 褐色土 (10YR4/4) 明黄褐色土
 2 暗褐色シルト(10YR3/4) 明黄褐色土
 3 黒褐色砂 (10YR3/2) 灰色シルト・炭化物若干

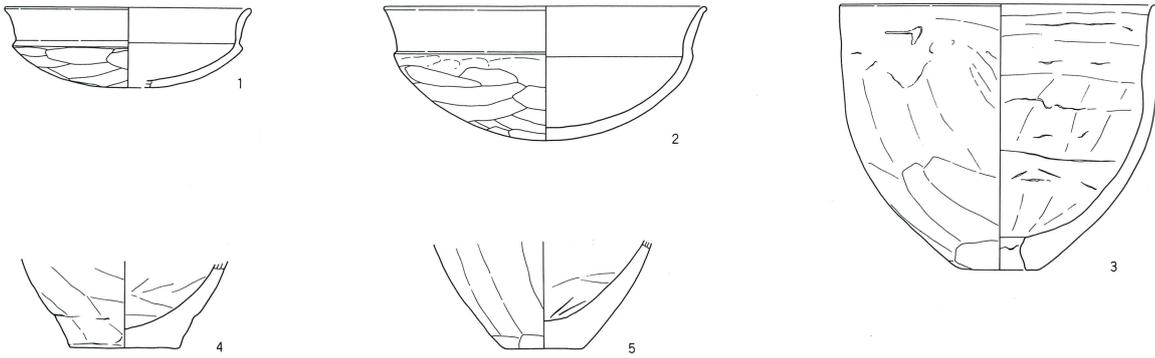


第182図 土坑出土遺物 (1)

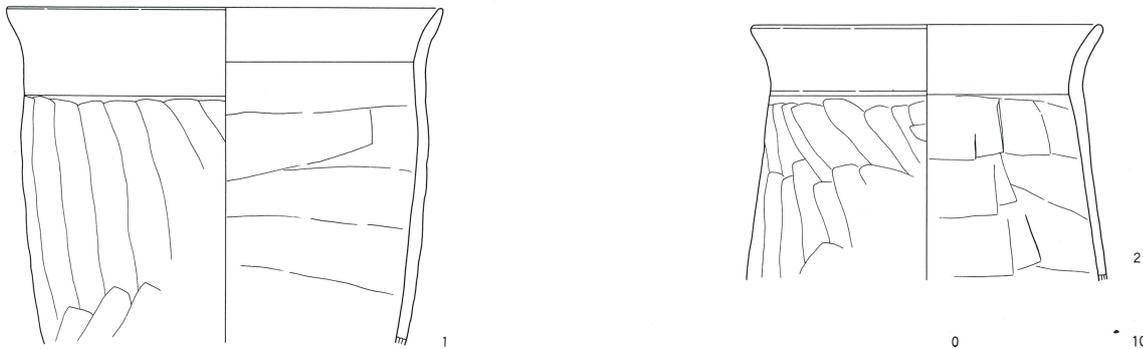
SK1



SK3

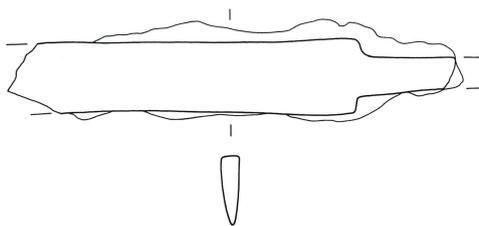


SK4



0 10cm
1:4

SK7



0 3cm
1:2

第1号土坑出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	10.4	6.4	6.2	A E J L	普通	橙	100	Na2	3の上
2	坏	12.2	5.8		A E J L	不良	橙	100	Na1	
3	坏	12.1	5.3		A D J	不良	橙	90	Na3	1の下
4	甑			(8.6)	A D J L	不良	にぶい黄橙	40	Na4	

第3号土坑出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.0)	4.2		A J L	普通	褐	15	Na4	
2	椀	17.0	7.1		B E J L	普通	橙	90	Na17	坑底
3	甑	(17.0)	14.1	4.1	B J	普通	にぶい橙	50	Na3	孔径 2.8 cm
4	甕			5.8	A B L	不良	にぶい橙	60	Na1	
5	甕			4.2	A J L	不良	にぶい褐	100	Na14	坑底

第4号土坑出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(23.0)			B E J L	普通	灰黄褐	20	Na1	
2	甕	(18.4)			A B J L	普通	にぶい褐	20		

第9号土坑 (第183・185図)

P-3グリッドに位置する。平面は75cm×67cmのほぼ円形で、深さ48cmを測る。主軸方位は、N-67°-Wを指す。

遺物は、土師器甕とミニチュア土器が覆土上位から出土した。

第10号土坑 (第183図)

R-4グリッドに位置する。第35号住居跡を切っている。平面は140cm×122cmの円形で、深さ58cmを測る。主軸方位は、N-87°-Wを指す。

第11号土坑 (第183・185図)

O-4グリッドに位置する。第12号土坑に切られているが、第11号・第12号土坑が埋没した後、第1層部分が掘られている。平面は97cm×84cmの円形で、深さ37cmを測る。主軸方位は、N-23°-Eを指す。

遺物は、棒状の鉄製品で、断面形は円形もしくは楕円形を呈し、重さは21.37gである。第1層から出土した。

第12号土坑出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.54)	1.84	0.50	(9.99)	B	にぶい黄橙	30	

第12号土坑 (第183図)

O-4グリッドに位置する。第11号・第13号土坑を切っている。平面は38cm以上×87cmの楕円形と推定でき、深さ23cmを測る。主軸方位は、N-35°-Wを指す。

第13号土坑 (第183図)

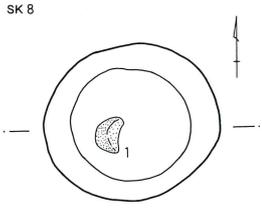
O-4グリッドに位置する。第12号土坑に切られている。平面は65cm×58cmの円形で、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

第14号土坑 (第183・185図)

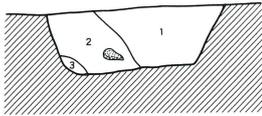
N-6グリッドに位置する。第52号住居跡・第4号性格不明遺構を切っている。平面は169cm×158cmの円形で、深さ53cmを測る。主軸方位は、N-46°-Wを指す。

遺物は、土師器甕口縁部が、確認面から出土した。

第183図 土坑 (2)

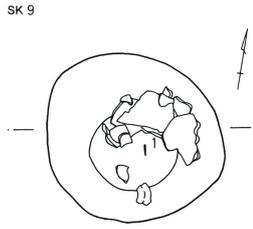


63.8m

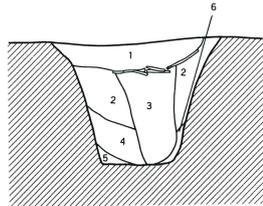


SK 8

- 1 褐色砂質土 (10YR4/4)
- 2 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
- 3 黄褐色砂質土 (10YR5/6)

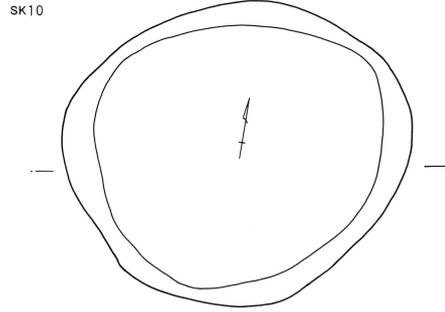


63.9m

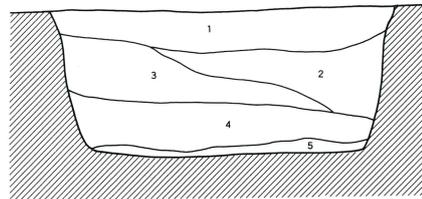


SK 9

- 1 暗黄褐色シルト (10YR3/4)
- 2 暗黄褐色シルト (10YR3/4) 明黄褐色土粒多
- 3 におい褐色 (10YR5/4)
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 炭化材
- 5 におい橙色シルト(10YR6/4)
- 6 におい橙色シルト(10YR7/4)

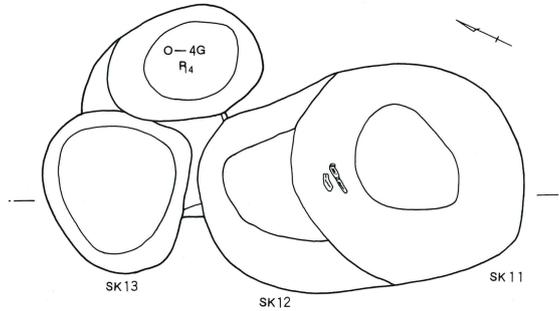


64.2m

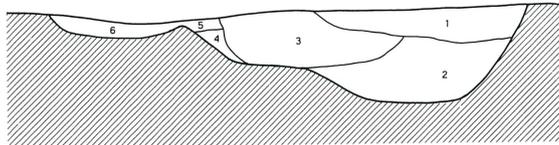


SK 10

- 1 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 土器片若干、絞まり強い
- 2 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色ブロック、絞まり強い
- 3 暗褐色砂質土 (10YR4/4) 灰色シルト、絞まり強い
- 4 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 炭化物、絞まり強い
- 5 黄褐色砂質土 (10YR5/6)

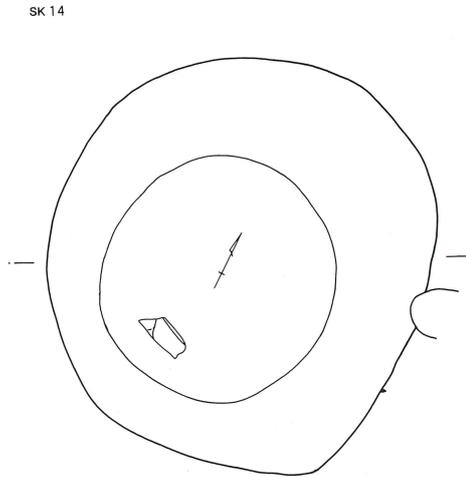


63.8m

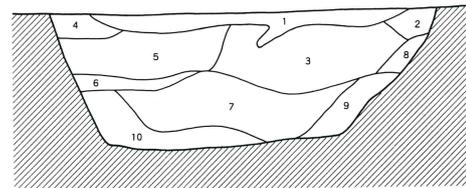


SK 11・12・13

- 1 黒褐色シルト (10YR2/2)
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 3 褐色シルト (10YR4/4) 灰白色シルト若干
- 4 褐色シルト (10YR4/4) 明黄褐色土若干
- 5 におい黄褐色 (10YR4/3) 明黄褐色土若干
- 6 におい黄褐色 (10YR5/4)



63.8m



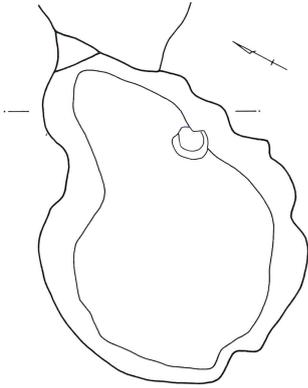
SK 14

- 1 暗褐色シルト (10YR4/3)
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 黄褐色土微粒子
- 3 黄褐色シルト (10YR8/8) 暗褐色土・灰白色シルト若干
- 4 褐色シルト (10YR4/4) 黄褐色土多
- 5 褐色シルト (10YR4/4) におい黄褐色シルト
- 6 黄褐色シルト (10YR5/6) やや粗粒
- 7 褐色シルト (10YR4/4) 灰白色シルトブロック
- 8 明黄褐色シルト(10YR6/6) 灰白色シルト若干
- 9 黄褐色シルト (10YR5/6)
- 10 褐色シルト (10YR4/4)

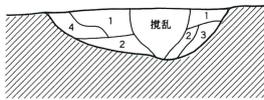
0 1m 1:30

第184図 土坑 (3)

SK 14 A



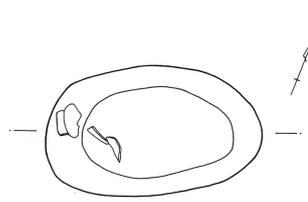
63.9m



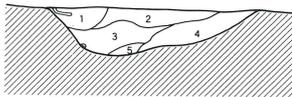
SK 14 A

- 1 暗茶褐色 (10TR4/4) 焼土・炭化物やや多、灰褐色土・黄褐色土少
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物・黄褐色土やや多
- 3 茶褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化物少、黄褐色土やや多
- 4 暗茶褐色 (10YR4/4) 灰褐色土・黄褐色土少

SK 15



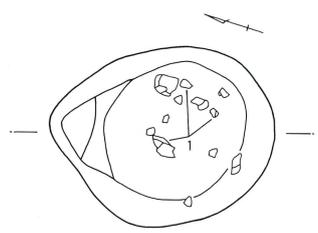
63.5m



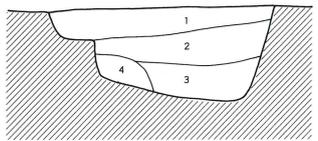
SK 15

- 1 にふい橙色 (10YR6/4)
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 明黄褐色土粒子多、焼土若干
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 焼土粒子・カーボン粒子多
- 4 褐色 (10YR4/4) 焼土若干
- 5 にふい褐色シルト(10YR5/4)

SK 16



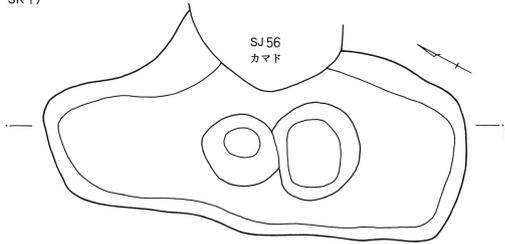
63.7m



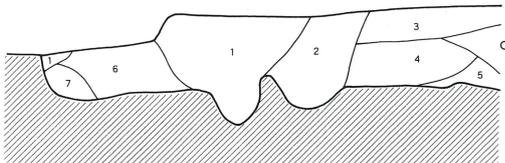
SK 16

- 1 明黄褐色土 (10YR6/6)
- 2 褐色シルト (10YR4/4)
- 3 暗褐色シルト(10YR3/3) カーボン粒子・焼土粒子若干
- 4 にふい黄褐色土(10YR5/4)

SK 17



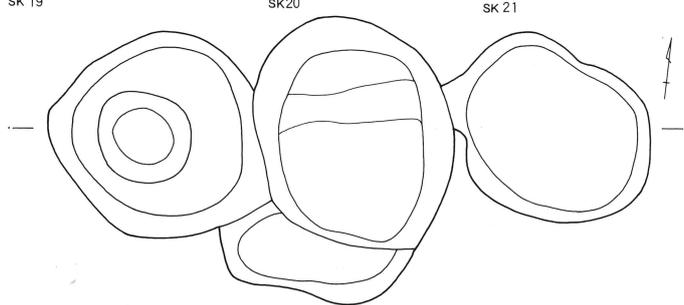
63.6m



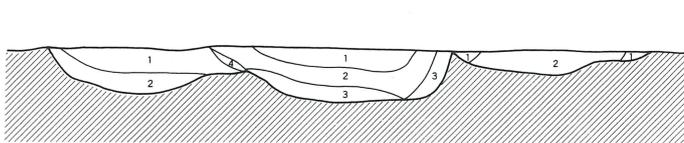
SK 17

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化材多
- 2 明黄褐色シルト (10YR7/6) 暗褐色土の混合土
- 3 褐色 (10YR4/4) 明黄褐色ブロック
- 4 暗褐色シルト (10YR3/4) 焼土・炭化材・明黄褐色土
- 5 明黄褐色シルト (10YR7/6)
- 6 褐色シルト (10YR4/6)
- 7 黄褐色シルト (10YR5/8)

SK 19



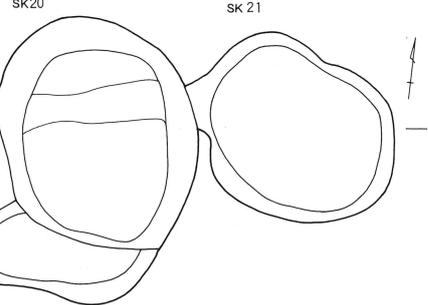
64.0m



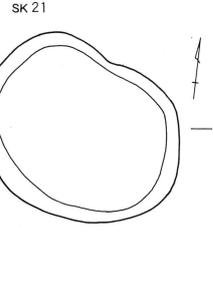
SK 19

- 1 にふい黄褐色 (10YR5/4) 明黄褐色シルト多・焼土若干
- 2 褐色 (10YR4/4) 絞まり強い

SK 20



SK 21



SK 20

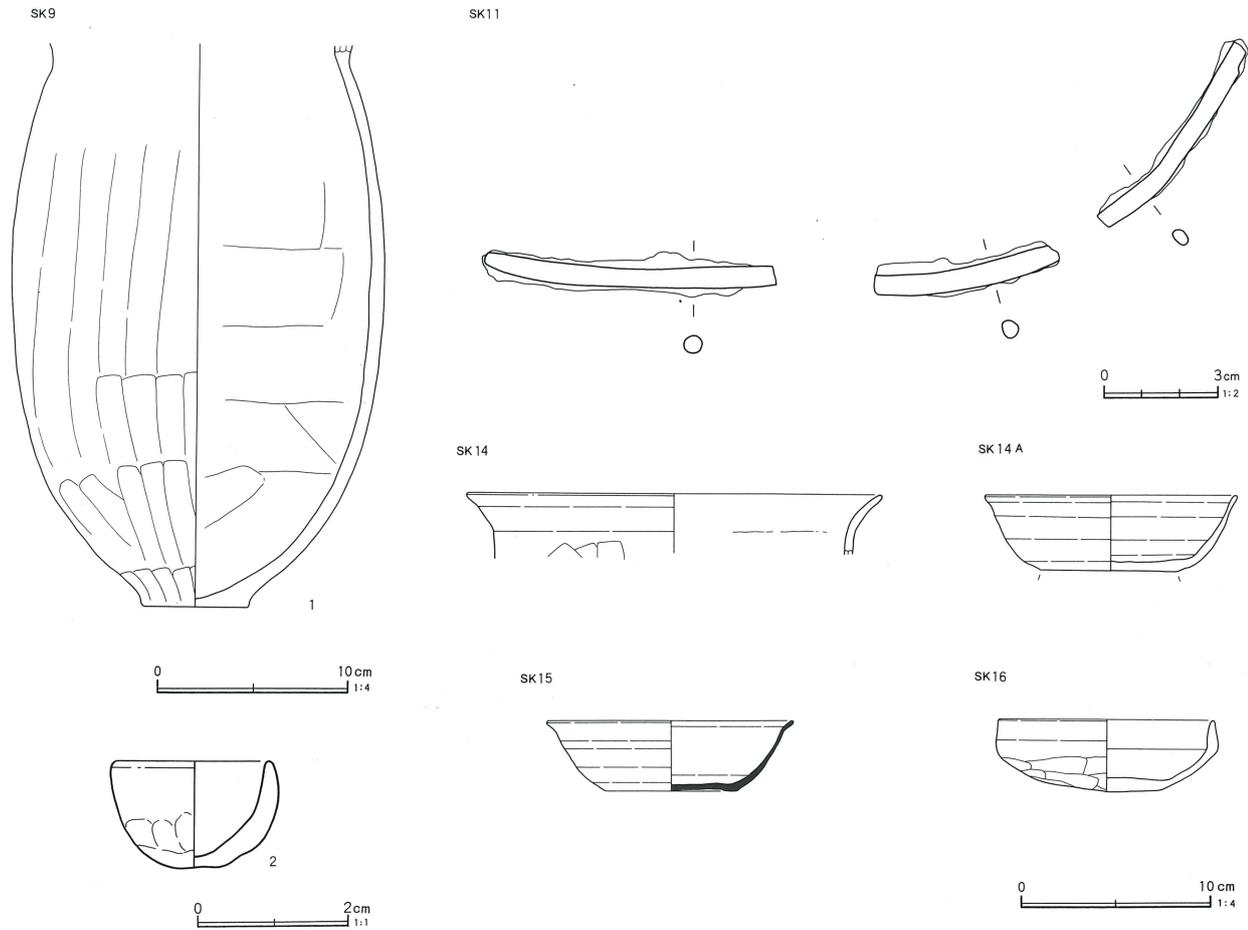
- 1 にふい黄褐色 (10YR5/4) 明黄褐色土粒子多
- 2 褐色シルト (10YR4/6) 焼土粒子若干
- 3 褐色 (10YR4/4) 絞まり強い
- 4 黄褐色シルト (10YR7/8)

SK 21

- 1 暗褐色 (10YR3/4)
- 2 明黄褐色シルト(10YR6/6)

0 1 m 1:30

第185図 土坑出土遺物 (2)



第9号土坑出土遺物観察表 (第185図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕			(5.5)	B F	普通	橙	40		上層 外面ヘラナデ 内面横ナデ
2	ミニチュア土器	4.0	2.8	1.5	E J L	普通	にぶい橙	70	中層	中層

土坑出土遺物観察表 (第185図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
14	甕	(21.8)			B D I	普通	橙	10		確認面
14 A	坏	13.2	4.0	7.1	B I J	良	にぶい黄橙	70	SJ48 カマド No.1	床 酸化焰焼成
15	坏	(13.0)	3.7	7.0	A L	普通	灰	45	No.1	床+6cm 底部右回転糸切り 口縁部内外面のみ灰白色
16	坏	11.4	3.8		A B D J L	普通	にぶい橙	90	No.1・2・7・11	床

第14A号土坑 (第184・185図)

N-6グリッドに位置する。第41号住居跡と第48号住居跡のカマド・第4号性格不明遺構を切っている。平面は137cm×105cmの不整形で、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-35°-Eを指す。

遺物は、須恵器坏が床面から僅かに浮いて出土し

た。

第15号土坑 (第184・185図)

L-8グリッドに位置する。平面は85cm×50cmの楕円形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。遺物は、須恵器坏が出土した。

第16号土坑 (第184・185図)

M-8グリッドに位置する。平面は89cm×70cmの不整形円形で、深さ36cmを測る。主軸方位は、N-12°-Wを指す。遺物は、土師器坏が出土した。

第17号土坑 (第184図)

O-6グリッドに位置する。第56号住居跡のカマドに切られている。平面は166cm×65cmの楕円形で、深さ15cmを測る。主軸方位は、N-26°-Eを指す。

第18号土坑

O-5グリッドに位置する。第8号住居跡の下にあり、第56号住居跡を切っている。平面は80cm×76cmの円形で、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-28°-Wを指す。

第19号土坑 (第184図)

P-6グリッドに位置する。第46号住居跡を切り、第20号土坑に切られている。平面は82cm×82cmの円形で、深さ18cmを測る。

第20号土坑 (第184図)

P-6グリッドに位置する。第46号住居跡・第19号土坑を切っている。平面は93cm×77cmの楕円形で、深さ22cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

第21号土坑 (第184図)

P-6グリッドに位置する。第46号住居跡を切っている。平面は83cm×71cmの楕円形で、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-50°-Wを指す。

第22号土坑 (第186・187図)

J-10グリッドに位置する。平面は133cm×122cmのT字形で、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

遺物は、土師器坏・鉢が出土した。

第23号土坑

N-6グリッドに位置する。第52号住居跡に切られている。平面は77cm×60cm以上の円形で、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-39°-Wを指す。

第24号土坑 (第191図)

L-9グリッドに位置する。平面は286cm×132cmの隅丸長方形で、深さ23cmを測る。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

第25号土坑 (第186図)

L-9グリッドに位置する。平面は108cm×81cmの隅丸長方形で、深さ15~21cmを測る。主軸方位は、N-69°-Wを指す。

第26号土坑 (第186図)

O-6グリッドに位置する。第7号住居跡の下にあり、北端がO-6グリッド内ピット5に切られている。平面は101cm×110cmの円形で、深さ9cmを測る。

第27号土坑 (第186・187図)

O-5グリッドに位置する。平面は100cm×68cmの楕円形で、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-85°-Eを指す。

遺物は、土坑西端部に集中し、土師器坏・椀・高杯・甕・壺が出土した。椀(1)は坑底に伏せた状態で出土し、その上に高杯(5)も伏せた状態で出土した。

第28号土坑 (第195図)

P-6グリッドに位置する。第12号住居跡の下にあり、北部が第5号性格不明遺構と重複している。平面は85cm以上×77cmの楕円形と推定され、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-20°-Wを指す。

第17号土坑出土土錘観察表

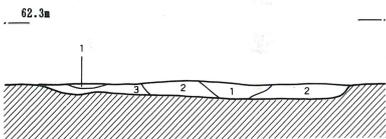
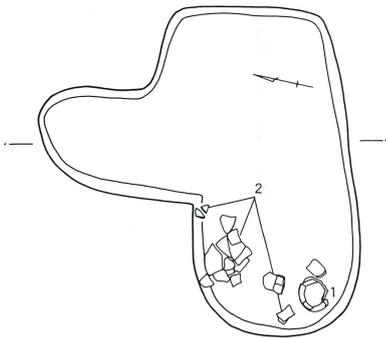
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.20)	1.83	0.48	(10.44)	B a	にぶい橙	40	

第24号土坑出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	6.74	1.86	0.44	13.37	B a III	灰褐	100	

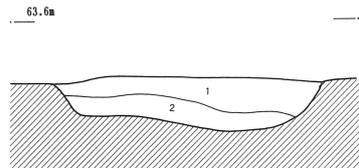
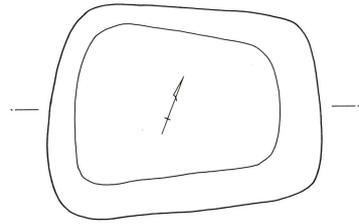
第186図 土坑 (4)

SK 22



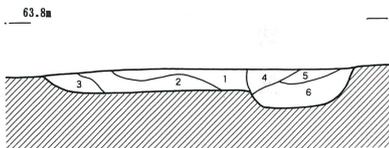
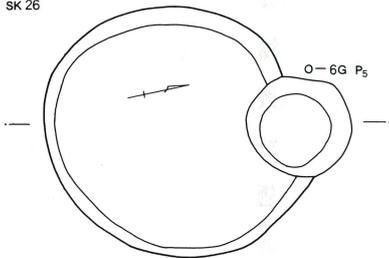
- SK 22
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 地山砂少・焼土・炭僅か
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山砂多く炭僅か
 - 3 褐色 (10YR4/4) 地山砂多

SK 25



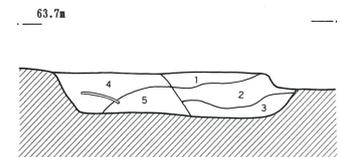
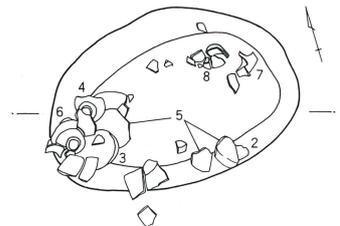
- SK 25
- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) 地山土少、焼土・炭僅か
 - 2 におい黄褐色 (10YR4/3) 地山土やや多、焼土・炭僅か

SK 26



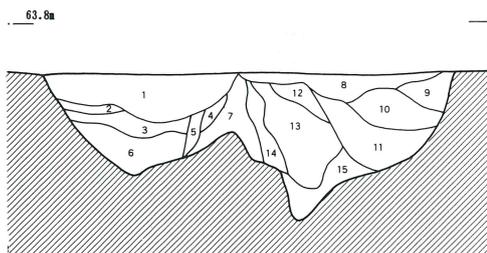
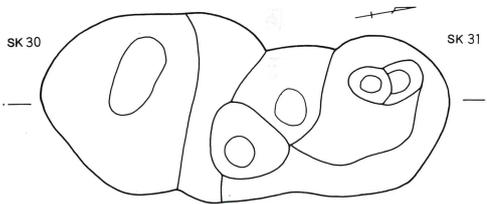
- SK 26
- 1 におい黄褐色シルト (10YR6/4) 炭化物粒子若干
 - 2 におい黄褐色シルト (10YR5/4)
 - 3 黄褐色シルト (10YR5/6)
 - 4 黄褐色シルト (10YR5/8)
 - 5 黄褐色シルト (10YR5/6)
 - 6 黄褐色 (10YR5/6) 炭化物粒子若干

SK 27



- SK 27
- 1 におい黄褐色 (10YR5/4) 黄褐色シルト
 - 2 褐色シルト (10YR4/4) 灰白色シルト多
 - 3 褐色シルト (10YR4/4) 絞まりなし
 - 4 褐色 (10YR4/4)
 - 5 褐色シルト (10YR4/4) 絞まり強い

SK 30



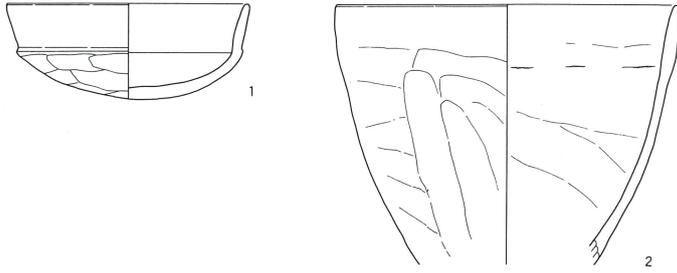
SK 31

- SK 30・31
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 焼土・炭化物多、灰褐色土・黄褐色土僅か
 - 2 茶褐色 (10YR6/6) 黄褐色土・灰褐色土やや多
 - 3 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物やや多く、灰褐色土少
 - 4 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物・黄褐色土少
 - 5 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物少
 - 6 暗褐色 (10YR3/3) 焼土・炭化物・黄褐色土少
 - 7 茶褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物少、灰褐色土・黄褐色土やや多
 - 8 暗褐色 (10YR3/3) 焼土・炭化物少、黄褐色土やや多
 - 9 暗黄褐色 (10YR6/8) 焼土・炭化物少量、暗褐色土多
 - 10 茶褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物・黄褐色土少
 - 11 暗茶褐色 (10YR4/6) 焼土・炭化物少量、黄褐色土やや多
 - 12 暗黄褐色 (10YR6/8) 焼土・炭化物わずか、暗褐色土やや多
 - 13 暗茶褐色 (10YR4/6) 焼土・炭化物・灰褐色土・黄褐色土少
 - 14 暗黄褐色 (10YR6/8) 暗褐色土やや多
 - 15 暗黄褐色 (10YR7/8) 茶褐色土少

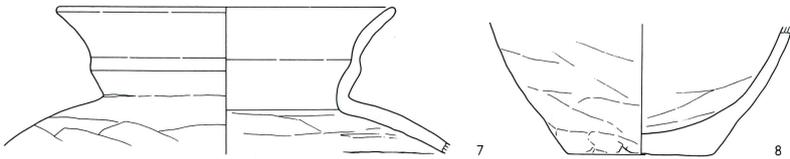
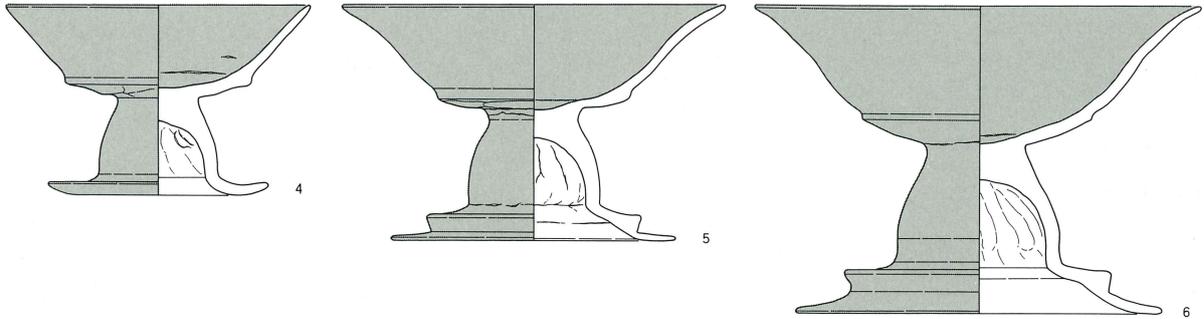
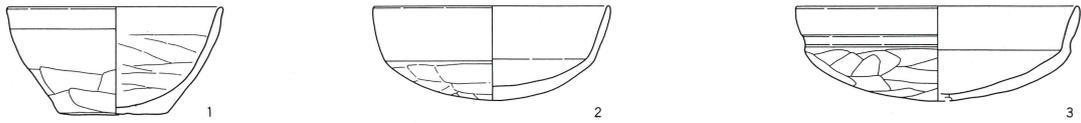


第187図 土坑出土遺物 (3)

SK 22



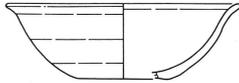
SK 27



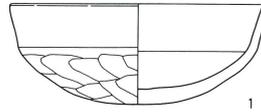
SK 32



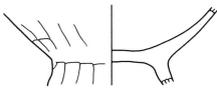
SK 38



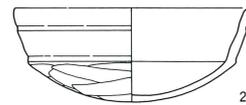
SK 39



SK 34



SK 40



第22号土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.8	5.1		A J L	不良	にぶい赤褐	80	Na6	床
2	甑	18.0			B J L	不良	橙	80	Na1 ~ Na5	床 + 4 cm

第27号土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	椀	11.4	5.7	5.8	A B J L	普通	にぶい橙	75	Na22	坑底
2	坏	12.4	5.0		A B J L	普通	明赤褐	95	Na5	
3	坏	(15.0)	5.0		A D E J L	普通	にぶい赤褐	30	Na13	
4	高坏	(16.0)	10.1	11.6	A B D J	普通	にぶい橙	60	Na16	内外面赤彩
5	高坏	(20.2)	12.5	(15.0)	A J L	普通	橙	85	Na18 ~ Na21	坑底 内外面赤彩
6	高坏	23.6	16.2	19.3	A J L	普通	にぶい赤褐	70	Na17 · Na19	内外面赤彩
7	甕	(18.0)			A B E J L	普通	にぶい橙	10	Na7	
8	甕			7.8	A B E J L	普通	にぶい橙	100	Na8	

土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
34	台付甕				A D E G	普通	橙	40	Na1 · Na3	坑底
38	坏	(12.1)	4.0	(5.0)	B C D G H	不良	にぶい黄橙	30		底部調整不明
40	蓋	12.5	3.3		B	良	灰	98	Na2	天井部外周へラ削り 中央手持ちへ削り

第39号土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.6)	5.3		B J L	普通	灰黄褐	30		
2	坏	(12.4)	5.0		B D J L	普通	暗灰黄	80		

第30号土坑 (第186図)

N-7・8グリッドに位置する。第73号住居跡・第32号土坑を切っている。平面は74cm×74cmの不整形で、深さ40cmを測る。主軸方位は、N-15°-Eを指す。

第31号土坑 (第186図)

N-7・8グリッドに位置する。第73号住居跡を切っている。平面は90cm×60cmの不整楕円形で、深さ41~59cmを測る。主軸方位は、N-13°-Eを指す。

第32号土坑 (第187図)

N-7グリッドに位置する。第73号住居跡・第33号土坑を切り、第30号土坑に切られている。平面は87cm×65cmの楕円形で、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-27°-Eを指す。遺物は、白玉が出土した。

第33号土坑 (第188図)

N-7グリッドに位置する。第73号住居跡を切り、第32号土坑に切られている。平面は88cm×80cmの円形で、深さ42cmを測る。

第36号土坑出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.61)	1.34	0.46	(3.36)	B a	にぶい橙	20	

第34号土坑 (第187・191図)

P-6グリッドに位置する。第7号・第19号住居跡の下にある。平面は289cm×87cmの隅丸長方形で、深さ6~12cmを測る。主軸方位は、N-33°-Wを指す。

遺物は、台付甕の脚台部と体部の接合部が出土した。

第35号土坑 (第188図)

N-8グリッドに位置する。平面は95cm×50cmの楕円形で、深さ22cmを測る。主軸方位は、N-70°-Eを指す。

第36号土坑 (第188図)

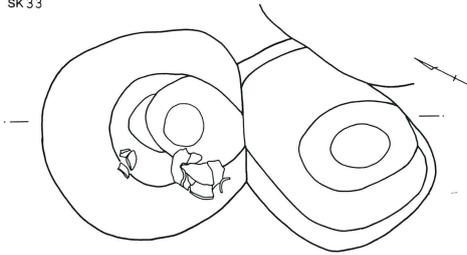
L-10グリッドに位置する。第87号住居跡を切っている。平面は93cm×94cmのほぼ円形で、深さ73cmを測る。

第37号土坑 (第191図)

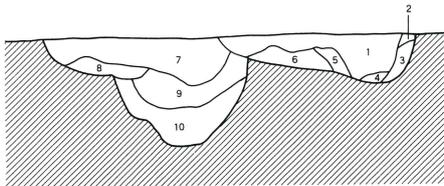
K-10グリッドに位置する。東側は第38号土坑と溝状の遺構で繋がっている。平面は3.23cm×1.10cmの楕円形で、深さ25cmを測る。主軸方位は、N-66°-

第188図 土坑 (5)

SK 33



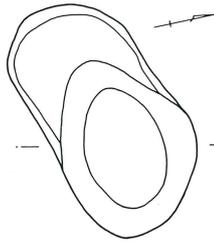
63.8m



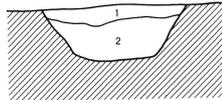
SK 32・33

- 1 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物・灰褐色土少
- 2 暗茶褐色 (10YR5/3) 焼土・炭化物少、灰褐色土やや多
- 3 暗黄褐色 (10YR6/6) 茶褐色土やや多
- 4 暗黄褐色 (10YR6/8) 黄褐色土少
- 5 暗茶褐色 (10YR5/4) 焼土・炭化物極僅か、灰褐色土やや多
- 6 黄褐色 (10YR7/6) 茶褐色土・灰褐色土少
- 7 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物少、黄褐色土やや多
- 8 暗黄褐色 (10YR6/6) 茶褐色土やや多
- 9 茶褐色 (10YR5/6) 黄褐色土少
- 10 褐色 (10YR4/4) 黄褐色土少

SK 35



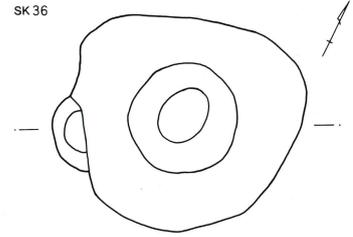
63.8m



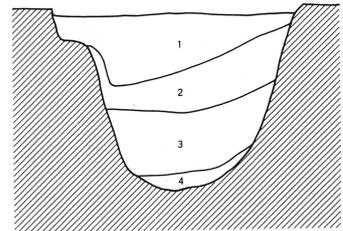
SK 35

- 1 褐色 (10YR4/6) 焼土多く炭灰若干
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 炭化材微

SK 36



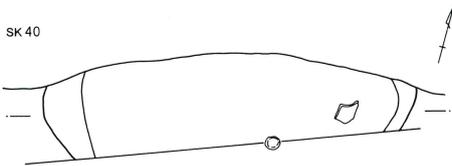
63.7m



SK 36

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物・地山ブロック
- 2 褐色 (10YR4/4) 炭化物・地山ブロック、やや砂質
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック多・砂質
- 4 褐灰色 (10YR4/1) 地山ブロック・灰白粘土、粘性あり

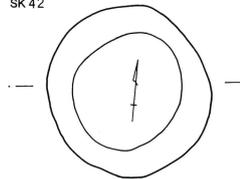
SK 40



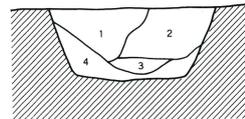
64.0m



SK 42



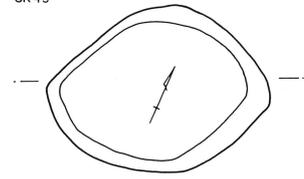
63.8m



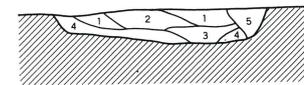
SK 42

- 1 暗褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物粒子
- 2 褐色 (10YR4/6)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3)
- 4 にぶい黄褐色 (10YR5/4)

SK 43



63.9m



SK 43

- 1 褐色 (10YR4/4) 灰白色粘土多
- 2 褐色 (10YR4/4) 灰白色粘土若干
- 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
- 4 黄褐色 (10YR5/6)
- 5 暗褐色 (10YR3/3)

第38号土坑出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.54)	1.48	0.42	(5.60)	B	橙	20	

Eを指す。

第38号土坑 (第187・191図)

K-11グリッドに位置する。平面は103cm×73cmの楕円形で、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-70°-Eを指す。

遺物は、土師質系の坏が出土した。

第39号土坑 (第187・191図)

L-11グリッドに位置する。第89号住居跡を切っている。平面は540cm×145cmの隅丸長方形で、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-82°-Wを指す。

遺物は、土師器坏と白玉が出土した。白玉は、径9.0~10.3mm、厚さ5.4~5.8mm、孔径2.7mm、重さ0.88gで、北壁際の確認面から8cmの深さで出土した。

第40号土坑 (第187・188図)

O-10グリッドに位置する。北は第80号住居跡に切られ、南は調査区外となっている。東西150cm、深さ20cmを測る。

遺物は、須恵器坏蓋が覆土中位から出土した。

第41号土坑 (第191図)

L-11グリッドに位置する。第94号住居跡を切って

いる。平面は258cm×95cmの隅丸長方形で、深さ65cmを測る。主軸方位は、N-58°-Eを指す。

第42号土坑 (第188図)

M-11グリッドに位置する。平面は75cm×65cmの円形で、深さ29cmを測る。主軸方位は、N-2°-Eを指す。

第43号土坑 (第188図)

M-11グリッドに位置する。平面は89cm×65cmの楕円形で、深さ8~13cmを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。

第44号土坑 (第189・190図)

O-10グリッドに位置する。第95号住居跡を切っている。平面は105cm×88cmの隅丸三角形で、深さ27cmを測る。主軸方位は、N-40°-Eを指す。

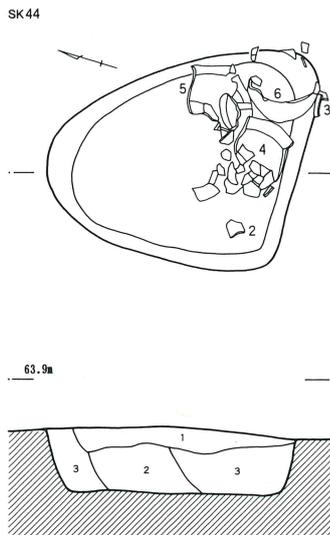
遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第46号土坑 (第189・190図)

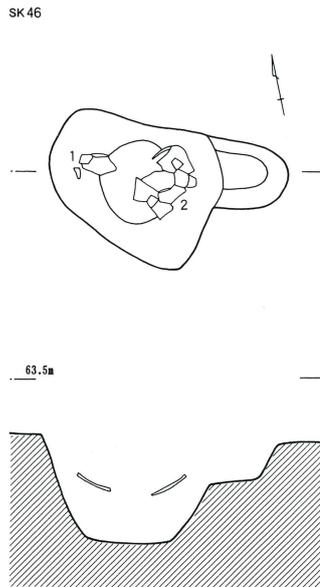
N-12グリッドに位置する。第129号住居跡を切っている。平面は68cm×50cmの方形で、深さ40cmを測る。主軸方位は、N-52°-Wを指す。

遺物は、土師器坏・甑が出土した。

第189図 土坑 (6)



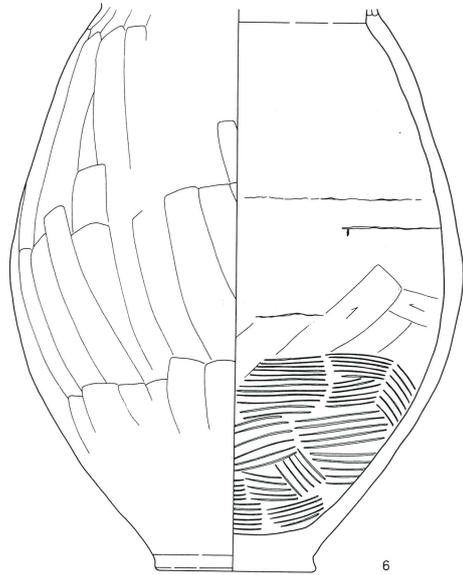
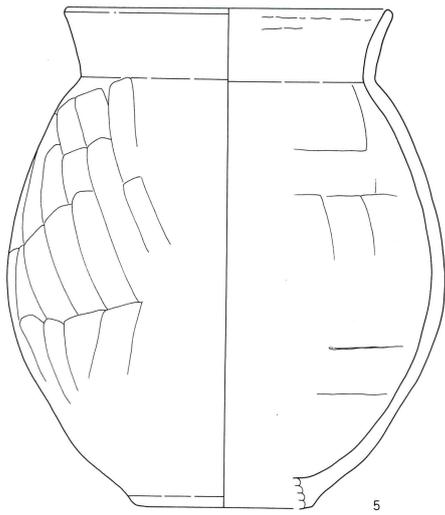
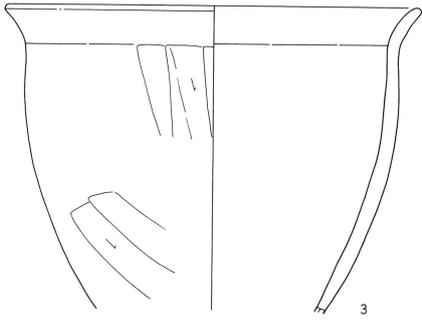
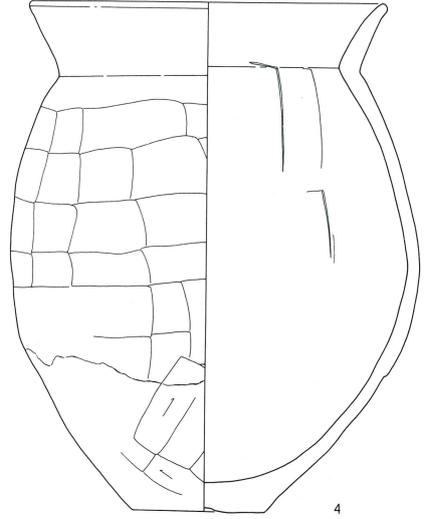
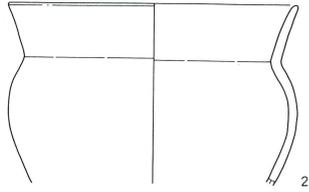
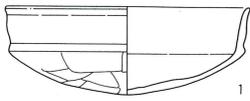
- SK44
 1 にぶい黄橙色土 (10YR7/3) 粘質土
 2 褐色 (10YR4/4) 粘質土
 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物、粘質土



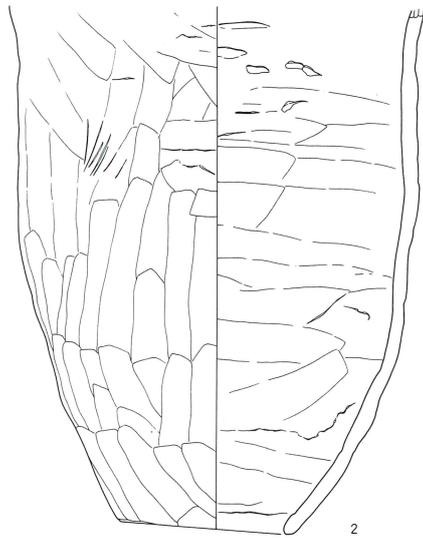
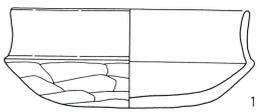
0 1m 1:30

第190図 土坑出土遺物 (4)

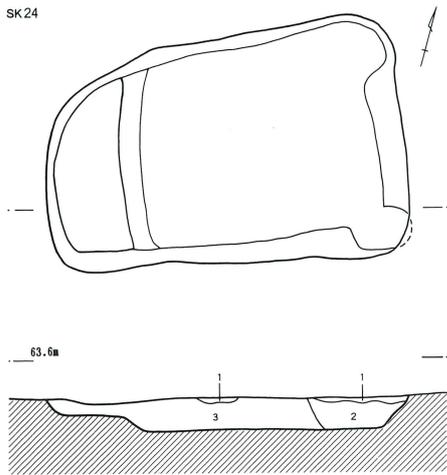
SK44



SK46

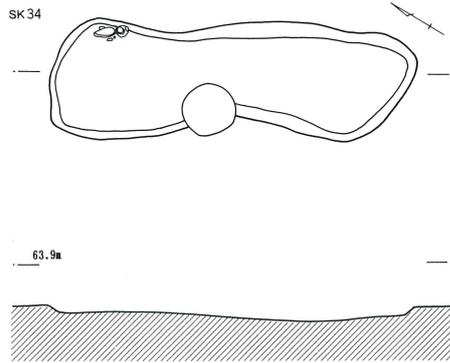


第191図 土坑 (7)

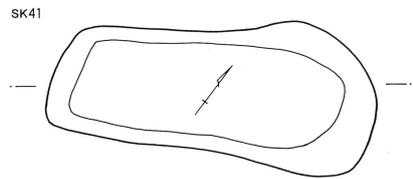


SK24

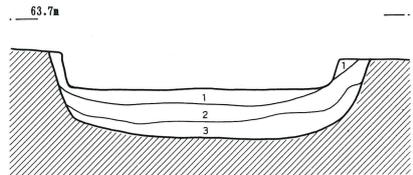
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 炭化物を極多、地山砂少
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土僅か、地山砂少
- 3 褐灰色 (10YR4/1) 地山砂少



SK34

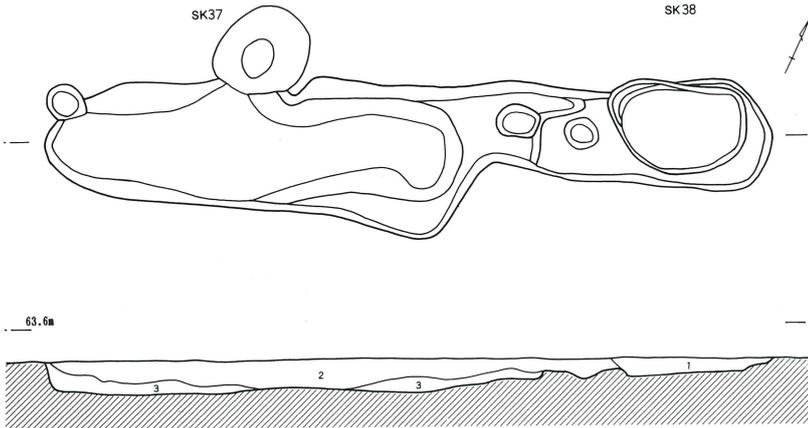


SK41



SK41

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック・褐灰色粘質土ブロック・炭化物粒多、粘性ややあり
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック・褐灰色粘質土ブロック・炭化物粒多、やや砂質
- 3 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・炭化物、やや砂質

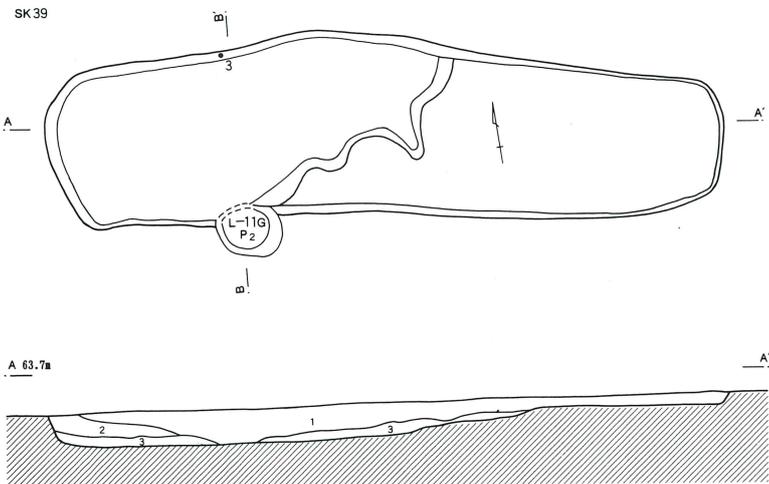


SK37

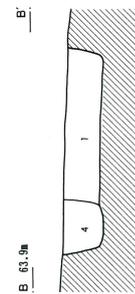
SK38

SK37・38

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 焼土粒子・炭化物・粘性ややあり
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 白色微粒子・地山ブロック、粘質
- 3 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック多、やや砂質



SK39



SK39

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 地山ブロック・灰黄褐色粘土ブロック多、焼土粒子ブロック・炭化物、やや粘性
- 2 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック・粘土粒多、やや粘性
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 地山ブロック・砂質
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック、やや粘性



第44号土坑出土遺物観察表 (第190図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.8)	4.7		K	普通	にぶい橙	60		
2	甕	(15.2)			DEJL	普通	にぶい橙	20	Na3	整形不明
3	甕	(21.6)			BDEJ	普通	橙	35	Na12・13・14 ・SJ103Na3	床+5cm 器面荒れ 整形不明瞭
4	甕	18.5	27.0	7.0	DEJL	普通	褐灰	90	Na1・Na6・Na7	床+9cm 内面木口状工具ナデ
5	甕	16.8	26.6	(9.3)	JL	普通	にぶい橙	70	Na8・Na9	床+7cm 内面横・縦ナデ
6	甕			8.5	BL	普通	にぶい橙	60	Na10	床+7cm 内面ヘラナデ・櫛状工具

第46号土坑出土遺物観察表 (第190図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.6)	5.2		BEJ	普通	橙	40	Na2	
2	甗			8.8	AJL	普通	橙	60	Na1	

3. 性格不明遺構

今回報告対象となる性格不明遺構は、第1号から第10号で、住居跡として捉えていた第63号住居跡は住居跡ではなく、第10A号性格不明遺構として報告する。

第1号性格不明遺構 (第192図)

N・O-7グリッドに位置する。第21号住居跡を切っている。平面は、3.63m×4.50~3.10mの不整形台形で、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-17°-Wを指す。

遺物は、土師器甕、陶器高台付椀と鉄製品が出土した。3の鉄製品は鉸具で37.99gで床より10cmほど浮いた状態で出土した。4はL字状の棒状鉄器で5.89gである。

第2号性格不明遺構 (第193図)

L-6グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。平面は、2.60m×1.50m以上で西側一部が突出しており、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-63°-Eを指す。

遺物は、土師器甕が西側突出部で僅かに浮いた状態で出土した。

第3号性格不明遺構 (第193図)

L-6グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。平面は、3.0m×1.7m以上の楕円形と推定され、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

第4号性格不明遺構 (第194図)

N・O-6グリッドに位置する。第22号・第41号住居跡、第14号・第14A号土坑に切られ、第52号住居跡を切っている。平面は、3.73m×3.06mの平行四辺形で、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-5°-Wを指す。

遺物は、土師器坏・甕、土玉が出土した。土玉(6)は、径9.4~10.3mm、高さ9.1mm、孔径2.6mm、重さ0.96gで、床から7cm浮いた状態で出土した。

第5号性格不明遺構 (第195図)

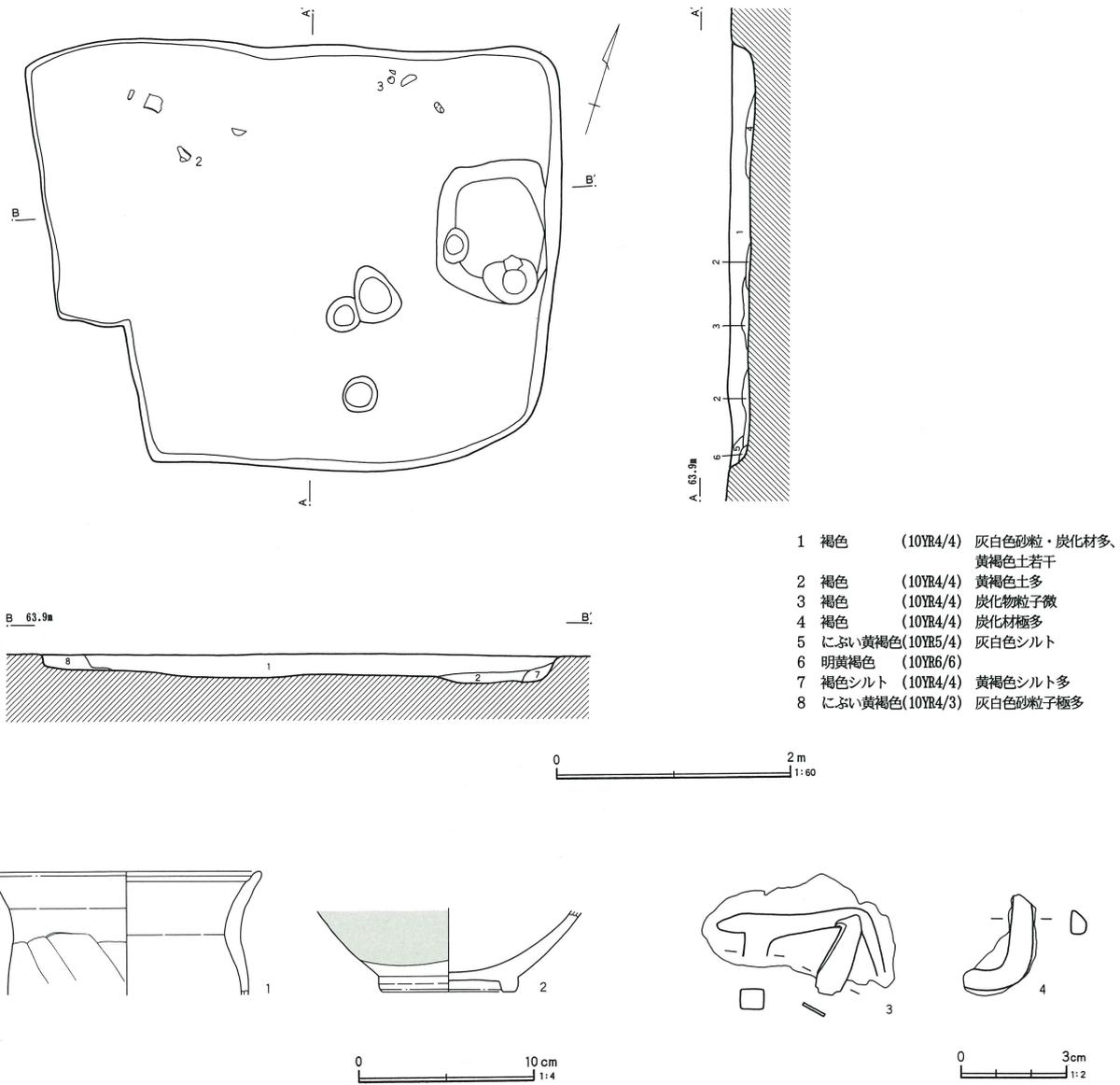
O-6グリッドに位置する。第7号住居跡の下にあり、第47号住居跡・第28号土坑と切り合っている。3.50m×1.93mの不整形で、深さ15cmを測る。

遺物は、土師器坏・壺が出土した。

第1号性格不明遺構出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.48)	1.46	0.54	(5.33)	Ba	橙	30	A区

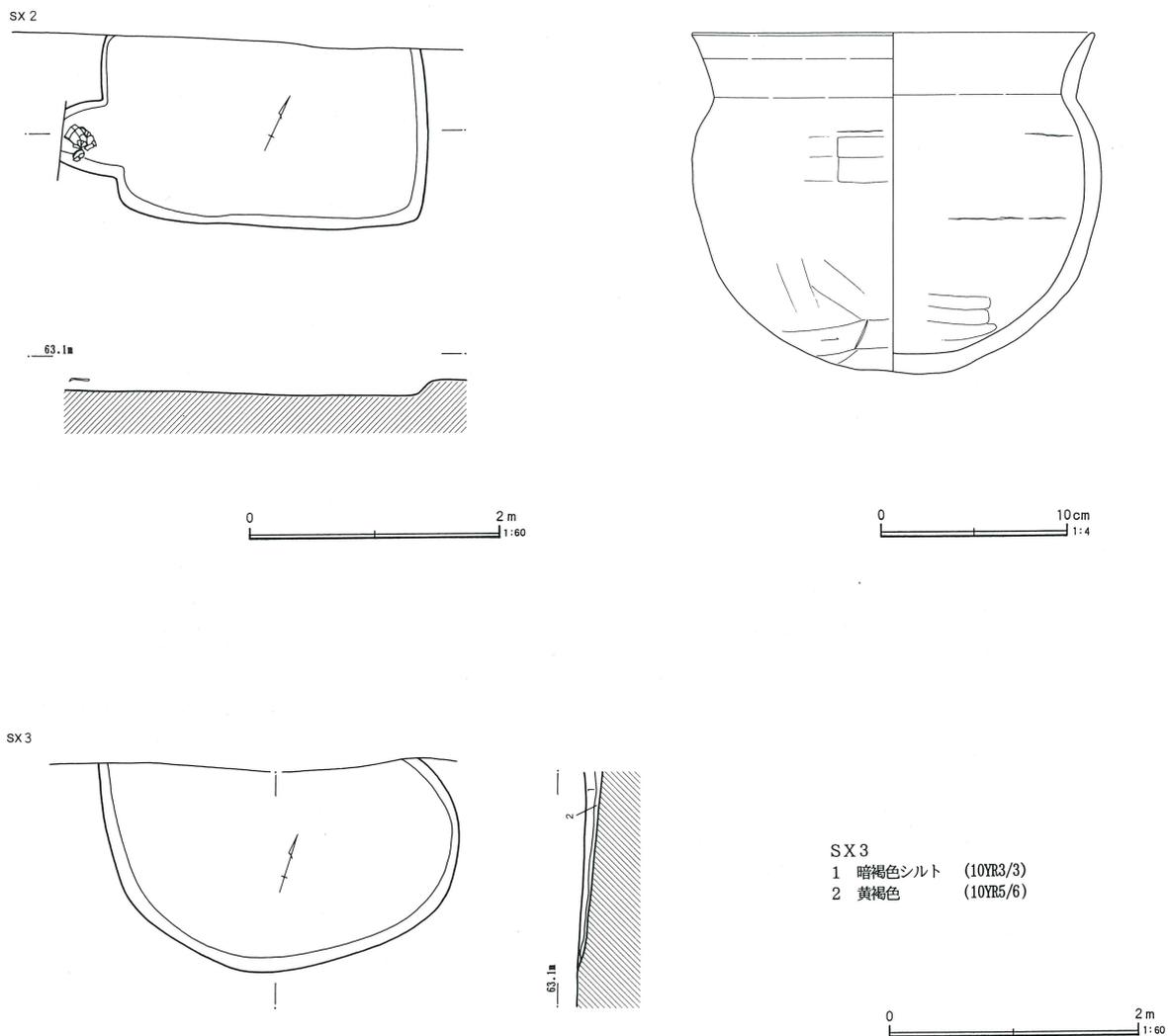
第192図 第1号性格不明遺構・出土遺物



第1号性格不明遺構出土遺物観察表 (第192図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(15.1)			DFGJ	普通	にぶい黄橙	45	C区・D区	外面↑方向ヘラ削り
2	椀			7.7	—	良	浅黄	75	No5・A区	暗緑色釉(オリーブ褐)

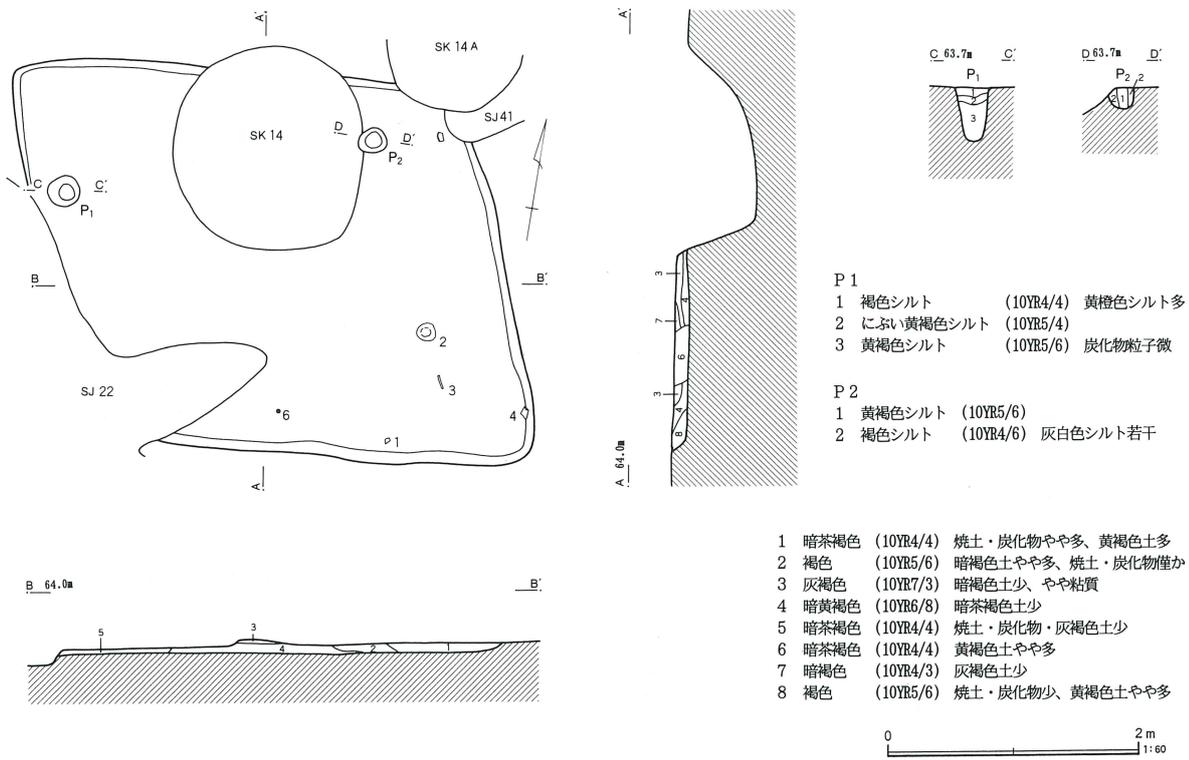
第193図 第2・3号性格不明遺構



第2号性格不明遺構出土遺物観察表 (第193図)

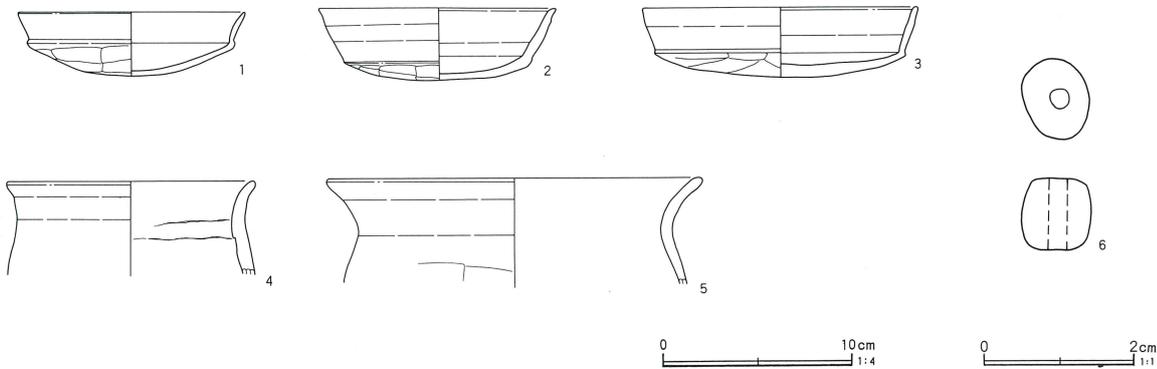
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(21.6)	18.3	5.0	B J	普通	明赤褐	40	No1	

第194図 第4号性格不明遺構・出土遺物



- 1 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物やや多、黄褐色土多
- 2 褐色 (10YR5/6) 暗褐色土やや多、焼土・炭化物僅か
- 3 灰褐色 (10YR7/3) 暗褐色土少、やや粘質
- 4 暗黄褐色 (10YR6/8) 暗茶褐色土少
- 5 暗茶褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物・灰褐色土少
- 6 暗茶褐色 (10YR4/4) 黄褐色土やや多
- 7 暗褐色 (10YR4/3) 灰褐色土少
- 8 褐色 (10YR5/6) 焼土・炭化物少、黄褐色土やや多

0 2 m 1:60



第4号性格不明遺構出土遺物観察表 (第194図)

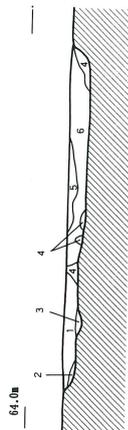
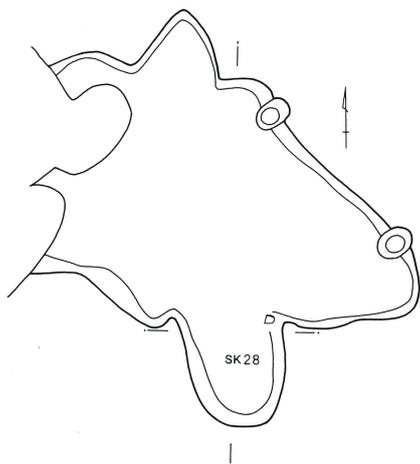
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)	3.4		DE	不良	橙	30	No5	内面黒色
2	坏	12.5	4.3		D	良	橙	100	No2	
3	坏	(14.5)	3.7		BI	普通	にぶい黄橙	60	No3	
4	甕	(13.2)			BGL	普通	橙	20	No4	
5	甕	(19.8)			BDGL	普通	にぶい橙	15		

第5号性格不明遺構出土遺物観察表 (第195図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.6)			DG	不良	にぶい黄橙	15		
2	壺	(19.2)			BGJL	普通	橙	15		

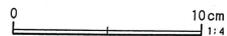
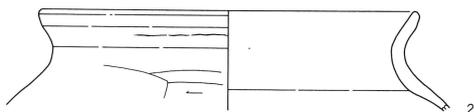
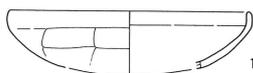
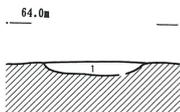
第195図 第5・6号性格不明遺構

SX 5

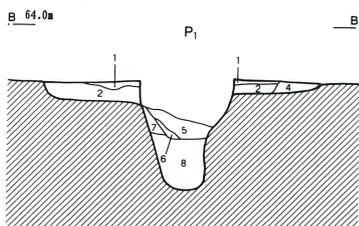
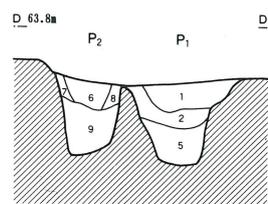
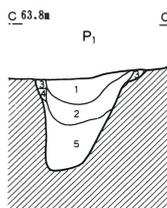
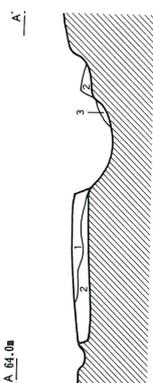
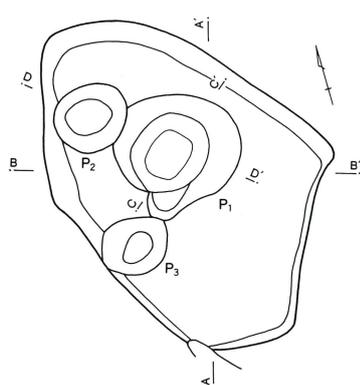


SX 5・SK 28

- 1 におい黄褐色シルト (10YR5/4)
- 2 灰層
- 3 黄褐色シルト (10YR5/6)
- 4 黄褐色シルト (10YR5/8)
- 5 褐色シルト (10YR4/6) 焼土多
- 6 褐色シルト (10YR4/6) 焼土・炭化物若干



SX 6



SX 6

- 1 褐色シルト (10YR4/4) 炭化材若干
- 2 褐色シルト (10YR4/4) 明黄褐色土若干
- 3 黒褐色土灰層(10YR2/2) 焼土若干
- 4 黄褐色シルト(10YR5/6) 焼土粒・炭化物微
- 5 におい黄褐色(10YR4/3) 灰若干
- 6 焼土
- 7 褐色シルト (10YR4/4) 灰・焼土多
- 8 におい黄褐色シルト(10YR6/4) 灰・焼土若干

- 1 におい黄褐色(10YR5/4) 灰若干
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 灰極多
- 3 黄褐色シルト(10YR7/8)
- 4 におい黄褐色シルト(10YR5/4) 灰若干
- 5 におい黄褐色(10YR5/4) 焼土塊多
- 6 明黄褐色 (10YR6/6) 白色微粒子・灰若干
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 白色微粒子多、灰若干
- 8 褐色 (10YR4/4)
- 9 暗褐色灰層 (10YR3/3)



第6号性格不明遺構 (第195図)

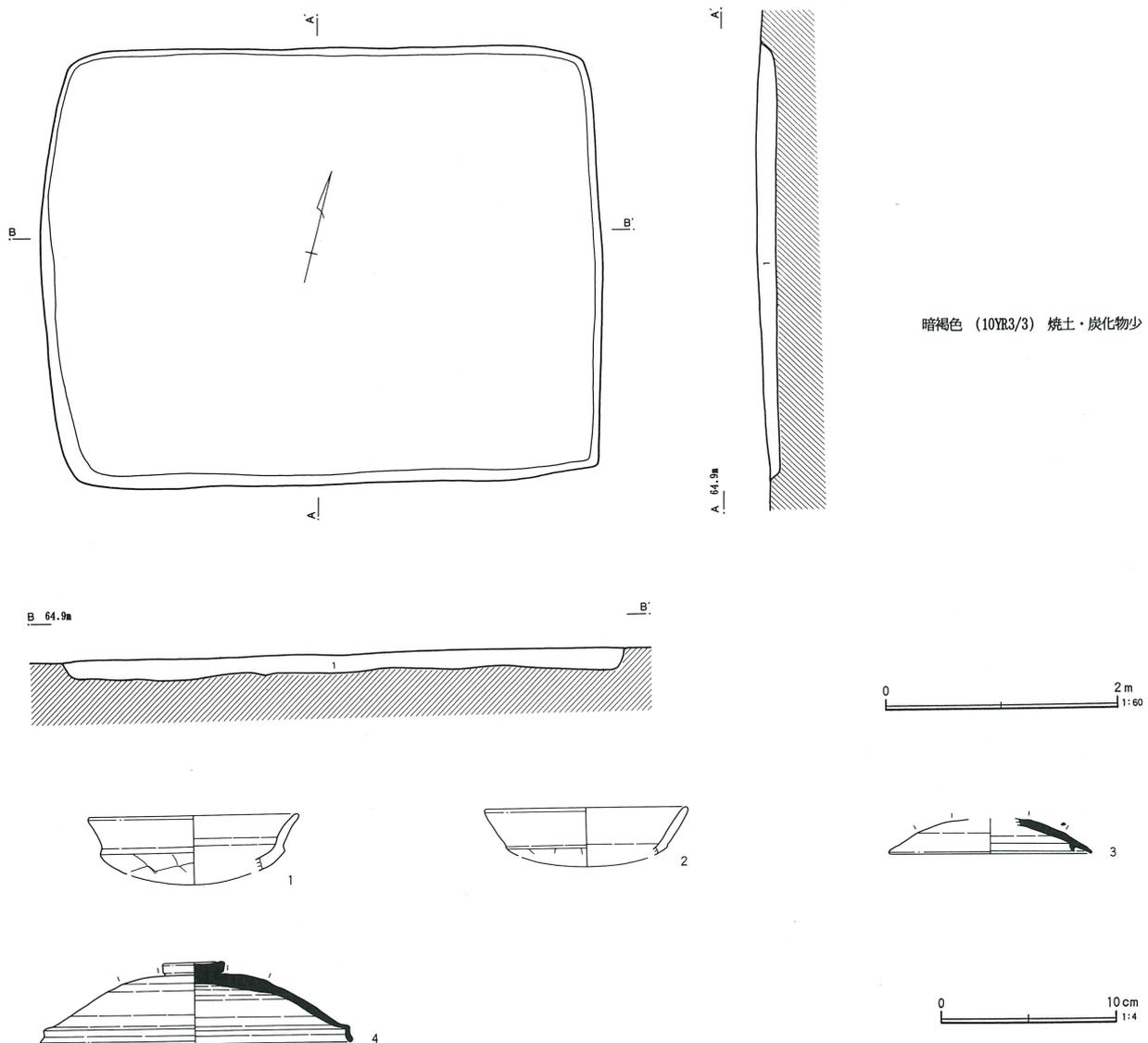
O-7グリッドに位置する。第66号住居跡を切っている。平面は、3.03m×2.05mの不整楕円形で、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-31°-Wを指す。

第7号性格不明遺構 (第196図)

L・M-10グリッドに位置する。第70号・第82号住居跡を切っている。4.30m×3.72mの長方形で、深さ17cm程を測る。主軸方位は、N-14°-Wを指す。

遺物は、土師器坏、須恵器蓋が出土した。

第196図 第7号性格不明遺構・出土遺物



第7号性格不明遺構出土遺物観察表 (第196図)

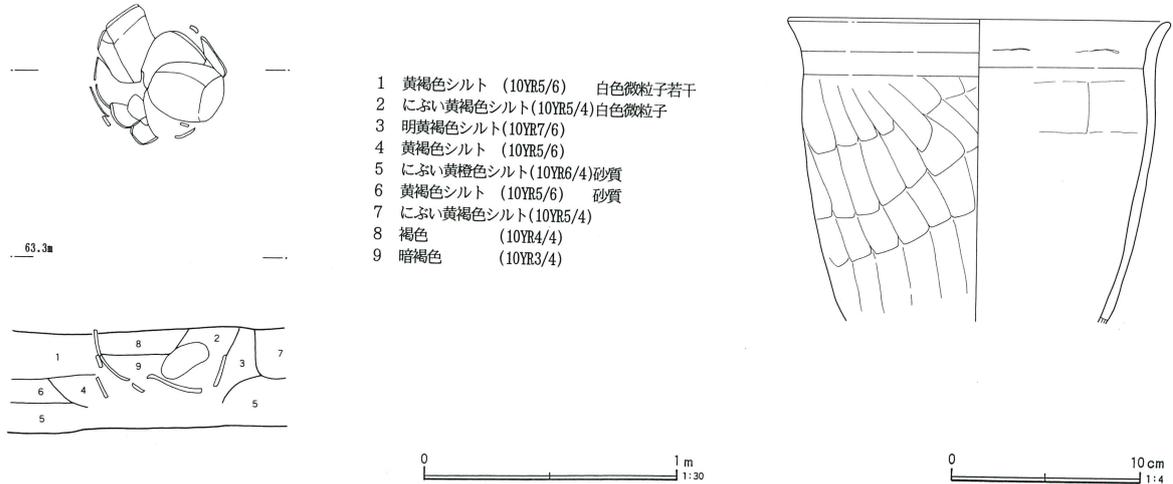
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(12.0)			B G	良	にぶい橙	10	D区	
2	坏	(11.4)			B D G	普通	橙	20	B区	
3	蓋	(11.6)			J	良	灰	20	C区	天井部右回転ヘラ削り
4	蓋	(17.5)	4.7		D G J	不良	灰白	15	A区・C区	天井部右回転ヘラ削り

第8号性格不明遺構 (第197図)

L-9グリッドに位置する。遺構を伴わずに土師器甕が単独で出土した。土器の外は地山の土で、土器内

には地山ではない土が確認できた。また、土器内には礫を検出した。

第197図 第8号性格不明遺構



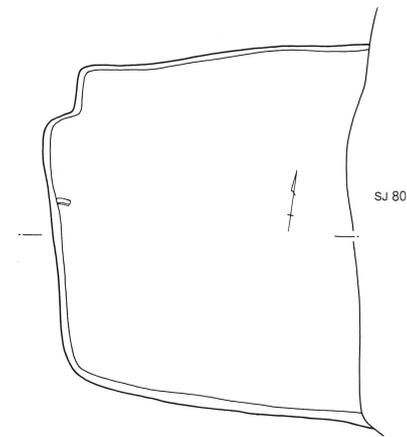
第8号性格不明遺構出土遺物観察表 (第197図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	19.9			J	普通	浅黄	40	No2・3・7・9・14 ・16	外面↑方向ヘラ削り

第9号性格不明遺構 (第198図)

O-9グリッドに位置する。第80号住居跡に切られている。平面は、3.00m×2.40m以上で方形を呈すると推定され、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

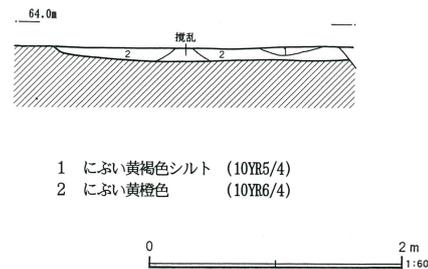
第198図 第9号性格不明遺構



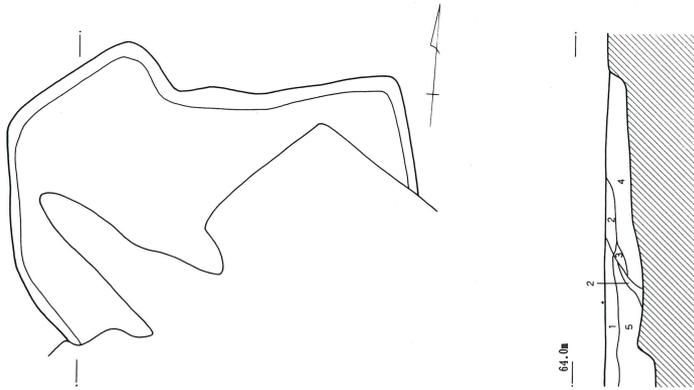
第10号性格不明遺構 (第199・200図)

N-10グリッドに位置する。第104号住居跡に切られている。東西3.20m×南北2.40m以上の不整形で、深さ20cm程を測る。

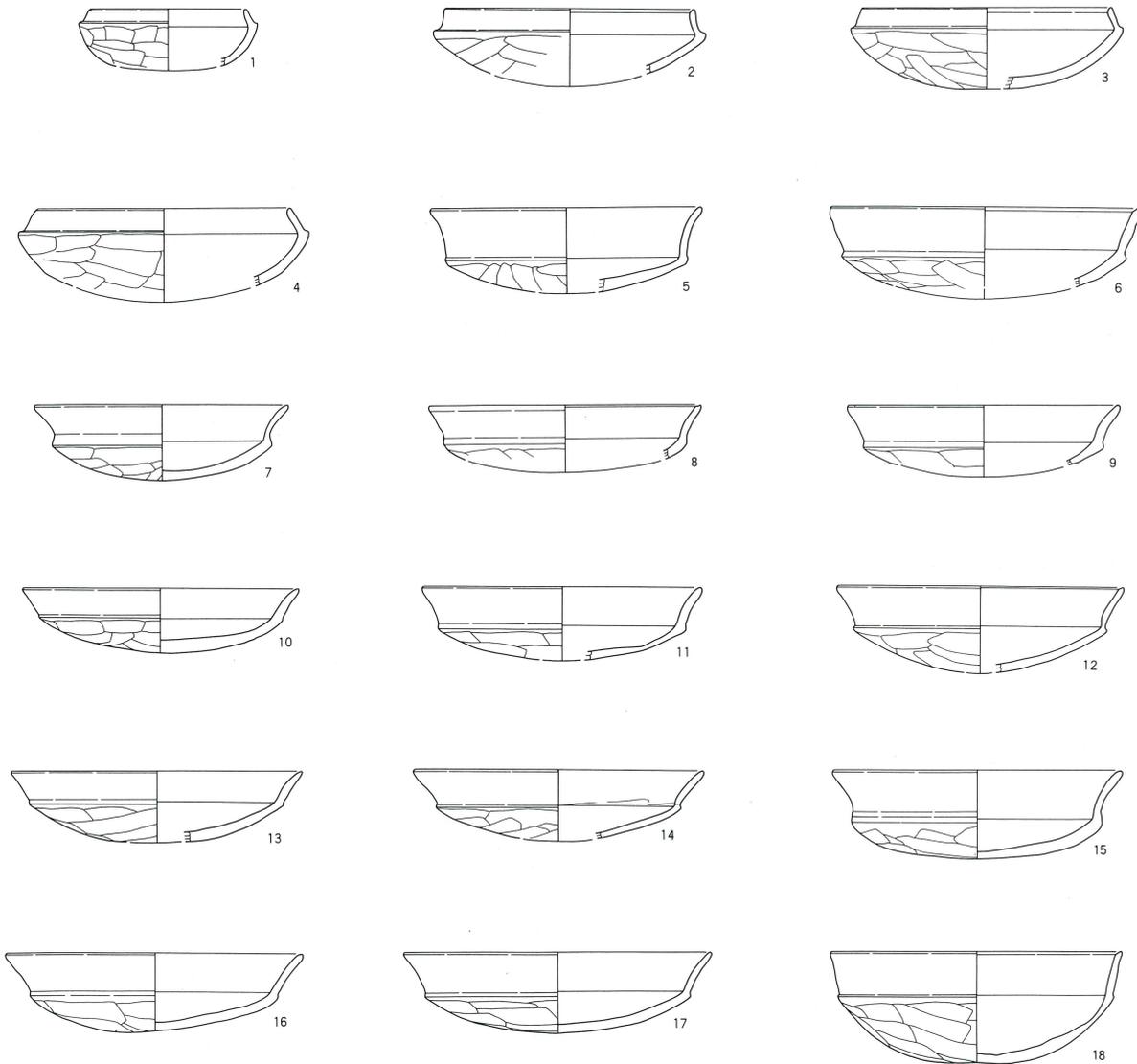
遺物は、土師器坏・椀・高杯・鉢・壺・台付甕・甑の他、耳栓状の土製品が出土した。



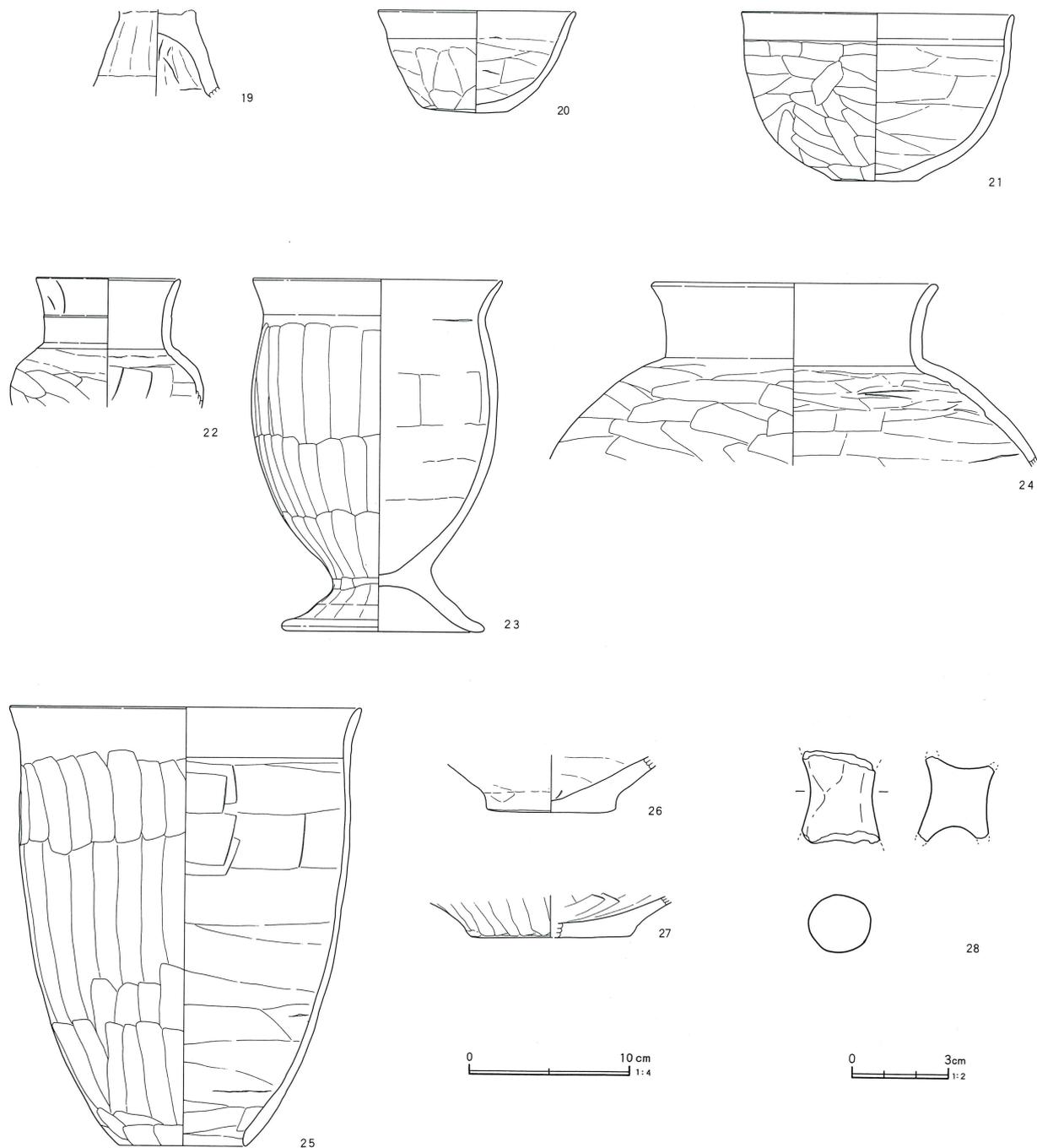
第199図 第10号性格不明遺構・出土遺物（1）



- 1 褐色シルト (10YR4/4) 白色微粒子
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 灰多
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 灰白色土若干
- 4 黒褐色 (10YR2/3)
- 5 にふい黄褐色 (10YR5/3) 明黄褐色シルト多



第200図 第10号性格不明遺構出土遺物 (2)



第10号性格不明遺構出土遺物観察表 (第199・200図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(8.4)			B	不良	にぶい橙	45	Na21・D1区	
2	坏	(13.6)			AB	良	灰褐	10	Na84	
3	坏	(13.8)	4.5		ABD	良	にぶい赤褐	45	Na68	
4	坏	(14.0)			ABDE	普通	明褐灰	15	A区・A2区	
5	坏	(15.0)			BEG	普通	にぶい橙	40	Na34	
6	坏	(17.0)			BDE	良	にぶい赤褐	20	B区・A2区 ・SJ104 B区	
7	坏	(14.0)	4.2		BDEJL	普通	にぶい橙	45	Na58	
8	坏	(15.0)			BEJ	普通	にぶい橙	20	Na3、B・A区	
9	坏	(15.0)			ABEF	不良	橙	30	Na110・A2区	

第10号性格不明遺構出土遺物観察表 (第199・200図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
10	坏	15.2	3.6		B D J	普通	にぶい橙	75	Na31	
11	坏	(15.6)	4.1		A B F	不良	橙	20	Na136・B区	
12	坏	(15.6)	4.8		B D E	良	褐	40	Na92・Na93 ・Na96・C区	
13	坏	(16.0)	3.9		B E J	不良	にぶい黄橙	15	Na141	
14	坏	(16.0)			A B D E F	普通	橙	15	Na55	
15	坏	(16.0)	4.9		D E	普通	にぶい橙	50	Na99・100・B	
16	坏	16.4	4.4		A B E J	普通	橙	95	Na103・Na117・ 132	
17	坏	(17.0)	4.5		B E L	普通	橙	45	Na69・A1区	
18	坏	(16.0)	6.2		B E J	不良	橙	60	Na41・Na63	
19	高坏				B E	不良	灰黄褐	60	Na152	
20	椀	12.3	6.4	5.2	A B F G J	普通	にぶい黄橙	100	Na45	口縁部横ナデ 底部手持ちヘラ削り
21	鉢	(17.0)	10.6	5.4	B J L	普通	にぶい褐	60	Na77・A区	底部ヘラ削り
22	壺	(9.0)			A B D	普通	灰黄褐	30	Na5	
23	台付甕	15.5	22.2	12.3	B J L	普通	にぶい黄橙	90	Na122	
24	甕	(18.0)			A B E J	普通	橙	20	Na107	外面←方向ヘラ削り
25	甗	(22.0)	27.5	(8.0)	J L	不良	にぶい黄橙	40	Na39・40・43・ 46・48・49・50 56・62	
26	甕			(8.0)	B E F	不良	浅黄橙	30	Na27	底部ヘラ削り
27	甕			(10.0)	B E F	普通	橙	40	Na66	外面↓方向ヘラ削り

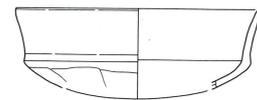
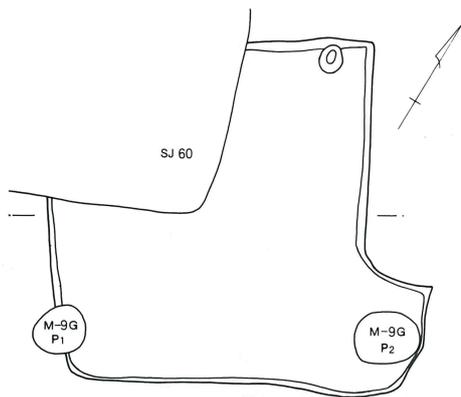
第10A号性格不明遺構 (第201図)

M-9グリッドに位置する。第60号住居跡に北西隅が切られ、第42号住居跡の下にある。南北2.85m、東

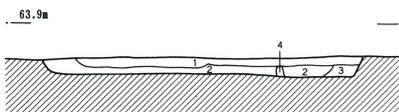
西2.83mで南東部が張り出しており、深さ12cmを測る。

遺物は、土師器坏が出土した。

第201図 第10A号性格不明遺構



- 1 黄褐色シルト (10YR5/6)
- 2 褐色シルト (10YR4/6)
- 3 黄褐色シルト (10YR5/6) 締め無し
- 4 黄褐色シルト (10YR5/8)



第10A号性格不明遺構出土遺物観察表 (第201図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(13.0)			B E	不良	橙	30	B区	

4. 窯 跡

第1号窯跡 (第202・203図)

L-9グリッドに位置する。北の荒川に向い極僅かに傾斜しているが、平坦部に構築され、主軸は傾斜に対し直交している。西端が攪乱され、平面は、長さ2.27m、焼成部幅1.20m、燃烧部幅1.04mの楕円形を呈している。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

焼成部と燃烧部の境はやや窄まり幅0.88mを測る。焼成部は窯壁が高さ20cm程遺存していたが、焼成部内に窯壁が崩れ落ちていた。

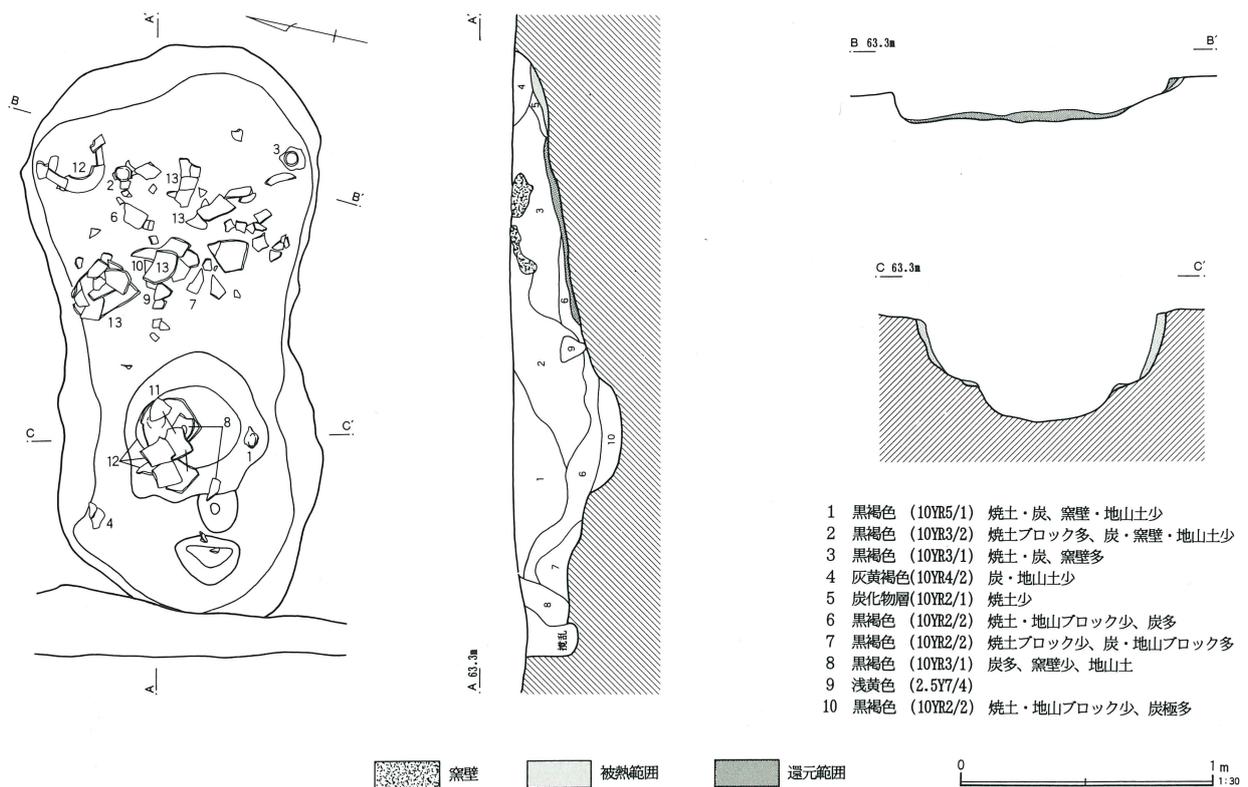
焼成部の側壁は灰色に還元化し、その外側は被熱し赤変していた。床面も還元化しており、床面の傾斜角

度は10°を測る。

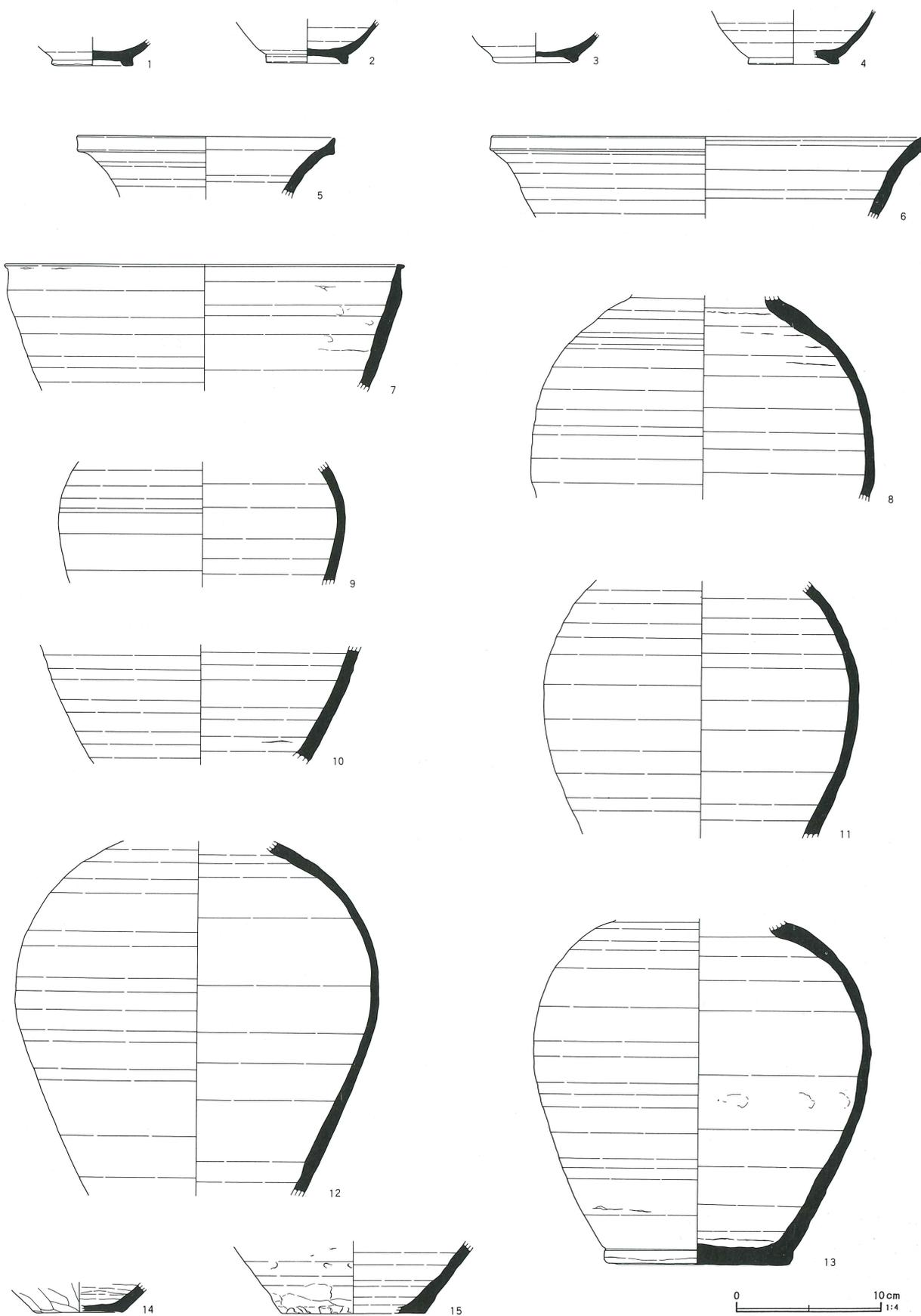
燃烧部は壁が20cm程遺存し、床と壁は被熱し赤変していた。また、灰原は燃烧部の西側・北側でも確認できなかった。燃烧部床下の土坑や覆土内には炭が多量に含まれ、灰原が確認できなかったことから土師器焼成遺構のように、焼成は数次にわたって行われていないものと推定される。

遺物は、焼成部及び燃烧部で、須恵器高台付坏・碗、鉢・甕が出土し、甕が主体である。甕は胴部のみの出土で、焼成状態は悪く須恵質になっていない。

第202図 第1号窯跡



第203图 第1号窯跡出土遺物



第1号窯跡出土遺物観察表 (第203図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	高台付椀			5.8	B J	不良	黄灰	100	Na46	床
2	高台付椀			5.8	B J	不良	灰黄褐	45	Na40	床 底部内面強い回転ナデ
3	高台付椀			5.9	B J	不良	灰	80	Na1	床
4	高台付椀			(6.4)	B J	普通	灰黄	30	Na51	床
5	甕	(18.0)			B J L	不良	灰白	10		
6	甕	(30.0)			B J	良	灰	10	Na37	床
7	鉢	(28.0)			B J	良	灰	10	Na20	床
8	甕				B E J	不良	にぶい黄橙	80	Na44・Na48	ピット確認面(床)
9	甕				B E F	不良	褐灰	15	Na24・Na27	床+3cm
10	甕				B E J	不良	褐灰	15	Na24	床+3cm
11	甕				B E J	不良	灰黄	20	Na43・45・47	ピット確認面(床)
12	甕				B E J	不良	黄灰	70	Na2・41・42 ・47・48・58	ピット底面
13	甕			13.0	B E J	不良	にぶい黄橙	60	Na15・21・26・ 32・44	床
14	甕			(6.0)	B J	良	灰	15	床下	内面ヘラ回転ナデ、外面↓方向ヘラ削り
15	甕			(10.0)	B J	良	灰	10		体部外面下端→方向ヘラ削り 底部ヘラ削り

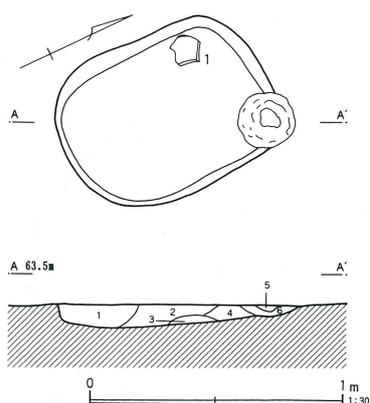
5. 鍛冶炉跡

第1号鍛冶炉跡 (第204図)

〇-9グリッドに位置し、第45号住居跡を切っている。平面は、85cm×65cmの隅丸方形で、深さは4~10

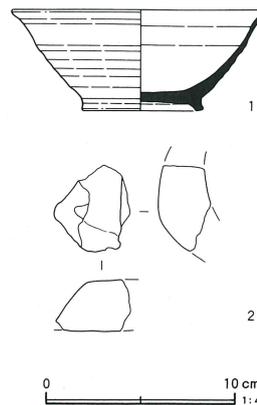
cmを測る。南東隅が炉の中心で、平面円形をした粘土が被熱し硬化しており、炉底とみられる。遺物は、須恵器高台付椀と羽口が出土した。

第204図 第1号鍛冶炉跡



鍛冶炉跡

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 褐色ブロック・焼土粒・カーボン
粘性、締まっている
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒子・ブロック多、粘性
- 3 黄褐色 (10YR5/6) 焼土粒子
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 粘性
- 5 褐灰色 (10YR4/1) 硬質
- 6 赤褐色被熱土(2.5YR4/6)粘性、締まり有り



第1号鍛冶炉跡出土遺物観察表 (第204図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	高台付椀	(13.6)	5.4	6.4	B F	良	灰	65	SJ45Na47	
2	羽口								SJ45 C区	

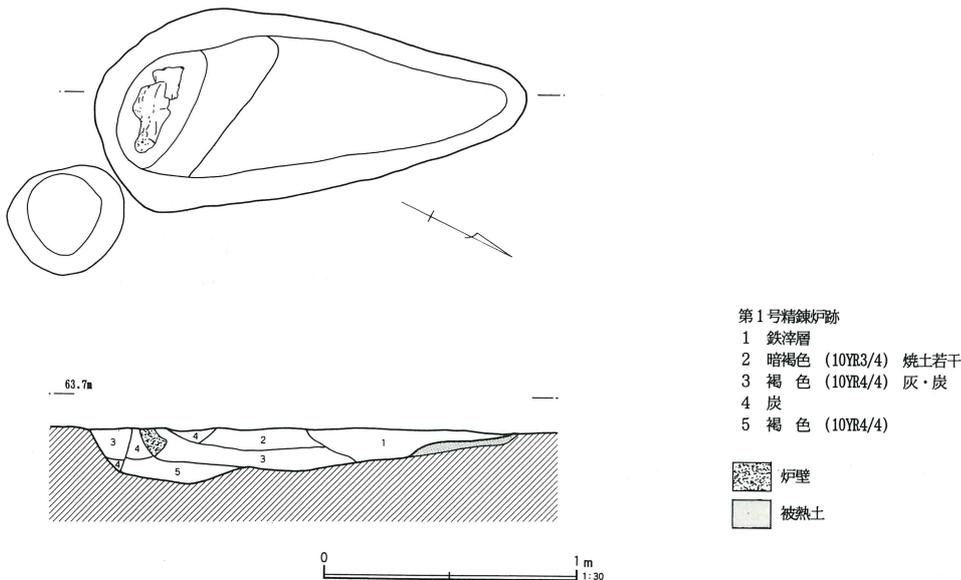
6. 精錬炉跡

第1号精錬炉跡 (第205図)

M-12グリッドに位置し、炉底の掘り方だけの確認である。平面は、軸長172cm×77cmの楕円形状を呈し、

深さは炉本体で14cm、前面で18~20cmを測る。主軸方位は、N-27°-Wを測る。

第205図 第1号精錬炉跡



7. ピット

P-3 G. ピット1 (第206・208図)

第9号土坑の北方にあり、平面は径44cmの円形で、深さ23cmを測る。遺物は、覆土中から白玉が出土した。径5.0~5.4mm、厚さ2.7~3.4mm、重さ0.13gである。

O-6 G. ピット1 (第206・208図)

第56号・第57号住居跡を切っている。平面は、径49cm×45cmの円形で、西側の浅いピットを切っている。深さは43cmを測る。遺物は、須恵器坏2点が確認面より出土した。

Q-2 G. ピット1 (第206・208図)

第1号土坑の北方にあり、平面は61cm×53cmの楕円形で、深さ43cmを測る。主軸方位は、N-4°-Eを指す。遺物は、覆土中から鎌の刃部の一部が出土し、75.65gを量る。

O-6 G. ピット2 (第206図)

第56号・第57号住居跡を切っている。平面は、軸長74cm×60cmの不整楕円形で、深さ58cmを測る。主軸方位は、N-40°-Wを指す。遺物は、須恵器片が出土した。

Q-4 G. ピット4 (第206・208図)

第2号住居跡を切っている。平面は59cm×42cmの不整形で、深さ19cmを測る。遺物は、覆土中から土師器甕が出土した。

K-10 G. ピット3 (第206・208図)

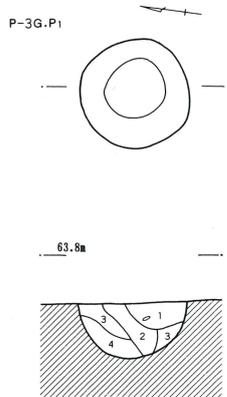
平面は、径61cm×56cmの円形で、深さ48cmを測る。遺物は、土師器坏が覆土中位より出土した。

L-11G. ピット1 (第206・208図)

第39号・第41号土坑と重複している。平面は、軸長53cm×42cmの楕円形で、深さ31cmを測る。主軸方位

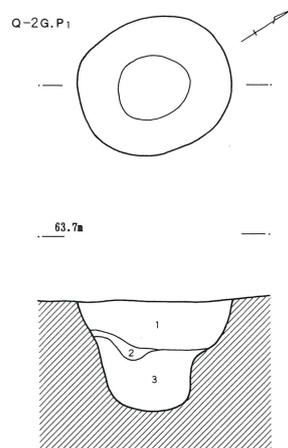
は、N-73°-Wを指す。遺物は、土師器坏が覆土中位より出土した。

第206図 ピット (1)



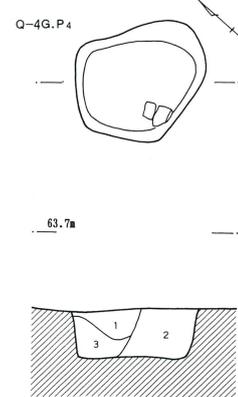
P-3G. P1

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 焼土・地山土少
- 2 褐灰色 (10YR4/1) 焼土・炭化物僅か
灰砂ブロック多
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 地山土多
- 4 黒褐色 (10YR3/2) 地山土少



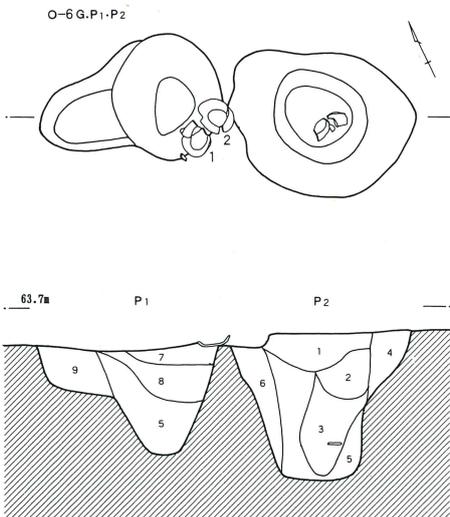
Q-2G. P1

- 1 黄褐色 (10YR5/4)
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 焼土微
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物少



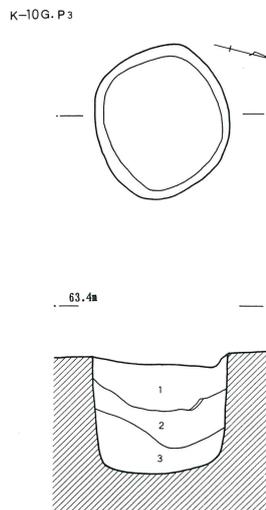
Q-4G. P4

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 焼土・炭化物・地山土少
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 焼土・地山土少、炭化物微
- 3 褐色シルト (10YR4/3) 橙色土



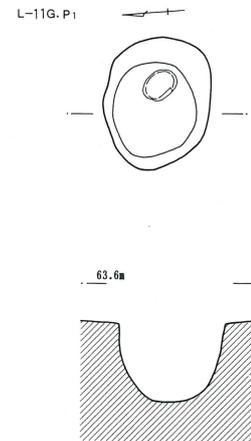
O-6G. P1・2

- 1 褐色 (10YR4/4) 焼土極多
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/4)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼土多、炭化物若干
- 4 明黄褐色シルト(10YR7/6)
- 5 にぶい黄褐色シルト(10YR6/3)
- 6 にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)
- 7 褐色 (10YR4/4) 灰白色シルト多
- 8 にぶい黄褐色 (10YR5/3)
- 9 黄褐色シルト (10YR7/8) 褐色土若干



K-10G. P3

- 1 黄褐色 (10YR5/6) 炭化物
- 2 黄褐色 (10YR5/6) 炭化物・灰白色粘土、焼土少
- 3 灰黄褐色 (10YR5/2) 焼土粒子、粘性

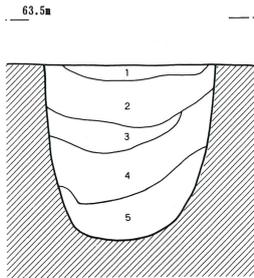
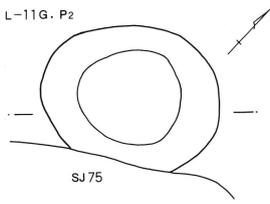


L-11G. P1

- 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック、粘性やや有

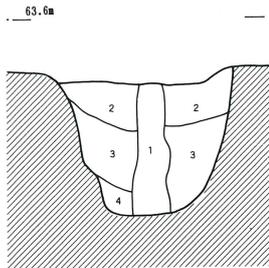
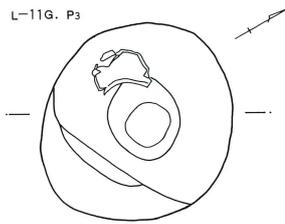


第207図 ピット (2)



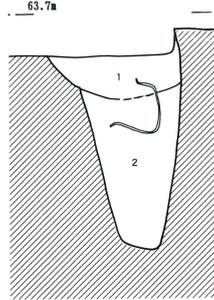
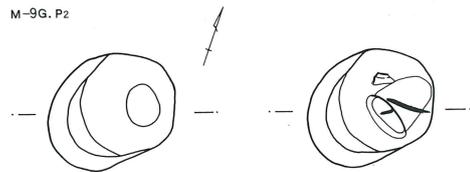
L-11G. P2

- 1 黒褐色 (10YR3/1) 地山ブロック多
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 焼土ブロック多
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物
- 4 黒褐色 (10YR3/2) やや砂質
- 5 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・炭化物



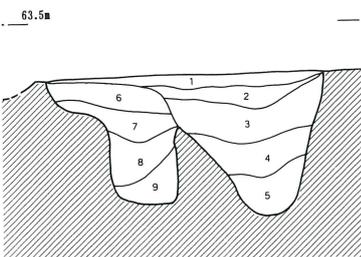
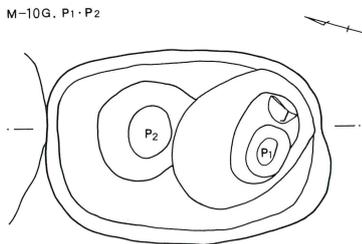
L-11G. P3

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 灰黄色粘土ブロック
- 2 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・炭化物
- 3 褐色 (10YR4/6) 焼土粒・炭化物
- 4 灰黄色 (10YR6/2) 炭化物、粘性



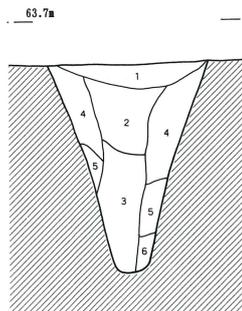
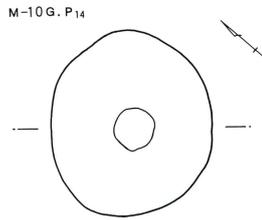
M-9G. P2

- 1 褐色シルト (10YR4/6) 明黄赤褐色土粒子極多
- 2 黄褐色 (10YR5/6)



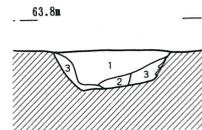
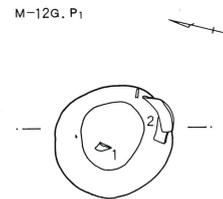
M-10G. P1・2

- 1 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック多
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 炭化物・地山粒子
- 3 褐灰色 (10YR4/1) 炭化物・地山ブロック多、粘性
- 4 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物・地山ブロック、やや砂質
- 5 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、砂質
- 6 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック多、粘性
- 7 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、やや砂質
- 8 黒褐色 (10YR3/2) 炭化物・地山粒子
- 9 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック、粘性



M-10G. P14

- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 地山ブロック・褐灰色粘質土ブロック多
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック・褐灰色粘質土ブロック多・焼土粒
- 3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質
- 4 褐灰色 (10YR6/1) 地山ブロック・焼土粒子多
- 5 褐灰色 (10YR5/1) 地山ブロック・粒少量 やや砂質
- 6 褐色 (10YR4/6) 地山ブロック多



M-12G. P1

- 1 暗褐色 (7.5YR3/3) 炭灰
- 2 褐色 (10YR4/4) 灰僅か
- 3 褐色 (10YR4/6)



L-11G. ピット2 (第207・208図)

第75号住居跡に南東側を切られ、第94号住居跡を切っている。平面は、主軸52cm×55cm以上の楕円形で、深さ70cmを測る。主軸方位は、N-71°-Eを指す。遺物は、土師器坏と白玉が覆土中より出土した。白玉は、径12.7mm、厚さ7.8~8.8mm、孔径2.3mm、重さ2.43gである。

L-11G. ピット3 (第207・208図)

第92号住居跡を切っている。平面は、径85cm×76cmのほぼ円形で、深さ61cmを測る。断面で柱痕が確認できた。遺物は、土師器甕が覆土中位より出土した。

M-9G. ピット2 (第207・208図)

第10A号性格不明遺構を切っている。平面は、軸長55cm×43cmの楕円形で、深さ85cm程を測る。主軸方位は、N-40°-Eを指す。遺物は、土師器甗が出土した。

M-10G. ピット1 (第207・208図)

第70号住居跡とM-10G. ピット2を切っており、隅丸方形の落ち込み内にある。平面は、軸長61cm×46cmの楕円形で、深さ58cmを測る。主軸方位は、N-64°-Wを指す。遺物は、土師器坏で、覆土中から出土した。

M-10G. ピット2 (第207図)

第70号住居跡を切り、M-10G. ピット1に切られており、隅丸方形の落ち込み内にある。平面は、径40cmの楕円形で、深さ50cmを測る。

M-10G. ピット14 (第207・208図)

第86号住居跡を切っている。径74cm×54cmのほぼ円形で、深さ84cmを測る。遺物は、土師器小型甕が覆土中より出土した。

M-12G. ピット1 (第207・208図)

第111号住居跡のカマドを切っている。平面は、径50cm×44cmの円形で、深さ12~16cmを測る。遺物は、ピット南壁際から土師器坏・甕が出土した。

Q-4グリッド P4 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
	甕	(12.4)			B J	普通	にぶい褐	20	SJ2Na8	

K-10グリッド P3 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(19.5)			D F J	普通	橙	30	P3	

O-6グリッド P1 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	13.4	3.8	6.5	A J	良	灰	85	P1 Na1	底部右回転糸切り
2	坏	13.3	3.6	6.8	A B L	良	灰	95	P1 Na2	底部右回転糸切り

L-11グリッド 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	12.3	3.4		A D G	普通	明褐灰	95	P1 Na1	P 1
	坏	12.0	4.5		D E H J	不良	橙	45	P2	P 2
	甕	19.0			B E J L	普通	にぶい黄橙	60	P3 Na1	P 3

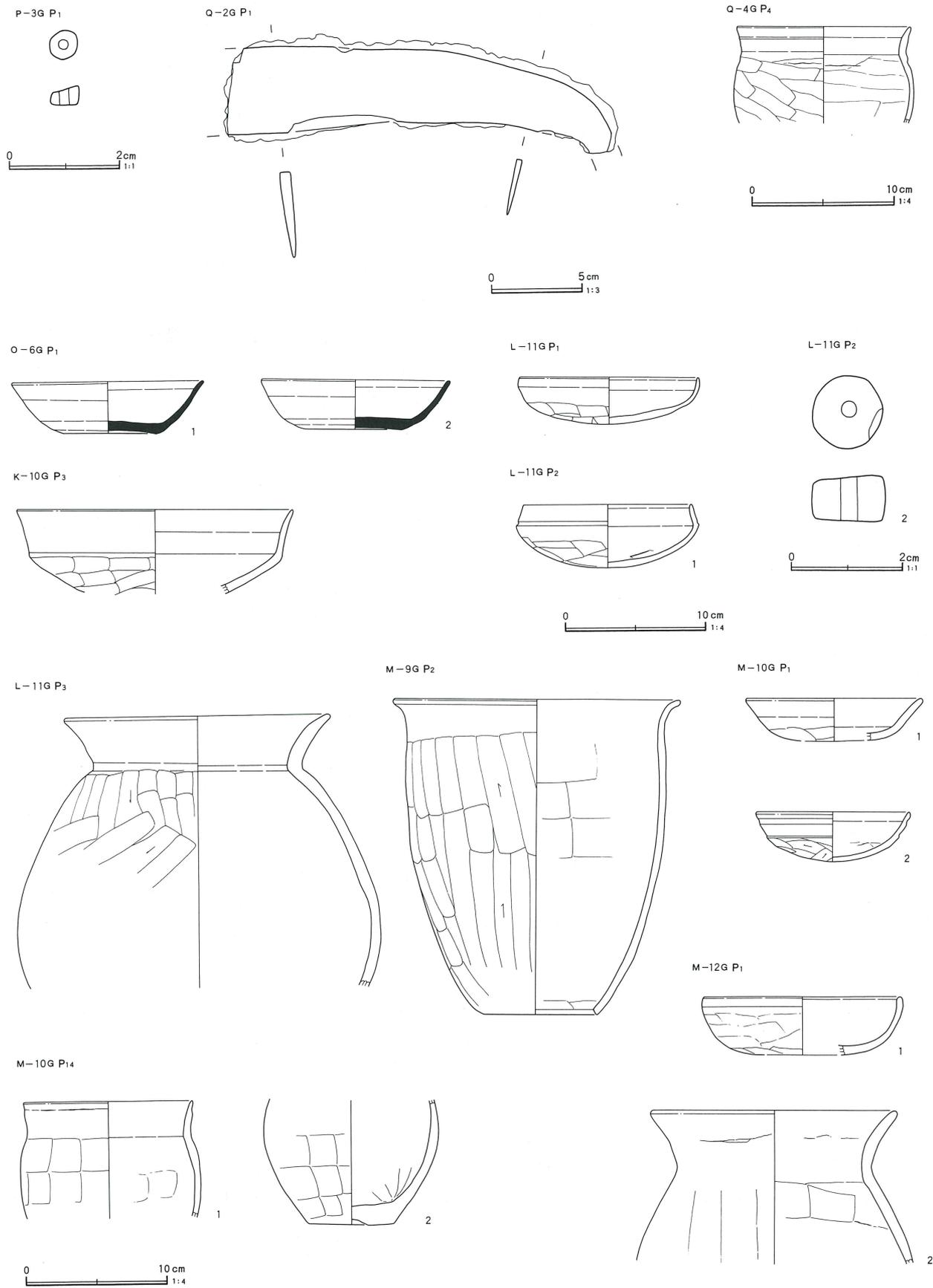
M-9グリッド P2 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甗	20.1	22.5	8.0	J L	普通	浅黄橙	100	P2 Na1	内面横ナデ

M-10グリッド P1 出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(10.8)	3.6		B D H	良	橙	50	P1	
2	坏	(12.4)	3.0		A B D	不良	浅黄橙	30	P1	

第208図 ピット出土遺物



M-10グリッド P14出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	甕	(11.9)			B J L	不良	橙	35	P14・P11	2と同一個体
2	甕			6.0	B J L	不良	橙	50	P14	1と同一個体

M-12グリッド P1出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(14.0)	4.2		B F J L	不良	にぶい橙	15	P1	
2	甕	17.2			B J L	普通	にぶい橙	45	P1 No1	

8. グリッド出土・表採遺物

グリッド・表採等、遺構外から須恵器坏・土師器甕・甌の他土錘・白玉・土玉、銅製管玉、古銭が出土した。

土錘は、55点が出土した。

玉類 (第209図)

6の白玉はL-10グリッド出土で、径6.0~6.2mm、厚さ3.2mm、孔径1.8mm、重さ0.20g。7の土玉はM

-12グリッド出土で、径8.0~8.9mm、高さ6.3~6.5mm、孔径2.0mm、重さ0.47g。8は土玉で表採し、一部欠けているが径7.9~8.2mm、高さ6.5~6.8mm、孔径2.1mm、重さ0.43gである。9は表採した銅製の管状製品で、長さ20.4mm、外径3.6~4.2mm、重さ0.71gである。

L-11グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.56)	(1.08)	(0.37)	(1.32)		にぶい橙		
2	(3.56)	(1.67)	0.53	(4.36)	B	橙	20	P 2
3	(3.15)	1.43	0.60	(3.98)	B	にぶい黄橙	30	P 2
4	(3.86)	1.43	0.51	(7.04)	B a	淡黄	60	

M-9グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(5.05)	1.75	0.60	(12.57)	B a	黒褐	80	P 3

M-10グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.99)	1.44	0.48	(4.95)	B a	にぶい橙	40	P 13
2	(5.39)	1.53	0.55	(10.61)	B a	にぶい黄橙	80	P 1

M-11グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(1.27)	1.07	0.40	(1.01)	B a	にぶい黄橙	10	P 4
2	4.58	1.71	0.46	8.92	B a	にぶい橙	50	4 G
3	4.49	1.76	0.50	12.80	B a	橙	60	4 G
4	6.30	1.38	0.40	11.27	B aIV	灰黄褐	100	P 7

M-12グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.86)	1.29	0.35	(5.00)	B a	橙	90	4 G
2	(3.46)	1.67	0.41	(8.68)	B a	橙	30	4 G
3	4.81	1.94	0.61	15.25	B aV	淡黄	100	4 G
4	(5.74)	1.75	0.40	(13.24)	B a	にぶい黄橙	90	4 G
5	6.77	1.90	0.59	21.66	B aⅢ	にぶい橙	100	4 G
6	(7.23)	1.83	0.43	(22.35)	B a	にぶい黄橙	95	

M-13グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.29)	1.35	0.49	(4.42)	B a	浅黄橙	30	P 1

N-6グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.67)	1.06	0.46	(2.04)	B a	にぶい黄橙	30	P 5
2	(3.82)	1.37	0.38	(6.05)	B a	灰白	70	南東部
3	5.34	1.94	0.47	17.03	B bV	にぶい黄橙	100	南東部

N-7グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.31)	1.28	0.50	(3.64)	B a	浅黄橙	40	南東部
2	4.12	2.02	0.48	14.46	C aⅥ	灰白	100	南東部

N-12グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.17)	2.24	0.50	(13.83)	B a	にぶい黄橙	40	
2	(4.83)	1.89	0.65	(13.68)	B a	淡黄	60	
3	4.83	1.84	0.55	14.89	B aV	にぶい黄橙	100	
4	7.10	2.12	0.43	26.10	B aⅢ	にぶい橙	100	

N-13グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.26)	1.24	0.35	(5.60)	B a	にぶい黄橙	70	
2	(4.90)	1.53	0.45	(9.21)	B a	にぶい黄橙	60	
3	4.77	1.81	0.50	16.15	B bV	にぶい橙	100	
4	(5.65)	1.74	0.53	15.27	B a	にぶい黄橙	60	
5	8.44	2.46	0.56	37.48	B aⅡ	にぶい黄橙	100	

O-5グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	5.10	1.55	0.50	11.13	B aV	にぶい橙	100	北東部

O-6グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.73)	1.20	0.54	(3.07)	B a	褐灰	30	
2	(2.64)	1.30	0.48	(3.98)	B	褐灰	20	北西部
3	(4.70)	1.37	0.55	(6.78)	B a	にぶい黄橙	70	北西部
4	(5.31)	1.81	0.46	(16.28)	B b	褐灰	80	北西部

O-10グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.06)	1.89	0.47	(11.59)	B a	褐灰	60	

P-3 グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(3.56)	1.40	0.50	(5.41)	B a	橙	40	

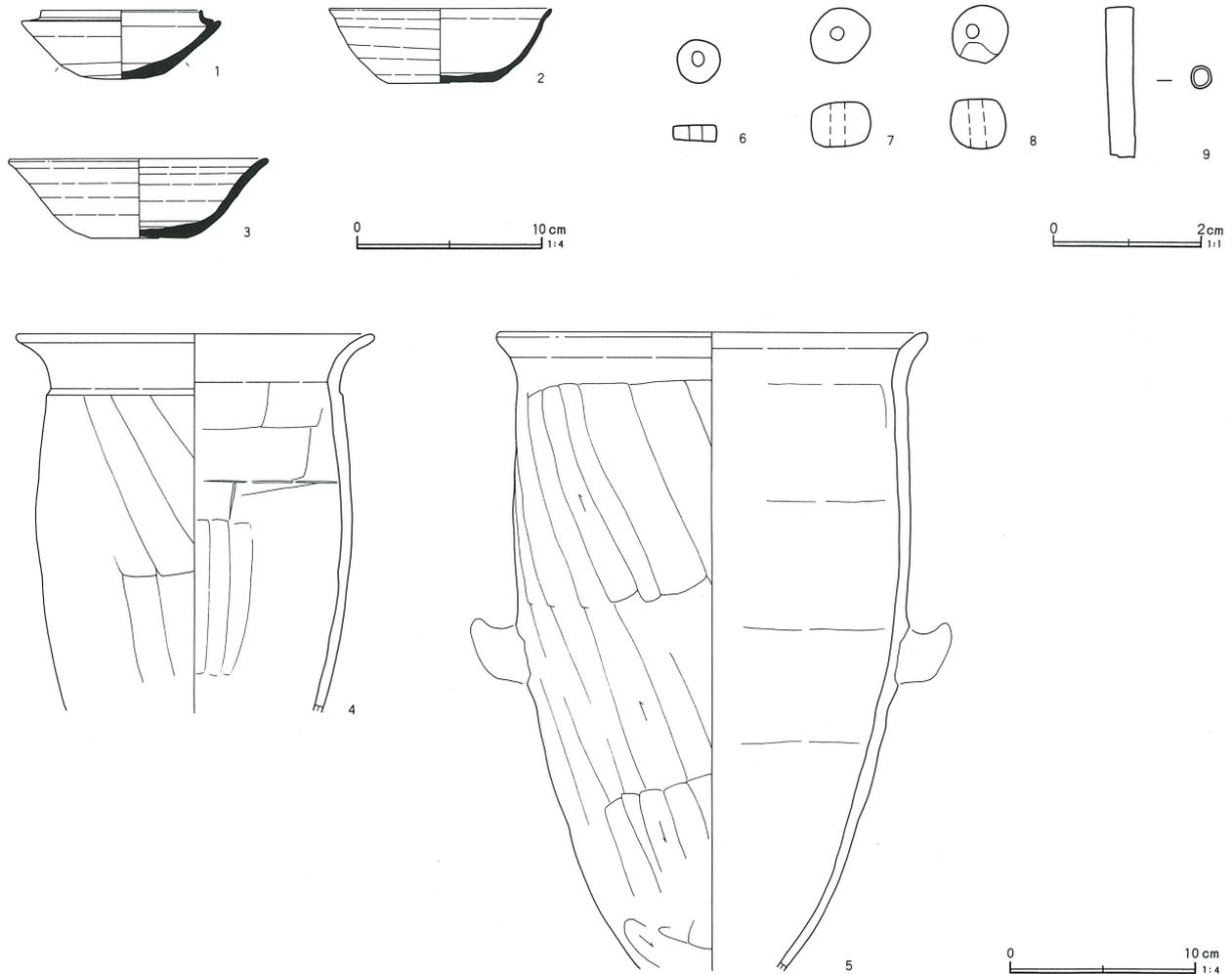
P-6 グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(4.01)	1.38	0.52	(4.95)	B a	にぶい黄橙	40	

Q-5 グリッド出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色調	残存(%)	備考
1	(2.27)	1.49	0.50	(2.92)	B a	橙	20	P 2
2	4.67	1.29	0.40	7.77	A a V	にぶい橙	100	P 1
3	6.10	1.90	0.50	17.22	B a IV	灰白	100	P 1

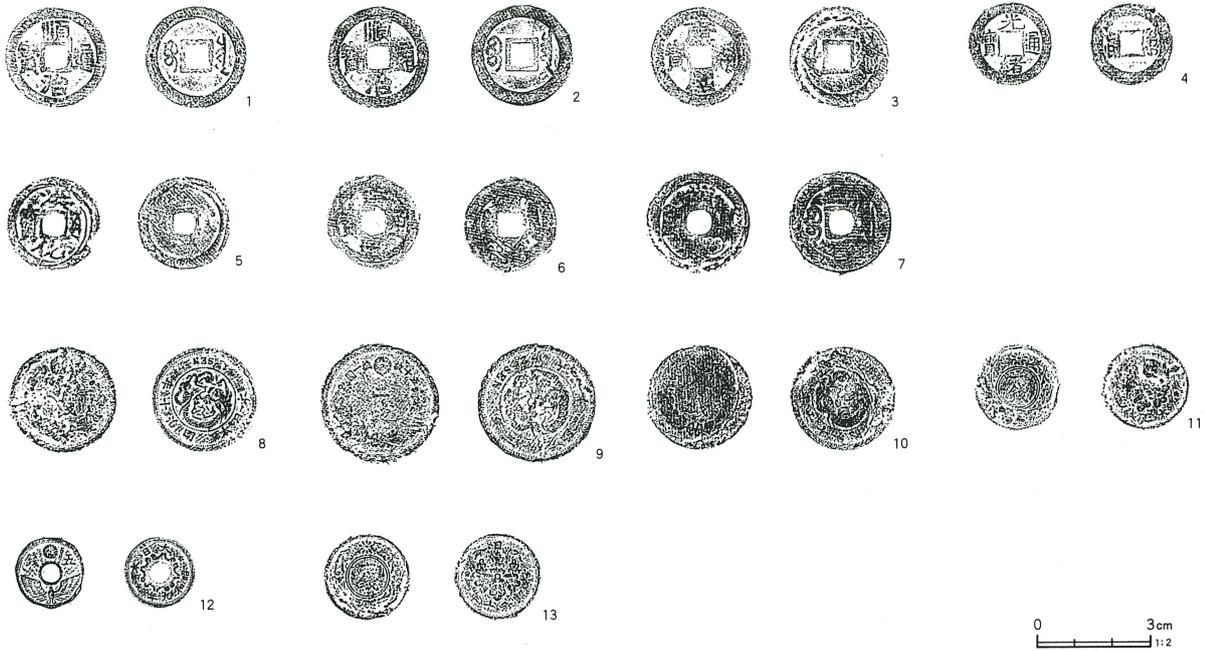
第209図 グリッド・表採遺物



グリッド出土遺物観察表 (第209図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存(%)	注記番号	備考
1	坏	(8.7)	3.8		F	良	灰	55		N-13 G.
2	坏	11.9	4.0	5.5	B L	良	灰	100	Na1	O-5 G. 底部右回転糸切り 外面↑方向ヘラ削り
3	坏	13.7	4.3	5.2	B I L	良	灰	35		M-12 G. 底部右回転糸切り
4	甕	(19.0)			L	普通	にぶい橙	25		M-11 G. 内面上半木口状工具横ナデ 下半縦ナデ
5	甑	(23.0)			J K L	普通	橙	45		M-10 G. 縦位のヘラ削り 把手欠

第210図 K-11グリッド出土古銭



K-11グリッド出土古銭計測表 (第210図)

番号	名称	初 鑄 年	時 期	直径(mm)	孔径(mm)	孔形	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考
1	順治通寶	1644	清	27.20	6.2	方	1.3	4.66	時期不明 順治通寶?
2	順治通寶	1644	清	27.10	5.8	方	1.1	3.81	
3	康熙通寶	1662	清	27.00	5.7	方	1.1	3.62	
4	光緒通寶	1875	清	2.27	5.1	方	1.4	3.21	
5	洪化通寶			25.10	4.8	方	1.6	4.66	
6	通寶			25.10	5.5	方	1.0	3.05	
7				27.30	6.2	隅丸方	0.8	3.25	
8	一銭	明治十年 (1877)	明治	28.30	—		1.7	6.95	
9	二銭	明治十三年 (1880)		32.10	—		2.0	13.07	
10	一銭	明治十七年 (1884)		2.80	—		1.3	6.60	
11	一銭	大正八年 (1919)		23.50	—		1.4	3.59	
12	五銭	昭和九年 (1934)	昭和	19.20	5.0	円	1.2	2.38	
13	一銭	昭和十年 (1935)		23.60	—		1.4	3.76	

表採出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	色 調	残存(%)	備 考
1	(2.85)	1.64	0.45	(6.57)	B a	褐灰	20	
2	3.03	1.46	0.55	4.50	B a VI	灰黄褐	100	
3	3.32	1.64	0.43	8.04	B a VI	にぶい黄橙	100	
4	(3.53)	1.71	0.50	(9.18)	B a VI	にぶい黄橙	20	
5	(4.20)	1.60	0.50	(11.06)	B b	黄灰	70	
6	(4.27)	1.51	0.35	(10.35)	B a VI	褐灰	60	
7	(4.54)	1.55	0.55	(8.79)	B a VI	にぶい黄橙	60	
8	(6.16)	1.46	0.45	(10.53)	B a VI	淡黄	80	
9	5.91	1.91	0.43	16.79	B a IV	にぶい橙	100	
10	(5.54)	2.28	0.53	(23.06)	B a	褐灰	80	
11	6.56	2.20	0.53	23.70	B a III	褐灰	100	
12	7.37	1.94	0.55	(24.78)	B a III	灰黄褐	95	

V まとめ

1. 調査の成果

如意遺跡での本報告では古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡118軒、土坑45基、性格不明遺構11基、窯跡1基、鍛冶炉跡1基、精錬炉跡1基とピットが多数確認されている。

竪穴住居跡は、古墳時代後期69軒、奈良時代14軒、平安時代27軒、時期が不明確なものが8軒である。

土坑は、古墳時代後期13基、奈良時代1基、平安時代3基、時期不明確なものが28基である。

性格不明遺構は、古墳時代後期5基、平安時代1基、

古墳時代後期、奈良・平安時代の遺物が混在しているものが1基、時期不明確なものが4基である。

ピットも、古墳時代後期、奈良・平安時代のものもあるが、時期不明確なものが多数を占めている。

竪穴住居跡の分布は、大きく西と中央と東の3ブロックに分かれる。古墳時代後期の住居跡は全ブロックに分布し、奈良時代は軒数が少ないが中央のブロックに比較的多く、平安時代の住居跡も多くは中央ブロックに集中している。

2. 古墳時代の土器

今年度報告のなかで、古墳時代後期の竪穴住居跡・性格不明遺構において、検出数は全体の5割から6割を占めている。しかし、これまで如意遺跡では竪穴住居跡が560軒調査されている。したがって、現段階で器種分類や編年を行なうことは、如意遺跡の全体をまとめる際に、本報告との照合を行うこととなり煩雑になる。これを避けるために、本報告では出土数が少ない須恵器出土遺構についてまとめる程度にとどめる。

第133号住居跡（第180・211図）

カマドから出土したものに土師器甕と甑があり、甕は胴部中央に最大径を持ちながら長胴化する段階のもので、甑は同様の形態を見せるものとして南大通り第61A号住居跡があり、増田氏のⅥ期にあたる。また、須恵器の坏蓋が出土しており、口径が12.2cm・12.4cmと小型であり、天井部は右回転のヘラ削りされている。須恵器坏蓋の口径がMT15型式はTK47型式よりやや大型化することから、TK47型式の坏蓋と捉えることができる。土師器・須恵器より6世紀初頭から前半に位置するものと考えられる。

第80号住居跡（第123～125・211図）

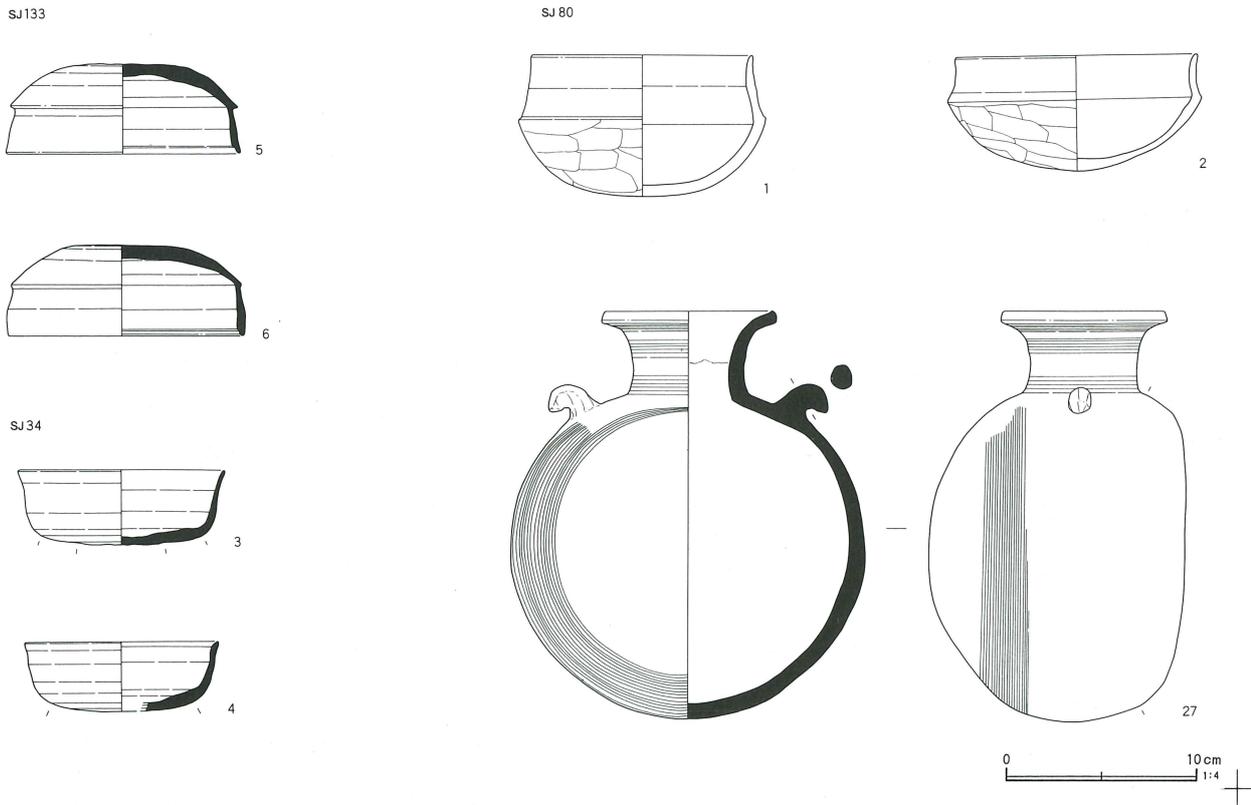
土師器坏には体部が深く口縁部の立ちあがりも外反気味に直立するもの、体部が浅く直立するもの、外反するもの、内屈するものの4種がみられ、増田氏

のⅦ期にあたる。カマドから小型の土師器甕と長胴甕が出土している。長胴甕（第124図23）は7世紀初頭の所産と取らざるを得ない。他の土師器甕は胴部中央に最大径をもつ時期のもので、増田氏の第Ⅵ期にあたる。須恵器提瓶は、鉤の手状の把手が付き、頸部と胴部にカキ目がみられ、胴部は突出したほうに同心円状のカキ目がみられる。胴部の閉塞は扁平な面と突出した面の両面から閉塞され、突出した面の中央は粘土の円盤でふさがれている。MT15型式からTK10型式に並行する。土師器・須恵器より6世紀前半代と捉えられる。

第34号住居跡（第58・211図）

土師器坏は丸底で口縁部が内屈する将監塚・古井戸の坏B類が出土しており、八幡太神南A1号住居跡に類例が認められる。須恵器坏2点が出土しており、底部は平底に近い丸底で、体部の立ちあがりも直立に近く、口径11.0cmと10.2cmのもので、底部は周辺及び全面の回転ヘラ削りが行われている。今井G-2号住居跡や八幡太神南A1号住居跡に類似し、将監塚・古井戸の第1期から第2期にあたる。須恵器坏は、TK217型式に並行することなどからも7世紀中葉から7世紀第3四半期と捉えられる。

第211図 古墳時代後期の土器



3. 窯跡出土の土器

如意遺跡の荒川上流対岸の丘陵地帯には、末野窯跡群が分布し9世紀代を中心とした操業年代で、7世紀代前半にまで遡る可能性が指摘されている。また、末野窯跡群対岸の荒川右岸では2支群が確認され、折原窯跡では10世紀前半代に高台付坏が生産されている。桜沢窯跡は末野窯跡群の東方にあり、末野窯跡群が丘陵部に位置するのに対し段丘上の平坦部に2基の須恵器窯跡が検出された。

如意遺跡の窯跡は1基単独ではあるが、河岸段丘上の平坦部に立地するという桜沢窯跡との共通点がある。

第1号窯跡では、灰原などが確認されず窯跡本体のみの検出であった。焼成部には炉壁が内部に崩れ落ち、その下に土器が検出された。土器は前述のとおり焼成が不良であるが、還元焼成している。出土遺物は、須恵器高台付碗・鉢・甕であるが、高台付碗は高台部のみで、鉢も残存が少なく復元図の1点だけで、主体

を占めるものは甕である。口縁部も出土しているが、胴部だけの出土が多く最大径22～25cmの中型の甕である。

高台付碗は全体的なプロポーシオンは不明であるが、特徴として高台が非常に低い点があげられる。また、高台径は、5.8cm、5.9cmと1点が6.4cmと6cm程度である。高台の形態は、短く直立するもの、短く直立するが底部との境はあまり明瞭でないもの、短く外側に張り短面が外傾するもの、僅かに外側に張り底部との境が不明瞭なもの4タイプがみられるが西浦北遺跡第4号住居跡や台耕地第77号住居跡・第78号住居跡に類例を求めることができる。また、甕はいずれも粘土帯積み上げ痕が顕著で横ナデし成形されており、台耕地第77号住居跡の甕と成形方法が同一の手法とみられる。

如意遺跡の窯跡の年代については、桜沢窯跡とはほぼ同時期の9世紀末から10世紀第1四半期と考えたい。

桜沢窯跡と同時期と捉えられている西浦北遺跡第4号住居跡からは、K-90号窯式の灰釉陶器が出土し、同時期に捉えられている台耕地第78号住居跡に先行する第77号住居跡からもK-90号窯式の灰釉陶器が

出土している。さらに、沼下遺跡第3号住居跡からも同期に並行する末野産須恵器とともに、K-90号窯式の皿が共伴している。

引用参考文献

- 赤熊浩一 1988『将監塚・古井戸一古墳・歴史時代Ⅱ一』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第71集
- 磯崎一ほか 1997『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第191集
- 剣持和夫 2000『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第245集
- 小久保徹ほか 1979『下田・諏訪』埼玉県遺跡発掘調査報告書 第21集
- 酒井清治 1984『台耕地(Ⅱ)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第33集
- 佐藤忠雄 1979『大寄B遺跡・西浦北遺跡』埼玉県大里郡岡部町教育委員会
- 立石盛詞 1983『後張Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第26集
- 田辺昭三 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ
- 昼間孝志 1994『桜沢窯跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第143集
- 増田一裕 1987『南大通り線内遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告 第9集 第1分冊
- 増田一裕 1989『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』本庄市埋蔵文化財調査報告 第9集 第2分冊
- 増田一裕 1987『東富田遺跡群発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告 第10集
- 大和 修 1982『沼下・平原・新堀・中山・お金塚・中井丘・鶴巻・水久保・猪久保遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第16集